

7. 地域振興推進のための基礎調査（参考資料）

参考資料

地域振興推進のための基礎調査

<目次>

はじめに	1
1. 市内各自治会等への調査	2
(1) 連合自治会長調査.....	2
(2) 自治会長調査.....	25
(3) 地域振興団体調査.....	89

はじめに

■調査の目的と方法

本市では、連合自治会、単位自治会、地区社会福祉協議会など(以下、「自治会等」とする。)が中心になって、各地区の地域づくりを進めています。

一方で、生活様式や価値観の多様化に伴い、住民の自治会等に対する帰属意識が希薄化するとともに、自治会等においても担い手の不足や役員の高齢化などが相まって、持続的・安定的な活動・運営が困難になっている事例も散見されます。

そこで本調査は、自治会等を対象にアンケート調査を通して、課題の整理を行い、財政支援、支援体制等の改善など支援の見直しのための検討資料を作成することを目的として実施しました。

■アンケート調査の概要

アンケート調査は、地区市民センター館長を通じて各調査対象に調査票を配布・回収した。回収数等は以下のとおり。

調査票は

調査対象	A-1 連合自治会長等	A-2 自治会長	B 地域振興団体
調査方法	地区市民センター館長を通じて対象者に依頼、回収（紙媒体）		
調査期間	令和7年10月29日～12月19日		
回収数	41/41	716/728	158/158

なお、A-1 連合自治会長等には、四日市市自治会連合会を組織する28地区連合自治会長のほか、各地区で独自の地域を代表する自治会長のうち単位自治会長以外の方を含んでいます。

※注 自由記述について、個人の特定につながるものに関しては修正しています。

1. 市内各自治会等への調査

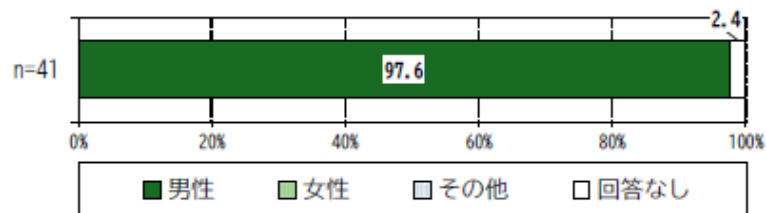
(1) 連合自治会長調査

問1. あなたの住んでいる地区・連合自治会名を教えてください。(記入してください)

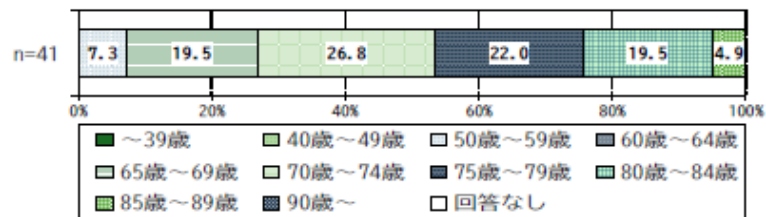
地区	連合自治会
----	-------

問2. あなたの性別と現在の年齢を教えてください。(1つに○)

連合自治会長の性別は、男性が97.6%となっています。

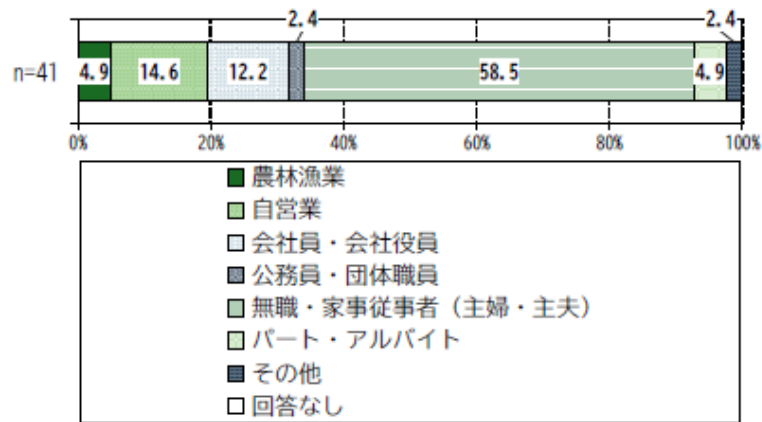


連合自治会長の年齢は、「70歳～74歳」(26.8%)で最も多く、次いで「75歳～79歳」(22.0%)となっているなど、全体の9割超を65歳以上の高齢者が占めています。



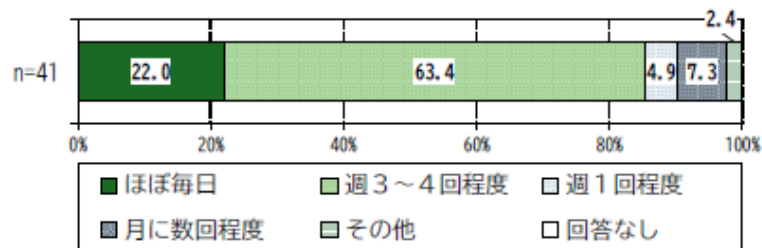
問3. あなたの職業を教えてください。(1つに○)

連合自治会長の職業は、「無職・家事従事者(主婦・主夫)」(58.5%)が6割近くを占め、「自営業」(14.6%)、「会社員・会社役員」(12.2%)が続いています。



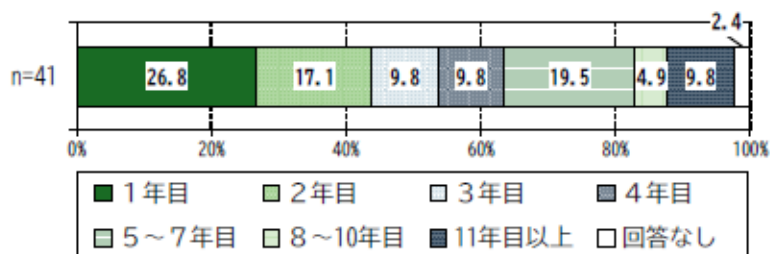
問4. 連合自治会長のしごとは、どの程度ありますか。(最も近いもの1つに○)

連合自治会長のしごとの頻度は、「週3~4回程度」(63.4%)が最も多く、「ほぼ毎日」(22.0%)と合わせると大半が週のうち半分以上しごとがあることになります。



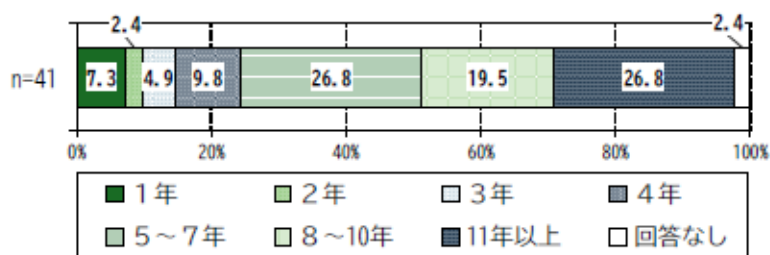
問5. ①あなたは連合自治会長になって何年目ですか。(数字を記入してください)

連合自治会長になってからの期間は、「1年目」(26.8%)、「2年目」(17.1%)を合わせて4割超となりますが、5年以上にわたって務めている連合自治会長も 1/3 程度みられます。



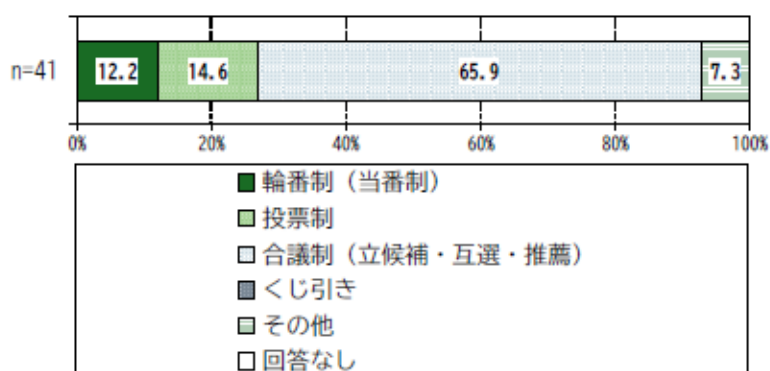
②自治会長の経験は何年ですか。(数字を記入してください)

自治会長としての経験は、「5~7年」及び「11年以上」がともに 26.8%と最も多くなっています。「8~10年」(19.5%)を含めると 3/4 近くが長期間にわたって自治会長を経験していることが分かります。



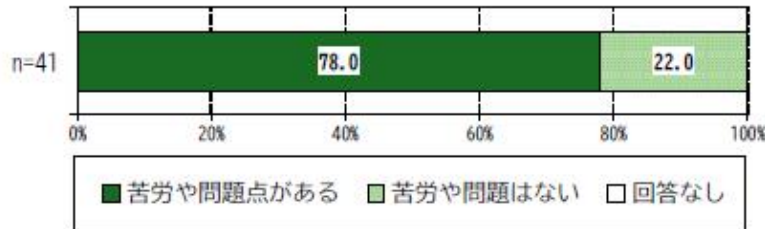
問6. あなたの連合自治会では会長をどのように決めていますか。(1つに○)

連合自治会長の決め方については、「合議制(立候補・互選・推薦)」(65.9%)が最も多く、「投票制」(14.6%)、「輪番制(当番制)」(12.2%)が続いています。



問7. 連合自治会長や役員を決めるにあたり、苦勞していることや問題点がありますか。(1つに○)

連合自治会長や役員を決めるにあたり、「苦勞や問題点がある」(78.0%)が8割近くを占めています。



具体的に苦勞していることや問題点について、34人からの意見が寄せられました。主には、負担感及び報酬等の問題、人材・担い手の高齢化や積極的な人がいないことなどが挙げられています。

【苦勞や問題点】

【担い手不足】

- ・ 町の自治会長がくじや輪番制になり、自分の任期が早く終わることを考えているので、連合自治会を考えることができない自治会長が増えてきているのが問題です。
- ・ 苦勞はないが、やる気、なってもいいと思っている人が少ない。ある程度前もって了解を得るのは多少苦勞するかも。希望者不在、適任者不足。打診しても拒否される。
- ・ 役員は地区内でできるだけ均等に選びたいが、適任者がなかなかいない。

【過大な負担感】

- ・ 地区での協議会、役員が多いが、年毎に問題が多数発生するため、会議が増加傾向となっている。会議等の数を減少させることや会議時間の短縮化を図っているが仕事量が多い。
- ・ 会議の時間がどうしても夜になるので仕事柄困った。

【報酬・評価不足】

- ・ 自治会の役員をほぼ、ボランティアだと考えて活動されている方の中にも、長時間の活動となり、生活資金の不足に伴い就業を望む方も増加しつつある。役員への活動に対する支援・補助は10年前とあまり変わっていない状況に自治会活動の限界が生じているのではないかと、疑問と不安を感じる。
- ・ 連合自治会長としての活動は他の方には目に見えないため評価されておらず、年間の経費もわずかである。他のアルバイトの方が割は良いが、ほとんど時間が取れない。日々持ち出しの毎日である。
- ・ それぞれの地区において、大企業等からの地区への協力金があると思うが、当地区においてはそのような工業地区でもなく、商業地区でもない。そのため、市補助金のみで対応しなければならない。補助金割当の制度も見直しが必要ではないかと思われる。見直しができないのであれば、他の優遇策を検討してもらえようとの意見がある。

【高齢化・人材の偏り】

- ・ 経験のある方は高齢者が多く、現在役員になっていただいている方々も高齢者であり、人材不足に加えて、年齢・体力等の制限がある。
- ・ 若い世代が嫌がる。地域の活動に協力的でない。高齢化の役員が多い。
- ・ 引き受け手がいない。就業年齢が70歳程度まで長くなっているため、就業を理由に断られる。当職はイベント等への参加要請等も多く、プライベートな時間がない。

【制度・仕組み】

- ・ 各町の自治会長の任期がほとんど2年であり、自治会長になった1年目から連合会長になってくれる者がいない。
- ・ 各町よりの自治会長が1～2年で交代しているのでモチベーションが上がらない。
- ・ 直接市に纏わる行事、会議が多い。連合自治会長定例行事、会議の年間スケジュールがあると予定が立てやすいです。
- ・ 任期の問題。単位自治会の規約を盾に2年しか自治会長ができないことから連合自治会の実質6年の任期は全うできないという者が多い。連合自治会役員の業務量がはっきりしていない。あとで後悔することになる状況。

【選出プロセス】

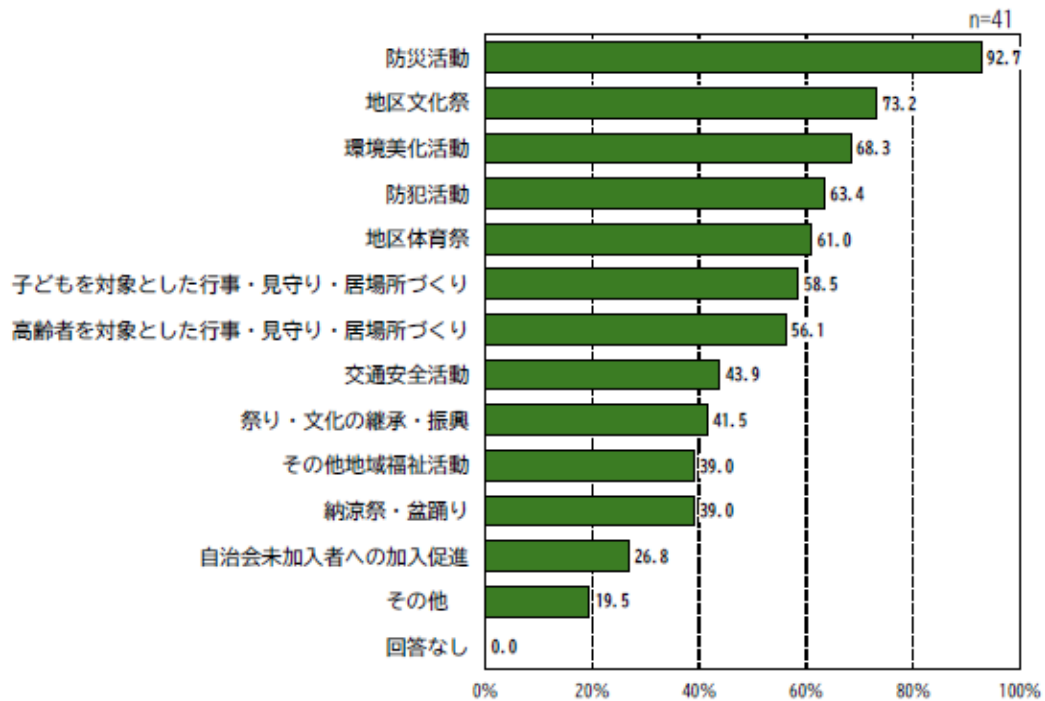
- ・ 希望者がまずいないので、なかなか決まらない。数回の打ち合わせにて無理でも決めているのが実情。
- ・ 会長を投票で1名選出しているのに立候補する人がいて、その人はじゃんけんで決めようと言ったりするので皆が困っている。立候補した人は以前にも経験があるのを盾に以前のことを通そうとしたり、会議を妨害したりします。暴言を吐いたり威嚇したりするので困っている。
- ・ 連合自治会長のなり手が少ない。なつてほしくない人材は出てくるが、任せることはできない。
- ・ 自主防の代表決め等と同じで、役員を決めるためのルールを決めても、その通りに決定できず、選出に苦勞することがある。

【その他】

- ・ 桜並木の対策が一向に進まない上に、まつり自体が実施できず、地区において秋期は文化祭等があるが、春期はないので、元気が出ないように感じられる。地区に元気が出るような行事、桜まつりに代わる行事を検討していく必要を感じている。

問8. 現在、連合自治会としてどのような活動をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

連合自治会としての活動を列挙すると、「防災活動」(92.7%)が最も多く、「地区文化祭」(73.2%)、「環境美化活動」(68.3%)、「防犯活動」(63.4%)の順となっています。



問9. 現在、特に力を入れて取り組んでいる連合自治会の活動内容を具体的にご紹介ください。

連合自治会で力を入れて取り組んでいる活動としては、「防災活動」が最も多く、「環境美化活動」などが続いています。

内容	件数
防災活動	12件
交通安全活動	1件
高齢者を対象とした行事・見守り・居場所づくり	2件
子どもを対象とした行事・見守り・居場所づくり	2件
環境美化活動	5件
祭り・文化の継承・振興	3件
その他	24件

力を入れている活動内容の具体的な記載は37人(49件)あり、防災活動や環境美化等に加え、ハード整備、地区住民の交流・学び、歴史・文化の保存・継承などに力を入れていることがうかがえます。

また、自治会活動の負担軽減・改善にも取り組んでいるところが多いことが分かります。

【内容】

【防災活動】

- ・ 防災活動を主に、小学校防災学習、中学校の防災部に支援を行っている。
- ・ いつ来るかわからない災害のための防災組織及び運営の強化を図っている。特に女性の防災意識の向上を図るため、現在女性防災リーダーを各町より1名ずつ選出し、防災の意識向上を図るとともに組織の強化に努めている。
- ・ 中学生を中心とした防災訓練にて3年間で習得。1年目は避難経路確認、2年目は救出救護、3年目は避難所運営訓練。昼間発災の場合一番頼りになる中学生の啓発。
- ・ 予測される地震等の発災に備えて、指定避難所の開設等の防災訓練。
- ・ 少子高齢化での過疎化を防止するため、安心安全なまちづくりとして津波避難施設の設置に向けた検討。空き家対策、耐震化の推進を行っている。
- ・ 災害時に助け合いができる地域であるための独自備蓄の推進。

【環境美化、環境保全】

- ・ 環境美化、毎年、クリーンアップ地区内清掃、不法投棄回収。
- ・ アルゼンチンアリ被害防止、駆除事業。
- ・ さまざまな自然環境への維持活動を、まちづくり協議会を中心に行っている。
- ・ 高齢化の進む桜並木保全事業について、市当局との協働化移管を検討している。

【ハード整備】

- ・ 県道の拡幅、駅前の整備、こども園整備にともなう跡地整備、農地の大区画化(基盤整備)、市営住宅跡地の整備。
- ・ デマンド交通の実証事業。
- ・ 住みやすい、暮らしやすい環境づくりのための道路整備、環境美化と、自主防災の強化。

・ 道路整備。認定道路に側溝の未設置地区間があり、排水問題。

【地区住民の交流・学び】

- ・ 自治会において地域のコミュニケーションをつなぐ、自治会館にて講演会の実施。
- ・ 児童への出前授業。
- ・ 高齢者の居場所づくり(家にとじこもり対策、会話場所の提供)。

【歴史・文化の保存・継承、芸術活動】

- ・ 祭りの継承(人口減少、少子高齢化対策)85歳以上の高齢者が9.8%在住。ごみ出し、買い物等心配。
- ・ 文化遺産を活用した賑わいのあるまちづくりを目指し、地域の魅力を、若者を巻き込んだ SNS で発信している。
- ・ 地元小・中学校と連携して自治会倉庫への美術作品制作。

【まちづくりの方針の検討】

- ・ まちづくり策定委員会、令和7年度より取り組み開始。現在まちづくり構想骨子案作成(令和8年3月まで)。
- ・ まちづくり。連合役員と団地のお住まいの方とのミーティング。

【多文化共生】

- ・ 外国人対応。

【自治会活動の負担軽減・改善】

- ・ 連合自治会内のデジタル化推進(市民センター、団体事務局、自治会長をつなぐグループウェアソフトを導入:LINEWORKS)。
- ・ DX化を自治会長業務に取り入れて効率化と働き方改革の実証実験を行っている。
- ・ 単位自治会の地区事情等の情報交換、問題点や自治会長としての相談事を聞き入れる会議に努める。
- ・ 毎月1回の会議での情報交換。
- ・ 活動自体の省エネ化等検討し、改善活動を展開している。
- ・ 自治会長のレベルアップのために研修会を実施している(年1回新任自治会長研修会・年2回自治会長研修会・年1回視察研修会)。

問10. 今後、連合自治会として力を入れていきたい活動内容を教えてください。

今後、連合自治会として力を入れていきたい活動としては、「防災活動」が最も多く、「その他地域福祉活動」、「祭り・文化の継承・振興」などが続いています。

内容	件数
防災活動	9件
交通安全活動	1件
高齢者を対象とした行事・見守り・居場所づくり	1件
子どもを対象とした行事・見守り・居場所づくり	2件
その他地域福祉活動	4件
環境美化活動	1件
祭り・文化の継承・振興	4件
自治会未加入者への加入促進	3件
その他	22件

力を入れていきたい活動内容の具体的な記載は 37 人(47 件)あり、自治会活動の負担軽減・改善に向けた取り組みへの関心・意向が大きいことが分かります。また、防災活動や地区住民の交流・学び、子育て支援・福祉のまちづくりに加え、ハード整備、地区住民の交流・学び、歴史・文化の保存・継承などに力を入れていきたいことがうかがえます。

【内容】

【防災活動】

- ・ 発生時等に、住民が抱える問題を考え、官民の協力によって住民は何を考え、どんな行動を起こすべきかを検討していきたい。
- ・ 重大災害が発生したときの連携強化。
- ・ 個人個人のスキルアップ。土嚢のつくり方、火おこし、テントのはり方等避難先での初動体制づくり。
- ・ 安全安心で住みやすい地域を目指した活動。
- ・ 自然災害、発生時の対策、日頃からの意識の持ち方、住民への啓発。
- ・ 防災訓練。訓練内容について細部にわたり検討。

【ハード整備】

- ・ 県道の拡幅、駅前の整備、こども園整備にともなう跡地整備、農地の大区画化(基盤整備)、市営住宅跡地の整備。
- ・ 交通インフラの整備。高齢化率が上がり、バスの運行がなく通院や買い物にも行けない。

【地区住民の交流・学び】

- ・ 地域住民とのコミュニケーション強化。
- ・ 交流拠点としての居場所づくり。
- ・ 毎年行うフェスタを今後充実した内容で実行。
- ・ 中学校への出前授業。

【子育て支援・福祉のまちづくり】

- ・ 子育て世代への支援。
- ・ 団地内の見守り及び高齢者への声掛け。

【歴史・文化の保存・継承、芸術活動】

- ・ 文化遺産を活用したにぎわいのあるまちづくりを目指した地域の魅力の発信。

【まちづくりの方針の検討】

- ・ まちづくり策定委員会。令和8年から住民からの意見聴取、具体的アイデアの検討、案の作成(令和9年3月まで)。

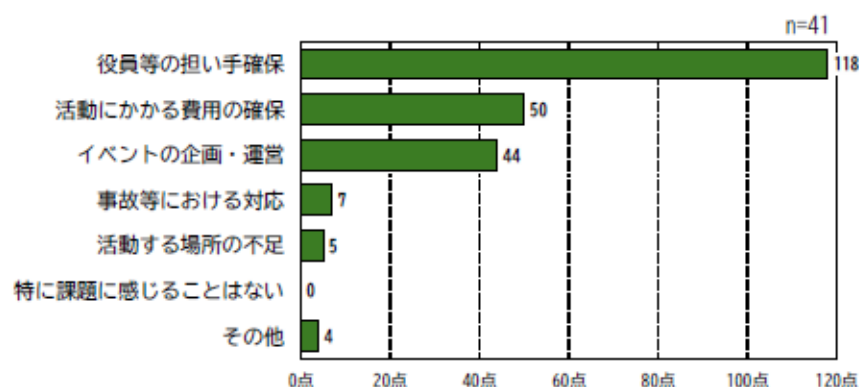
【自治会活動の負担軽減・改善】

- ・ 自治会加入促進。現在、加入促進にむけた資料、パンフレット等の作成を検討中(できれば館長権限予算での対応が望まれる)。
- ・ 次期連合自治会長の育成。
- ・ 高齢化と人口減少での、自治会の統合を考えている。
- ・ 連合自治会役員の経費の増額(市補助金増額が見込めない状況での対応)検討(時期以降の役員の継承の一環として)。
- ・ もっと地域に関心を持ってくれることをつくっていききたい。そして親の意識を変えることができる自治会を目指したい。
- ・ 自治会加入者の拡大対策。
- ・ 各町自治会の会長としての意識づけ。
- ・ 未加入者のただ乗り問題。
- ・ 新住民への自治会加入推進ガイドラインを作成し、市当局と連携して推進したい。
- ・ 特に若い世代に向けた自治会活動への理解と協力、意識啓発活動。
- ・ 少子高齢化に伴う行事等の省力化を推進したい。
- ・ DX化。電子回覧板など各町自治会において試験的に可能な組等から実施検討。
- ・ 地域内各種団体が実施する事業の住民参加率をアップさせたい(地区社協、地区防災協、地区人同協、地区まちづくり協)。

問11. 連合自治会の活動のなかで、課題になっていることは何ですか。(最もあてはまるものから順に3つまで数字を記入してください)

連合自治会が抱える課題を評点化(第1:3点、第2:2点、第3:1点)で算出したところ、活動の中で課題になっていることは、「役員等の担い手確保」(118点)で最も多く、「活動にかかる費用の確保」(50点)、「イベントの企画・運営」(44点)が続いています。

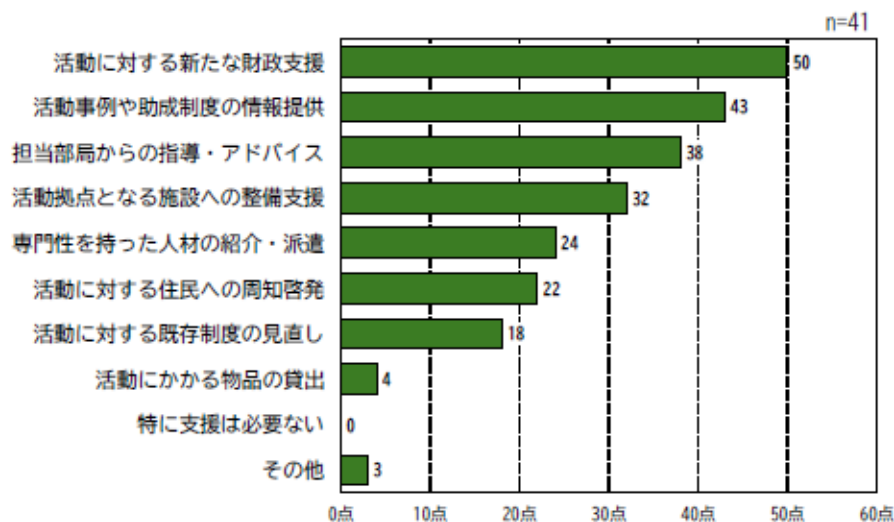
【評点】



問12. 連合自治会の活動を進めるうえで、特に有効だと思う行政の支援はどれですか。(最もあてはまるものから順に3つまで数字を記入してください)

連合自治会の活動を進めるうえで、特に有効だと思う行政の支援は、「活動に対する新たな財政支援」(50点)が最も多く、「活動事例や助成制度の情報提供」(43点)、「担当部局からの指導・アドバイス」(38点)が続いています。

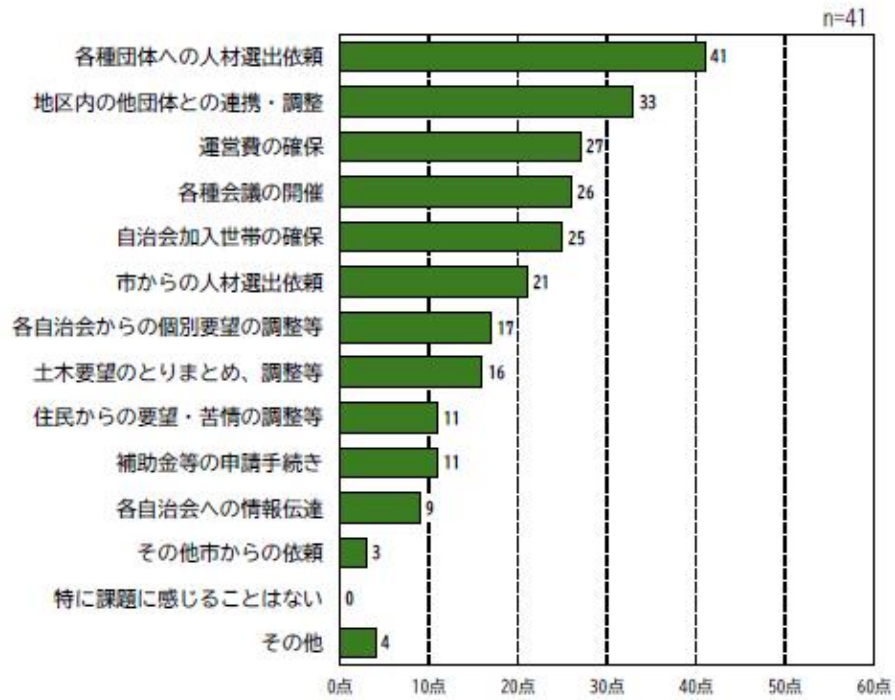
【評点】



問13. 連合自治会の運営のなかで、特に課題になっていることは何ですか。(最もあてはまるものから順に3つまで数字を記入してください)

連合自治会の運営のなかで特に課題になっていることは、「各種団体への人材選出依頼」(41点)が最も多く、「地域内の他団体との連携・調整」(33点)、「運営費の確保」(27点)が続いています。

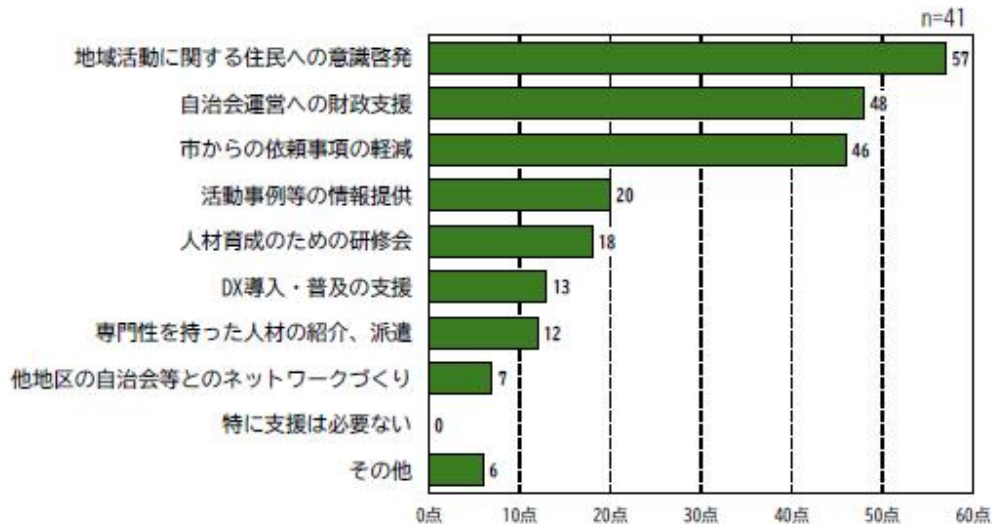
【評点】



問14. 連合自治会の運営を進めるうえで、特に有効だと思う支援はどれですか。(最もあてはまるものから順に3つまで数字を記入してください)

連合自治会の運営を進めるうえで、特に有効だと思う行政の支援は、「地域活動に関する住民への意識啓発」(57点)が最も多く、「自治会運営への財政支援」(48点)、「市からの依頼事項の軽減」(46点)が続いています。

【評点】



問15. 連合自治会の活動・運営上の課題について、解決した事例があれば、具体例をご紹介します。

連合自治会の活動・運営上の課題について、解決した事例を具体的に記載いただいたのは 22人からありました。公園・広場の整備・美化や行政への協力、地域の課題への対応、自治会の問題解決・改善、自治会の会議・合意形成の見直しに関する事例が出されています。

【内容】

- 【公園・広場の整備・美化】
 - ・ 防災公園をつくった。
 - ・ ポケットパークを設置した。
- 【行政への協力】
 - ・ 小学校の統合と跡地利用を完結。
 - ・ 近鉄線高架事業を実施した。併せて周辺のまちづくり美化環境整備を行った。
- 【地域の課題への対応】
 - ・ 地区内で太陽光発電事業進出の際、地域住民、事業者との複数回の会議のうえ、連合自治会と事業者で協定を締結し、現在運用中。
 - ・ 学童特有の財政運営透明化、委託化。

【自治会の問題解決・改善】

- ・東西連合自治会の統合を施行。
- ・単一自治会長経験者でも、連合の役員ができるように会則変更。
- ・県営住宅入居者で構成する自治会から、資金と自由に動ける人材が不足しており、連合自治会費の納入と、地域団体役員の選出が困難であることから、令和7年度をもって連合自治会を脱退したいとの申し出があった。連合自治会と当該自治会が協議をし、当該自治会加入者は低所得者等世帯とみなし、当面連合自治会費を減免するとともに、地域団体役員の選出を免除することで双方納得し、当該自治会の連合自治会からの脱退は回避された。
- ・当地区は何十年も前から住民からの裁判を起こされる事例が多くありました。近年自治会長の訴訟の軽減を図るための基金を設けて、安心して自治会活動ができるようにしてきている。
- ・単位自治会からの応援体制が弱くなってきている。ボランティアで人材を確保し、運営にあてた。
- ・道半ばであるが、市及び団体事務局へのデジタル化によるオンライン申請、報告等が可能となった。
- ・共通アプリ導入によりペーパーレスが図られたほか、各自治会長らとも一体感を感じる。また地区市民センターからの正確な情報がタイムリーに周知されている。
- ・LINEWORKS の導入で情報伝達の容易化と共有化が図れた。地域内各種団体に水平展開していく予定。

【自治会の会議・合意形成の見直し】

- ・単位自治会長が意見を述べる時間を長くとり、極力その日に返答し、中途半端な答弁は避ける。会議に参加しても説明を聞いて終わる会議体では面白くない。自分の意見を発言でき、人に影響を与えてこそ意義を感じるのではないかと思う。早く終わる会議ならメール発信で良い。
- ・私になってから各会長の自己主義的な発言はなくなり、人の気持ちを汲み取ることを常に心がけています。

問16. 連合自治会について、ご意見がございましたら、お書きください。

連合自治会について、29人(43件)のご意見をいただきました。

内容	件数
	15件
住民からの要望・苦情の調整等	1件
自治会加入世帯の確保	2件
市からの人材選出依頼	2件
その他	10件
支援・提言	18件
人材育成のための研修会	1件
専門性を持った人材の紹介、派遣	1件
地域活動に関する住民への意識啓発	3件
他地区の自治会等とのネットワークづくり	2件
市からの依頼事項の軽減	2件
自治会運営への財政支援	1件
DX導入・普及の支援	1件
その他	7件
感情	2件
評価	1件
その他	7件

【内容】

■課題に関すること

【住民からの要望・苦情の調整等】

・ 地区内で小学校及び中学校区が二分されているので、何かと意見の食い違いが出てくる。

【自治会加入世帯の確保】

- ・ 連合自治会とは、今どのような活動をしているか自治会の必要性について具体的に事業内容や活動を住民に周知し、啓発を図っていく必要がある(情報発信の強化)。
- ・ マンション住人の自治会への加入が少ない。

【市からの人材選出依頼】

- ・ 四日市市からの依頼の役職が多く存在します。少しは軽減されるとよりよくなると思いますが、私はさほど負担に感じていないので特に問題ありません。
- ・ 財源不足。自治会費を上げると自治会を抜ける。

【その他課題】

- ・ 通常の活動外に地区内での当職、自治会連合よりの当職等による会議、市等からのイベント等への参加要請等が多くプライベートな時間が少ない。連合自治会長としての仕事等への負担を感じる。

- ・ 住人がいないために、次期自治会長が決まらず。
- ・ 新図書館で、ホール等催しができるように要望します。
- ・ 地区内に市、県、国の議員がいないため、付き合い方もわからないがそもそもどう付き合っ
てよいかわからない。できるだけ関わらないようにしている。
- ・ 人手不足(人材が育たない。現代社会では参加してこない。特に女性は不参加傾向)。
- ・ 役員参加住民が高齢化で高齢者と若い方との連携や生活交流がなかなかうまくいかず、活
性化に向かって何を行っていけばよいか、解決したらよいかわからない。
- ・ 単位自治会での役員(自治会長、書記、会計、副会長)の選出についての問題。自治会長とし
て選任されても責任感のない会長が多い、単年で終わってしまう。四日市では730ぐら
いの自治会があるが、何も問題がないのか。自治会が無くても住民は困らない。
- ・ 巨大地震対応。
- ・ 地域活動を担う人材の発掘が重要であるが困難でもある。
- ・ 当地区は、活動のための補助金はいただいておりますが、各種講座については離れたセンター
まで行っている状況です。

■支援・提言に関すること

【人材育成のための研修会】

- ・ 将来、高齢化が進み人口減少になり、組、町、地区と再編を考えて行く時が来ると思います。
そのときの問題解決のノウハウを指導することを、考えておくことが必要です。

【専門性を持った人材の紹介、派遣】

- ・ 若い世代に対しては SNS 等で共感してもらえるよう、自分たちで工夫して広報すればよい
が、今の実態をみると広報できる人材に乏しいため、専門家を派遣していただき、育成するよ
うなプログラムがほしい。

【地域活動に関する住民への意識啓発】

- ・ どの連合自治会長も高齢者が多い。現役世代でもできることを行政のPRでもっと広めて
ほしい。
- ・ 住民に対して連合自治会等、役員として活動している人たちにスポットが当たるよう、積極的
に市としても広報してほしい。高齢者には自分たちで広報するより第三者から広報される方
がまだまだ効果はあると思う。
- ・ 自治会長が自分の地域でそのような人材を見つける努力が必要であり啓発していきたい。

【他地区の自治会等とのネットワークづくり】

- ・ 四日市市、四日市市議会、自治会連合会、強力な連携及び協議を行ってほしい。
- ・ 当連合自治会は役員が1年で交代します。他校区は複数年役員を継続されていることもあ
り、事業に継続性があるものは既に進められているものについていく形となってしまいます。
当会の課題でもありますが、経過流れが分かる顧問的な存在が必要ではと思います。また、
地域性も生い立ちも違うのでそれぞれ相互理解が必要です。

【市からの依頼事項の軽減】

- ・ 役員参加の行事が多すぎるので、削減願いたい。
- ・ 会長負担を少なくすることで会長のなり手が増える！

【自治会運営への財政支援】

- ・館長権限予算を活用するため、地域で審議して使用目的の制限は無しにしてほしい。

【DX 導入・普及の支援】

- ・今時、連絡ツールとして、文書でなくスマートフォンの LINE で一斉伝達ができ、出欠等も瞬時に出来るので、活用を考える時期ではないですか。

【その他支援・提言】

- ・行政、自治会五分五分で運営できたら。素案ができるまで意見交換しては。
- ・新規事業があるときに、近隣自治会に意見等を聞く場がないと思う。今回の事業でも、市指導の下これありきで話が進んでいる。意見が言える場が少ない。
- ・マンション等の建設申請時に自治会加入を全世帯が加入するという条件にて建設許可を出す。
- ・諸会議、諸行事の減少を！
- ・市の職員や OB が積極的に自治会活動に関わり、役員にも立候補してほしい。特に OB はさせるべき。
- ・情報のサービスの格差が無いよう対応をお願いします。

■感情に関すること

- ・地区内のこども会、老人会が解散になるので寂しいです。
- ・真剣に答えようとする意識が、質問の内容自体に疲れてしまいました。

■評価に関すること

- ・自治会長についても自ら志願した人たちであれば良いのですが、任期終了を待ちながら協力してもらっているので多くを期待するのは無理があると思います。

■その他に関すること

- ・一にコミュニケーション、二にコミュニケーション。話し合いをする中で必ず解決できる。これを実践していきたい。決めごと、押しつけはダメ。自由に活発に議論していく中で良いことを見つけていく。常にまちづくりは地域のため、皆様のため、将来住み続けられるとしてみんなで確信をもってやっていきたい。
- ・会議で各自治会に報告はするが、上がってくる問題等は少ない。各自治会で対応しているものと思う。
- ・他団体や会との協力性、コミュニケーションをとる場だと思う。
- ・近々、単位自治会が組織として運営できなくなり、解散する恐れも出てくる(特に市営住宅の自治会)。そのようになったとき、連合自治会会長としての立場、意見を述べる者としての対応策をどうしたらよいか？見過ごすのか、慰留するのか。
- ・書面での回答より、市民生活課の部長、他担当職員と対面で語り合う時間を持ちたい。
- ・少子高齢化する地域コミュニティをどう守り、どう活性化するか。8かけ社会と言われるが、ポテンシャルを保ったままで規模のサイズダウンを図らなければ、貧相で魅力のない地域になってしまう。ハードの整備は行政、ソフトの整備は地域の連合自治会の役割と考えている。魅力あるまちづくりが魅力ある人材の発掘、創出につながると考えている。そのための日常環境

の整備、調整が連合自治会の役割と考えている。市民センターと連携して住みやすいまちづくりを目指したいと思う。

- ・私になってから各会長の自己主義的な発言はなくなり、人の気持ちを汲み取ることを常に心がけています。

地域振興推進のための基礎調査

連合自治会長調査

連合自治会長の皆様には、日頃から本市の市政運営にご協力いただき、ありがとうございます。

本市では、自治会等を中心とした地域振興を推進するため、皆様にご尽力いただくとともに、市としても地区市民センター等を拠点に支援を行ってまいりました。

しかし近年、人口減少や生活様式・価値観の多様化など、地域を取り巻く環境が目まぐるしく変化し、活動や組織の状況が変わりつつあるものと思われまます。

そこで、連合自治会長の皆様を対象に、現状や課題、今後の方向性についてお考えをお聞きしたく、アンケートを実施します。

ご多用のところ、誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願い申し上げます。

令和7年 11月

四日市市長 森 智 広

■ ご回答にあたってのお願い ■

1. ご回答にあたっては、それぞれの設問でお願いしている数だけ、答えの番号に○印をつけてください。設問のなかには、数字や文章で記入いただくものもあります。
2. 調査票は、ご記入の上、**11月〇〇日(〇)**までに地区市民センターの館長にご提出ください。
3. ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

〇〇地区市民センター〔担当:〇〇(館長)〕

☎ 059-〇〇〇-〇〇〇〇

月曜日～金曜日の午前8時30分～午後5時15分まで

問1. あなたの住んでいる地区・連合自治会名を教えてください。(記入してください)

地区	連合自治会
----	-------

問2. あなたの性別と現在の年齢を教えてください。(1つに○)

性別	1. 男性	2. 女性	3. その他
年齢	()歳 ※数字で記入してください		

問3. あなたの職業を教えてください。(1つに○)

1. 農林漁業	5. 無職・家事従事者(主婦・主夫)
2. 自営業	6. パート・アルバイト
3. 会社員・会社役員	7. その他()
4. 公務員・団体職員	

問4. 連合自治会長のしごとは、どの程度ありますか。(最も近いもの1つに○)

1. ほぼ毎日	4. 月に数回程度
2. 週3～4回程度	5. その他()
3. 週1回程度	

問5. あなたは連合自治会長になって何年目ですか。

また、自治会長の経験は何年ですか。(数字を記入してください)

連合自治会長 ___年目	自治会長の経験 ___年
【期間】(西暦) ___年から(西暦) ___年	【期間】(西暦) ___年から(西暦) ___年

問6. あなたの連合自治会では会長をどのように決めていますか。(1つに○)

1. 輪番制(当番制)	4. くじ引き
2. 投票制	5. その他()
3. 合議制(立候補・互選・推薦)	

問7. 連合自治会長や役員を決めるにあたり、苦労していることや問題点はありますか。

(1つに○)

1. 苦労や問題点がある	2. 苦労や問題はない
【苦労や問題点】	

問8. 現在、連合自治会としてどのような活動をしていますか。(あてはまるものすべてに○)
()には、活動の概要をお書きください。

- | |
|----------------------------------|
| 1. 防犯活動 () |
| 2. 防災活動 () |
| 3. 交通安全活動 () |
| 4. 高齢者を対象とした行事・見守り・居場所づくり
() |
| 5. 子どもを対象とした行事・見守り・居場所づくり
() |
| 6. その他地域福祉活動 () |
| 7. 環境美化活動 () |
| 8. 納涼祭・盆踊り () |
| 9. 地区体育祭 () |
| 10. 地区文化祭 () |
| 11. 祭り・文化の継承・振興 () |
| 12. 自治会未加入者への加入促進 () |
| 13. その他 () |

問9. 現在、特に力を入れて取り組んでいる連合自治会の活動内容を具体的にご紹介ください。

【内容】

問10. 今後、連合自治会として力を入れていきたい活動内容を教えてください。

【内容】

問11. 連合自治会の活動のなかで、課題になっていることは何ですか。
 (最もあてはまるものから順に3つまで数字を記入してください)

1. 役員等の担い手確保	5. 事故等における対応	
2. イベントの企画・運営	6. 特に課題に感じることはない	
3. 活動にかかる費用の確保	7. その他	
4. 活動する場所の不足	()	
第1	第2	第3

問12. 連合自治会の活動を進めるうえで、特に有効だと思う行政の支援はどれですか。
 (最もあてはまるものから順に3つまで数字を記入してください)

1. 活動事例や助成制度の情報提供	6. 活動に対する既存制度の見直し	
2. 専門性を持った人材の紹介・派遣	7. 活動にかかる物品の貸出	
3. 担当部局からの指導・アドバイス	8. 活動に対する住民への周知啓発	
4. 活動拠点となる施設への整備支援	9. 特に支援は必要ない	
5. 活動に対する新たな財政支援	10. その他	
第1	第2	第3
【内容】※具体例があれば記入してください		

問13. 連合自治会の運営のなかで、特に課題になっていることは何ですか。
 (最もあてはまるものから順に3つまで数字を記入してください)

1. 各種会議の開催	8. 各種団体への人材選出依頼	
2. 各自治会への情報伝達	9. 市からの人材選出依頼	
3. 各自治会からの個別要望の調整等	10. 土木要望のとりまとめ、調整等	
4. 地区内の他団体との連携・調整	11. その他市からの依頼	
5. 住民からの要望・苦情の調整等	()	
6. 運営費の確保	12. 補助金等の申請手続き	
7. 自治会加入世帯の確保	13. 特に課題に感じることはない	
	14. その他	
	()	
第1	第2	第3

問14. 連合自治会の運営を進めるうえで、特に有効だと思う支援はどれですか。
 (最もあてはまるものから順に3つまで数字を記入してください)

1. 人材育成のための研修会	6. 市からの依頼事項の軽減
2. 活動事例等の情報提供	7. 自治会運営への財政支援
3. 専門性を持った人材の紹介、派遣	8. DX 導入・普及の支援
4. 地域活動に関する住民への意識啓発	9. 特に支援は必要ない
5. 他地区の自治会等とのネットワークづくり	10. その他

第1	第2	第3
【内容】※具体例があれば記入してください		

問15. 連合自治会の活動・運営上の課題について、解決した事例があれば、具体例をご紹介します。

【内容】

問16. 連合自治会について、ご意見がございましたら、お書きください。

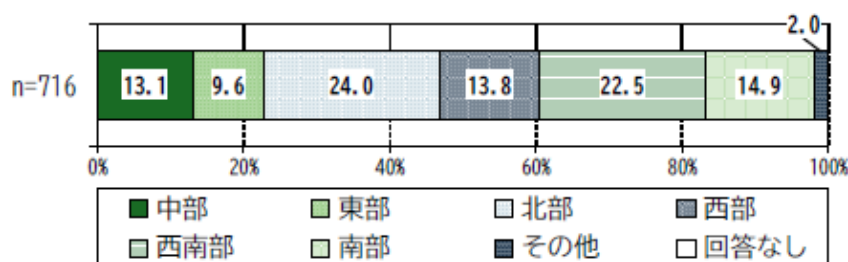
--

調査は以上です、ご協力ありがとうございました。
 11月〇〇日(〇)までに地区市民センターの館長にご提出ください。

(2) 自治会長調査

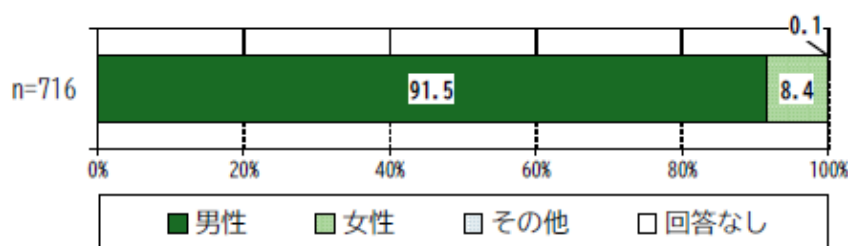
問1. あなたの住んでいる地区・自治会名を教えてください。

回答者の住んでいる地区は、「北部」(24.0%)が最も多く、「西南部」(22.5%)、「南部」(14.9%)が続いています。

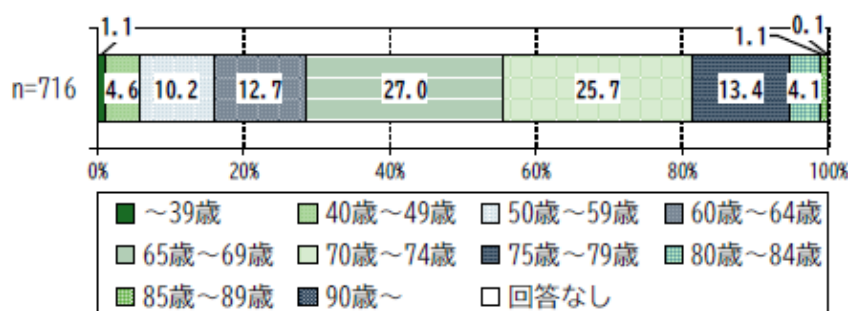


問2. あなたの性別と現在の年齢を教えてください。(1つに○)

自治会長の性別は、「男性」(91.5%)が9割を占めています。

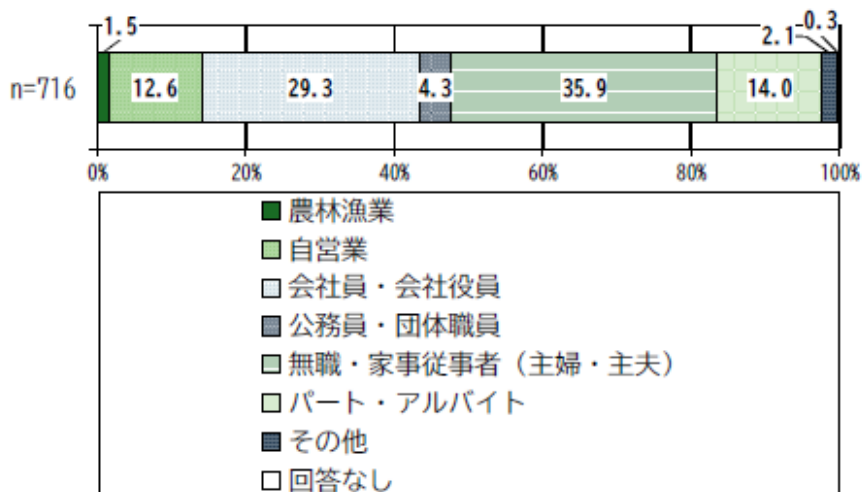


自治会長の年齢は、「65歳～69歳」(27.0%)で最も多く、次いで「70歳～74歳」(25.7%)、「75歳～79歳」(13.4%)となっているなど、全体の7割超を65歳以上の高齢者が占めています。



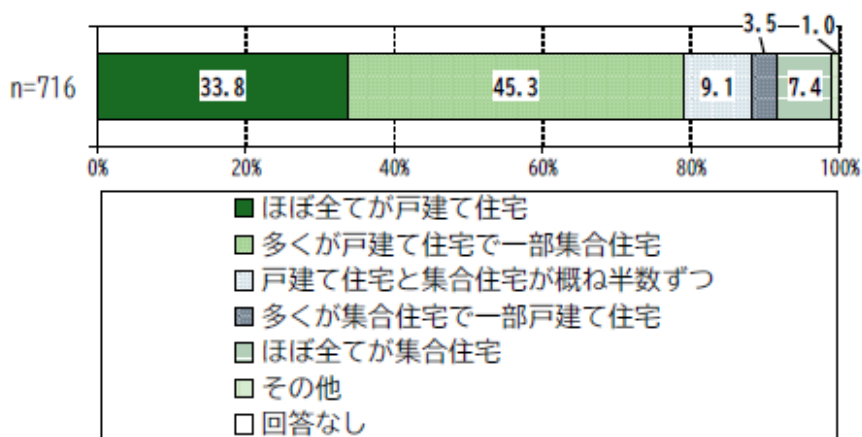
問3. あなたの職業を教えてください。(1つに○)

自治会長の職業は、「無職・家事従事者(主婦・主夫)」(35.9%)が最も多く、「会社員・会社役員」(29.3%)、「パート・アルバイト」(14.0%)が続いています。



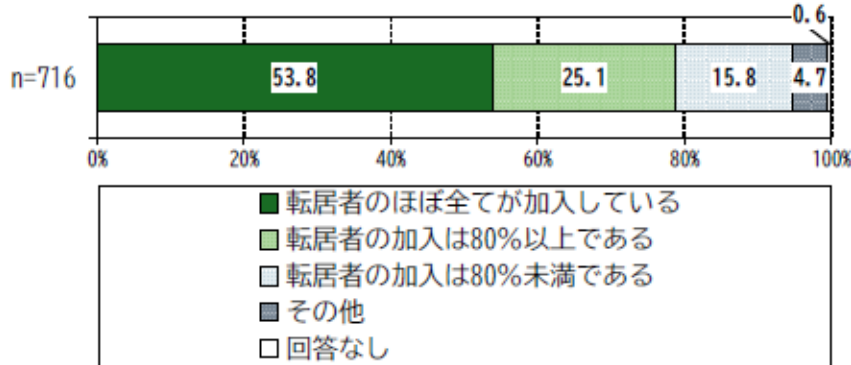
問4. あなたの自治会の住宅環境について、現在の状況を教えてください。(1つに○)

自治会の住宅環境は、「多くが戸建て住宅で一部集合住宅」(45.3%)が最も多く、次いで「ほぼ全てが戸建て住宅」(33.8%)、「戸建て住宅と集合住宅が概ね半数ずつ」(9.1%)となっています。



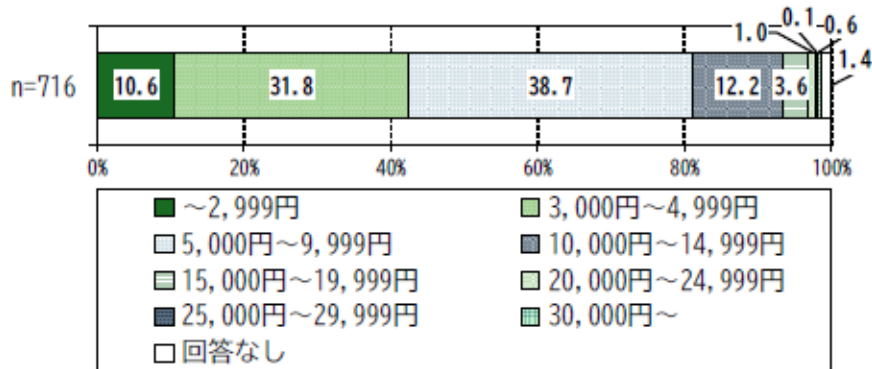
問5. あなたの自治会に新たに転居してきた人は、自治会に加入していますか。(1つに○)

転居者の自治会への新規加入は、「転居者のほぼ全てが加入している」(53.8%)が最も多く、「転居者の加入は80%以上である」(25.1%)、「転居者の加入は80%未満である」(15.8%)と続いています。



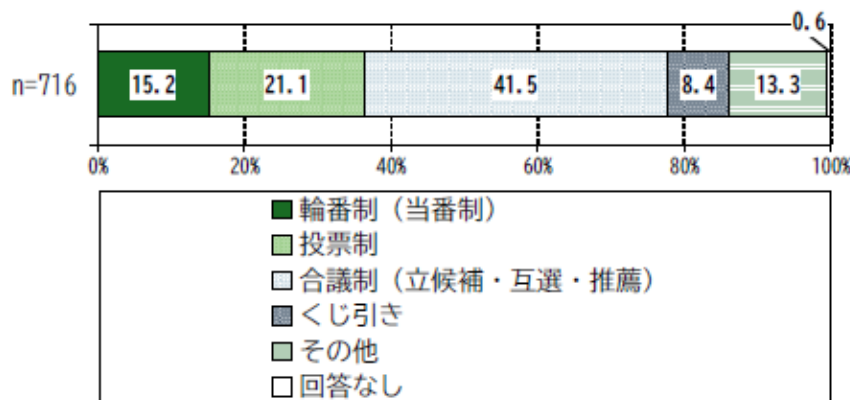
問6. あなたの自治会の自治会費(年額)はいくらですか。

自治会の自治会費(年額)は、「5,000円～9,999円」(38.7%)が最も多く、「3,000円～4,999円」(31.8%)、「10,000円～14,999円」(12.2%)が続いています。



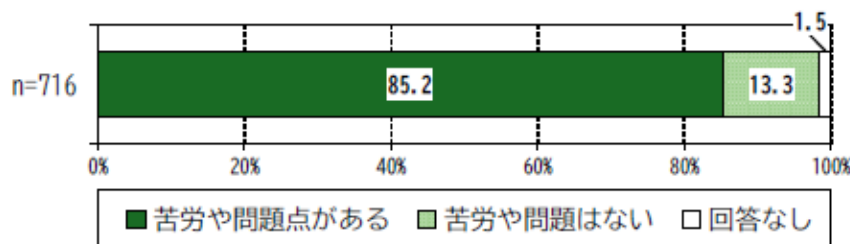
問7. あなたの自治会では会長をどのように決めていますか。(1つに○)

自治会長の決め方については、「合議制(立候補・互選・推薦)」(41.5%)が最も多く、「投票制」(21.1%)、「輪番制(当番制)」(15.2%)が続いています。



問8. 自治会長を決めるにあたり、苦勞していることや問題点がありますか。(1つに○)

自治会長を決めるにあたっては、「苦勞や問題点がある」(85.2%)が大半を占めています。



具体的な苦勞していることや問題点について、具体的な意見が 604 人から寄せられました。積極的な人材・担い手の不足や高齢化などが苦勞や問題点の原因となっていることがうかがえます。

【苦勞や問題点】

【積極的な人材・担い手不足】

- ・ 引き受けていただける方がいない。輪番制をしている自治会もあるが、住民の名前や顔がつかないのでは務まらない。なかなか大変な仕事です。
- ・ 後継者が現れない。立候補する者がいない、推薦しても受け入れてくれない故に互選となる。
- ・ 自治会長他役員は 70 歳以上免除規則がある。各年代に人材がおらず、若手に頼みに行くが断られる。自治会の経験不足、知識不足がある。
- ・ 自らやろうとする人がいない。
- ・ 自治会活動に必ずしも理解している自治会員が多くはない。
- ・ 共働き、夜勤、土日勤務のためできないと主張する人がいる。

- ・自治会長という役職に対してアレルギーがあり、仕事量を以前より少なくしてもなかなか理解してもらえず、自分では無理、仕事があるから無理と言われてしまう。
 - ・在宅している人は高齢者でやりたがらない。60代前半から後半者は仕事をしている方が大多数で、シニア雇用のため休みや早退が多いと次年度の契約更新時に不利であるため。
 - ・立候補する方はおらず、現状は年の順になっている。ここ数年は年齢順(70歳→67歳)で副自治会長が次期自治会長になる。
 - ・①会議会合が多く、会社勤めであっても時間的な面で容易に対応ができる人材であること
②交渉力、対応力、決断力がある人材であること③専門的な問題にも挑戦できる人材であることが必要ではあるが、兼ね備えた人材は少ないのが実態(自治会が抱える問題は専門性が高い)。事案事例の記録を後世に残すことができる人材であること(エビデンスが残せること)。言った聞いていないは後の祭り。
 - ・社会貢献、地域貢献をしなければという思いの人が少ない。
 - ・なり手が少ない。広報活動費の増額を希望(月1万円)。
 - ・高齢化に伴い候補者の確保が難しくなっており、特定の個人が長期間会長を務めなくてはいけない状況が発生する懸念がある。
 - ・町内は高齢者が多く、活動できる年齢層の方はほぼ有職者で、自治会活動時間がなく、また活動に関心が薄いため選出に苦勞する。
 - ・高齢者が多く、しかも女性が多いのでなかなか手が足りない。
 - ・役員の手が足りない。前会長が長い間やりすぎた。
 - ・戸建て世帯が少なく、比較的若年世帯が多いため7年目に役が回ってくる。当自治会は会則で会長を1期勤めると3期6年は免除している。若年世帯は自治会に関わりたくないのが実情。
 - ・ほぼボランティアみたいなもので日々の業務や責任が増えることに積極的になれる人はいない。せめてしっかりと報酬を与えるか、自治会の運営を外部にするかしてほしい。
 - ・次の候補者が見つからない場合、次年度も続けることになる。立候補する人はいない。
 - ・自治会長をほとんどの人が受けてくれない。地の生まれの人間が少なく、面識もないので非常に苦勞する。
 - ・自治会に協力する人は多いと思いますが、役員となると警戒している様に思います。また、時間に余裕が出てくる人は高年齢になるため敬遠している。魅力ある収入があれば考える人も多くなると思います。
 - ・なり手がいないので、最長任期5年を超えて自治会長をしている。
 - ・協力や絆が年齢差により若年層に理解されにくくなっている。
 - ・なり手不足があり、今の時代65～70歳を人選してはいるが、まだまだ働きたいと70歳まで言う人が多く、自治会に非協力的である。70～75歳は体力的にと断られ、どうしても現役の人は仕事を優先して人選に苦勞している。
- 【高齢化と現役世代の不在】**
- ・高齢者が多いため候補となる人が少ない。
 - ・就労年齢が高齢化しており、引き受ける人が少ない。

- ・若い人が少ない。同じ人が2、3人で代わる代わるやっている。
- ・高齢者が多い、一人暮らしも多い。
- ・高齢化が進み、役員のなり手がいない、協力がいいです。外国の方がいい。
- ・現状では立候補者もおり問題はないが、自治会長以下役員全体が在職期間も長く、固定化・高齢化してきており、近い将来問題となる。
- ・高齢者が多くて、やってもらう人が限られてしまう。
- ・老化とともに神経痛等の影響でやり手がいない(テントはり、机椅子の準備がづらい)。
- ・若い世代(30～50代)は興味がない。現役世代は仕事が忙しく時間がない。やりたがる人がいない。
- ・なり手がいないので、輪番制で強制的に決めているため、まともに自治会運営ができない役員になるところがある。前回の役員がまともなことができなかったため、余分な後処理をしないといけない。
- ・現役世代の忙しさ。結果できる人が40代になり、現役世代ということから仕事や家庭で忙しく時間が取れない。

【過大な負担感】

- ・世帯数が少なくなかつ高齢者が多いため、様々な役職を兼務しており負担になっている。
- ・地域の行事が多く多大な時間を要す。
- ・自治会長の仕事が多く、拘束される時間、責任とやりがいとが釣り合わず担い手がいない。
- ・会長の報酬が低すぎる。
- ・地区での協議会、役員会が多いが、年毎に問題が多数発生するため対応協議会等の会議が増加傾向となっている。会議等の数を減少させることや、会議時間の短縮化を図っているが、仕事量が多いように感じている。
- ・自治会の役員をほぼボランティアでと考えて活動されている方の中にも、長時間の活動となり、生活資金の不足に伴い就業を望む方も増加しつつある。役員への活動に対する支援・補助は10年前とあまり変わっていない状況に自治会活動の限界が生じているのではないかと、疑問と不安を感じる。
- ・連合自治会長としての活動は他の方には目に見えないため、評価されておらず、年間の経費もわずかである。他のアルバイトの方が割はいいが、ほとんど時間が取れない。日々持ち出しの毎日である。
- ・自治会行事や地区団体行事が多いので、拒否感を感じる。現実、現役世代(最近では56歳)では難しいと思う。逆に、年配者ではデジタル化に対応が難しく苦勞する。
- ・主な活動が地域の草刈り、除草及び神社の祭りの準備、片付けであり、自治会長としての地域住民への安心安全の提供という使命への達成感が得られない。本来の自治会活動から外れている。
- ・郵便物、書類が多すぎる。アナログな間は無職でないと困難。Logo フォーム等の活用を求む(市のLINEも)。
- ・会合が多い、雑用が多い。地区および連合からの報酬が少ない。もう少し多いと、次の人を探しやすい。

【選出制度の機能不全】

- ・ 投票制にしたいがそのための準備を思うと手を付けられない。
- ・ 各組からの候補者選出が困難な状況のため、合議制へと規約を変更したが、立候補者・推薦者が得られず長年にわたり会長職、役員職をせざるを得ない状況が続いている。
- ・ 一度役員(会長、副会長、会計)をすると、以降免除される規定になり現役バリバリの人が投票で選ばれる。
- ・ 投票制だが、年齢を60歳以上にしないと当選者に受けてもらえないだろう。選挙から逃げる人もいる。
- ・ 投票に際し候補者の情報が少ない。
- ・ 組単位の輪番であるため、組の誰に決めるかは、当然手をあげる人はいないのでくじ引きになる。会長は誰でもできるものではないので、年齢や障がいの有無などあらかじめ選出条件を明らかにしなければならない。
- ・ くじ引きという強制選出になっている。新入居者にも強制選出となっていて、不慣れなため進行ににくい。会長は長年の住居者の方が適していると思うが、意見のみ通されるので会則すら新しくできない。
- ・ 戸建て住宅の組長15名から翌年の自治会長を選出しているが、組の中で過去に選出されていないところから自治会長をくじ引きで選出しており、不公平感がある。
- ・ 決めるにあたり、選挙ではあるが序列年齢、高齢者から選出で現在65～70歳年齢層が近年当自治会長を務めている。年齢層の地区内居住者のばらつき、定年年齢の引き上げもあり、在職等の理由で会長選出時毎年苦勞している。
- ・ 自治会内の組での輪番制をとっており、組内での選任に時間を要す。自治会役員の役割、責任、提供価値の理解が得られにくいのも立候補者が出ない理由の一つか？
- ・ 輪番制であるにも関わらず、輪番に入ってくれない世帯がある。輪番制に納得できず自治会を抜ける世帯も出てくる。
- ・ 月に1度自治会があり、また他の行事に参加しなければならないときも居住者の理解や協力が得られない。マンションの世帯数が多く、輪番制にしても参加しない方が多いから毎年同じ人が役員をせざるを得ない。
- ・ 投票制のため、家庭の事情や本人の適正、資質に問題があっても選任されればやらざるを得ない。現職が辞退しない限り延々と続くことが多い。しかし地元によくいる方が選ばれるのでいい加減な人が選ばれない利点もある。
- ・ 会長職は副会長に選挙で選出されたあと3年目で自動的に会長となる。ただし、副会長を選出するにあたり、高齢者と若手現役が多いなか選出に苦勞している。
- ・ 私の場合は副会長をやっていてなんとなく外堀を埋められて会長をやる羽目になった。私が辞めたら次期会長はおそらくくじ引き、じゃんけんで決めるしかないと思う。自分がそうであったように就任当初はストレス大である。
- ・ 今年度くじ引きで会長となりましたが、引継がほぼなく、大量の書類だけ渡されわからないことばかりである。
- ・ 世帯人数(男)が少なく、何回も当たる。

- ・世帯数が少ないため、毎年何らかの役をやらざるを得ない(氏子総代、自主防災隊、安協、人権等)。そのため、当番制であり決めるのに苦労はないが、絶対に何かやらなければならないのは仕方ないが、負担には感じる。
- ・人員、人材不足、高齢化による人員減少及び今まで輪番制であったが、経験者が増え、未経験者は限定され適任者が不足して、今後は多年にわたり継続されることが懸念される。
- ・現在は近所のメンバーで立候補して回しているが、そうでない場合は対象者を招集して何度も協議したりしている。なかなか決まらない。
- ・役員種の中で負担が多いということで自選は少なく、くじ引き等で消極的選考が多い。1年の輪番制で継続性がなく、活動は消極的になりやすい。
- ・高齢化が進み自治会長をされる人が少なく、会社員や子育て世代の方が候補者となり家にいないため連絡が取りにくい。輪番制にしたが同じ人が何度もしなければならぬ組もある。
- ・敬老会が健在の時は組織も充実しており、自治会への協力も得られましたが、敬老会の解散により、自治会長を引き受ける方がいないのでくじ引きで決めている状況です。最初は引き受けますが、今年はドタキャンが相次いでいるのが現状。
- ・6つの組からの輪番制で、当該組から自治会長を決めている。最初は立候補する方を募集するが、基本的に立候補者がいないため、組長が各戸を回って説得しているのが実情である。働き世代にとっては負担でしかないので、誰もやりたがらない。
- ・60歳代の会員で推薦会議を開催するが、誰が対象か分からない。推薦会議を案内してもできない。
- ・互選・推薦しながら決めているが、どうしても期間が長くなってしまふ。せめて4年毎に交代していくことを希望しているが、会計も同じ。
- ・10年前に臨時総会で4役員(自治会長、副会長2名、会計)を輪番制で決めたにもかかわらず、数年後にはそれも機能せず崩壊している。
- ・あらかじめ自治会長をしてくれる人を探し、頼み込んでOKを貰った人を投票するような慣習になっていること。
- ・推薦、依頼などの方法で決まることはない。結局強制力のある互選と協議(それでも決まらないときは全体投票)しかない。このような状況では組織力(意欲)は次第に減退していくのではないかと心配。
- ・輪番制であるがなかなか引き受け手がない。また他所からの転入者は自治会には入会していただけるが自治会活動への関心がないのか参加率が低く、これからの課題として思っています。
- ・高齢化による互選・推薦が少なくなっている。
- ・未来へ向けての役員の決め方。
- ・全14組を4ブロックに分け輪番とし、ブロックのなかから会長を選出しているが、昨今の定年延長により、勤めに出る人がほとんどで選出が困難な状況。
- ・くじ引きで決めているので若手の方が当たると苦勞する。65歳以上の方々が自治会活動に消極的である。

- ・自治会を8つの組に分割、各組の輪番は問題ないが、各組内での選出に苦慮しているのが現状である。

【コミュニティの希薄化】

- ・高齢者世帯が増え、役員を断るケースが多く苦勞している。また、自治会脱退世帯が増え始めている。
- ・自治会の順番が回ってくるので退会する方がいる。
- ・商店街の中の自治会であり、店舗や飲食店が多く、居住者の割合が低い。居住者の年齢は高く、商業者は自治会の関心が薄く、役員の担い手が少ない。
- ・マンション単自治会として立ち上げる必要があったため、賛否がある中立ち上げた。自治会長になる候補者がいない。マンションの特質上、自治会に関心がある人がいない。自治会に関わりたくないため、マンションを選択している居住者もいる。
- ・加入者が少ないうえ、1年交代なので輪番制でも回ってくるスパンが短い。
- ・2032年まで決まっているが、その後どうなるか？
- ・行政からの要求が多い。
- ・地域の高齢化が進んでいるため、なり手が現役世代に移行していくと思われるが、議論ではなく報告が主目的の会議や人数合わせ的なイベント、行事の参加はモチベーションが下がるので、運用の見直しが必要と考える。誰もやりたがらない。
- ・今までは輪番制で行ってきたが、組においては世帯の少ない組があり、高齢者が多く、なかなか手がないので、今後は組替えなどを検討している。

【自治会離れ・脱退】

- ・自治会または子ども会(育成会)に入らないご家庭が少なからずいます。そうなると地域の力(イベント力、防災力等)の減退が少なからず出てくるのではないかと心配です。
- ・自治会自体の必要性がない。
- ・冠婚葬祭等も家族葬が中心になってきているなど、地域コミュニティが希薄化しており、自治会に入っていなくても社会生活に支障もないので、自治会の役員をしなければいけないのなら、自治会を脱会するという人も出てきている。

【業務の不透明さ】

- ・引継がよくわからず、現状わからないことがわからない。
- ・引継ぎ内容等の説明は事前に何もなし、事後に準備説明を受けた。文書化はされていない。
- ・21世帯と少ない人材のなかから人選となると、候補に挙がる人は限られてくる。次にお願いでできる方が現役で勤めている場合、お願いしづらく、自分が長く会長をするという選択になる。

【存在意義】

- ・2期やってみたところ、去年は組長全員が自治会活動に前向きであったので、運営がスムーズだった。それで今年度もやることにしたが、今年度はしょっぱなから月一の組長会は多すぎると不満の声が上がり、悪貨は良貨を駆逐するがごとく、反対意見を言う人に他の組長も同調、やる気が失せて運営につまずく。

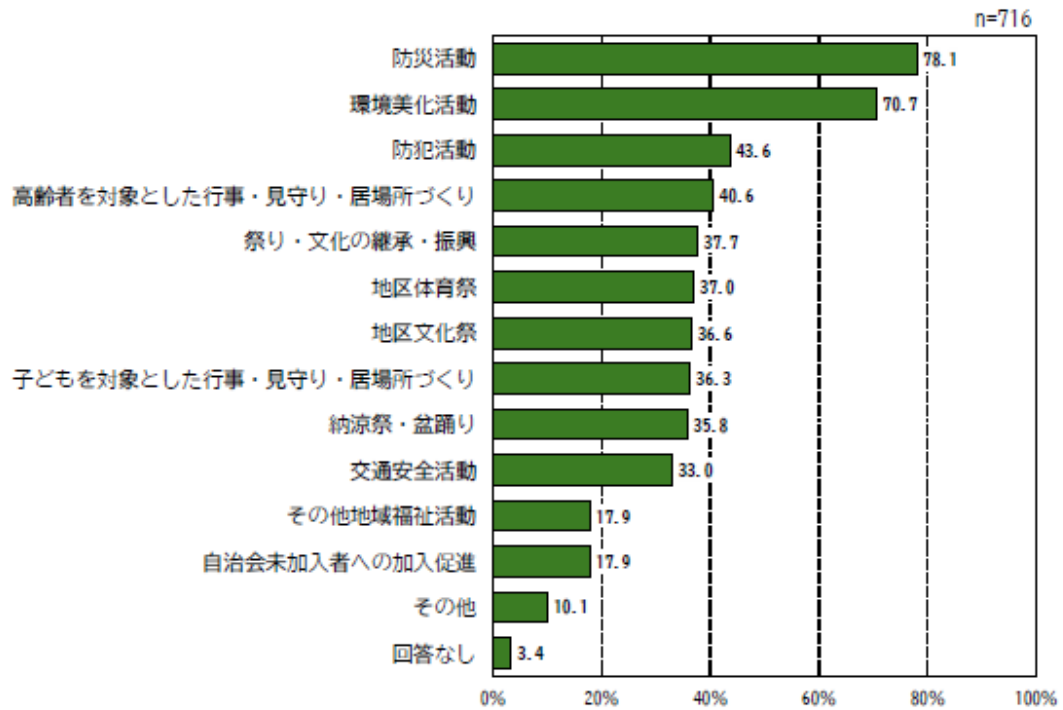
- ・積み上げた余剰金をマンションの転入者に任せることへの拒否反応が強い。
- ・新しい住宅地なので人とのつながりが少ない。
- ・自治会と神社の行事を兼ねているため、仕事が多。
- ・自治会長だけでなく他の自治会役員の候補者リストを作成したいが、近年、個人情報の扱いが厳しくなっており、住民情報の収集が困難。
- ・非協力的であったり、個人的な問題を持ち出す会員の意見が通ること。
- ・私が就任するまではかなり難儀されていた様子です。アパートのマンションの方は、自動的に活動に携われないので、適任者の潜在を確認したいです。

【その他】

- ・資源物と破砕ごみを間違えて出されるので、その都度自治会長が持ち帰り所定の日に出している。ごみの当番をしていないので持ち去りを防げない。
- ・空き家、自治会未加入者、ごみ、掃除他。
- ・個人的な苦情等、自治会と関係ない事項が多い。
- ・住民からの苦情、要望について。
- ・認知症の高齢者の対応。
- ・空き家対策。
- ・桜並木の対策が一向に進まない上に、まつり自体が実施できず、地区においては秋期は文化祭等があるが、春期は無いので元気が出ないように感じられる。地区に元気が出るような、桜まつりに代わる行事を検討していく必要を感じている。
- ・引越してきて4年目で地区の事を何も知らない。
- ・祭礼等の世話役確保。
- ・外人の資源ごみ窃盗。
- ・昔に比べ、環境が悪い(草刈りや要望ができていない)。
- ・自治会費の減額要望や防災訓練など。

問9. 現在、自治会としてどのような活動をしていますか。(あてはまるものすべてに○)

自治会としての活動を列挙すると、「防災活動」(78.1%)が最も多く、「環境美化活動」(70.7%)、「防犯活動」(43.6%)の順となっています。



問10. 現在、特に力を入れて取り組んでいる自治会の活動内容を具体的にご紹介ください。

自治会長として特に力を入れて取り組んでいる活動については、411人(509件)から回答があり、環境美化や防災活動などが多くなっています。その他には、会員・住民との情報共有、回覧板や、自治会運営などが含まれています。

内容	件数
防犯活動	22件
防災活動	96件
交通安全活動	7件
高齢者を対象とした行事・見守り・居場所づくり	19件
子どもを対象とした行事・見守り・居場所づくり	13件
その他地域福祉活動	53件
環境美化活動	112件
納涼祭・盆踊り	12件
地区体育祭	4件
地区文化祭	5件
祭り・文化の継承・振興	39件
自治会未加入者への加入促進	7件
その他	120件

【防犯活動】

- ・ 防犯外灯の増設等による夜間防犯対策の強化。
- ・ 青バト巡回等による防犯活動。
- ・ 商店街組織と連携し、防犯対策やイベント(祭り等)を実施。
- ・ 防犯活動として街灯増設、不具合照明灯の早期修理。
- ・ 年末に向け、特殊詐欺や訪問販売(押し売り)等、特に一人暮らしの高齢者世帯への注意喚起、及び啓発、見守り。

【防災活動】

- ・ 緊急時安否確認及び連絡調書の作成(旧調書の補正)。
- ・ 地域の防災隊員及び消防団員の増強。
- ・ 2丁目自治会と合同で防災減災セミナーを秋に開催。
- ・ 地区内の防災意識の向上。年に1～2回防災に関するイベント(給水車、起震車、講師を呼んでの訓練など)を実施している。
- ・ 防災活動。3年ほど前から自主防災隊を立ち上げ、防災意識の向上や防災力の向上に努めている。
- ・ 防災意識を高める。家族内での会話にてハザードマップの確認、備蓄品、避難場所を決める。
- ・ 会員名簿を毎年更新(同居人、家族含む)、同時に防災意識の確認アンケート。

- ・防災サバイバルなどで小学生の意見を組長などに紹介し、町の危険箇所を把握し現状を共有する。
- ・防災活動の「防災フェスタ」。今年で12回目開催。今年にはAED研修、消火器訓練、防煙訓練、炊き出し訓練等を実施。参加者は67名。
- ・防災対策。自然災害に対しての対応と防災倉庫の充実を進めている。
- ・年1度の防災訓練、芋煮会(炊き出し)訓練。
- ・地震、津波での避難方法と防火防犯対策の意識啓発。「みんなで声を掛け合って！」老朽化住宅の無料耐震診断の普及推進活動。
- ・非常持ち出し袋、防災ヘルメットの各戸配布(各2個配布済み)。
- ・当自治会は、養老・桑名・四日市活断層による直下型地震及び三滝川の氾濫・決壊による水害被害等大規模災害のリスクが極めて大きいため、独自の効果的な自主防災活動を推進している。
- ・今後(今日か、明日かも)いつ発生するか、南海トラフ地震が発生しうることから、特に液状化を心配(埋め立て他)。避難所等の話し合いを特に力を入れている。
- ・災害が発生したときに助けられる自治会として、独自の備蓄に力を入れています。
- ・春の防災訓練、消防分団の方に協力していただき、消火設備の説明から実際に放水訓練を実施している。
- ・地震、台風等自然災害発生時に対応する備品の確保。

【交通安全活動】

- ・通学路等のカーブミラー設置、道路標示の設置。
- ・スクールゾーンの安全対策。
- ・当自治会は湯の山街道の抜け道となるため交通事故が多発している。そこで、住民とりわけ交通弱者を守るためにハード・ソフト両面からの交通安全対策に取り組んでいる。
- ・こども見守り隊による登校時の交通安全。

【高齢者を対象とした行事・見守り・居場所づくり】

- ・敬老食事会。
- ・70歳以上の一人居住者53世帯への安否確認。
- ・高齢者の健康維持につながる活動の継続と、町民の交流を促すイベントの企画立案(元気クラブ(いきいき百歳体操)、いどばた交流会)。
- ・高齢者が退会を希望する場合、自治会活動をすべて免除し近隣者が災害時に対処できるようお願いし、自治会にとどまってもらっている方もいます。
- ・こども会、老人会など各種団体の解散による後継活動。
- ・いきいき会(毎月題を変え、講座を入れた会が月1回)。
- ・100才体操(毎週1回実施)。
- ・高齢者のグラウンドゴルフ。
- ・高齢者他住民の方が気軽に集まり、楽しめるサークル等への援助及び応援。

【子どもを対象とした行事・見守り・居場所づくり】

- ・夏休み中の小学生たちに「自衛隊駐屯地見学」等の体験型活動。
- ・分譲マンションが2棟新築され、住環境を考える会を新たに創設して住環境には力を入れている。子どもが住みやすい自治会を目指している。その一環として2年前より公園での桜まつりをはじめた。
- ・子どもたちを交えて、まちのルーツの講演会等。
- ・子ども育成会行事(グラウンドゴルフ、輪投げ、ビンゴゲーム等)。
- ・子どもの居場所について、公園の遊具の自主点検及び増設を要求しているが、なかなか予算が取れない。
- ・子ども会の充実。
- ・子ども会支援活動を全面的にバックアップしていこうと役員全員で少なくなった子ども会行事を活性化させ、住民(転入者)間の連携を深める一助として取り組んでいる。

【その他地域福祉活動】

- ・町内の交流の場として、高齢者、子どもを対象とした「ふれあい大会」(飲食提供、ゲーム等)、「花火大会」。
- ・連絡協議会において、3町合同のイベント開催(地域住民のふれあいの場の確保)。
- ・年1回の親睦旅行。参加者は少ない。
- ・町民が自治会に積極的に参加意識の向上を図るため、様々な行事を行っている(グラウンドゴルフ、手芸教室、映画鑑賞会、百歳体操、花壇管理)。
- ・転居された方と古くからの住民との融和。各組単位の年末の食事会。
- ・町民交流促進を目的とした親睦会費補助制度推進。
- ・ボランティア団体による地域住民が交流できる活動(サロン、百歳体操、花と緑いっぱい、環境美化活動)。
- ・毎月第2土曜に「土曜サロン」多様な話題を取り上げ、住民がリーダーとなって、情報提供・交換など。
- ・新旧世帯の混在化が進むなか、様々な行事の実施を通じて情報の共有を図り、地域コミュニティの醸成に努めている。
- ・親睦イベントの実施(年2回、夏と冬)。流しそうめん大会、焼きはまぐり王選手権等、なかなかほかの自治会ではできないことを企画して、住民ならではの特別感を演出している。他の自治会の子どもたちから「この町はいいなあ」と言ってもらえるようにしたい。活動が子どもたちの自慢になれば、将来この子たちが大人になってからの地域活動への向き合い方が変わると思うから。
- ・音楽会と親睦会の実施等。
- ・ふれあいいいききサロンの参加者を増やすにはどうすべきか相談している。
- ・全員どなたでも気軽に参加出来る交流会を月1実施。ゲームやお喋り、カラオケ、意見交換等しています。

- ・昔はあった青年団、老人会、婦人会等が今はなく、交流の場がなくなっている。親睦を深めるため住人が交流できる場、子どもたちが地域とふれあう機会をつくることに取り組んでいる。毎年自治会行事として夏祭りやグラウンドゴルフ大会を開催している。

【環境美化活動】

- ・ごみ集積場の維持管理、整備、維持管理の負担軽減。
- ・環境美化活動。公園、集会所等公共施設の美化、花壇の管理、草刈り。
- ・外国人の居住者が多く、ごみ出しルールを徹底。
- ・ごみ収集日のごみ出し分別等のルール徹底、モラル向上(ルール徹底、モラル向上への啓発活動、収集場へのルール等掲示物掲示)。
- ・湯添え。川を美しく保つためと、意識の向上。
- ・花いっぱい運動(道路清掃を含む)。
- ・町内美化について、美化委員を任命し、ごみ収集所の清掃管理を強化。町内一斉清掃の啓蒙活動(毎回子どもを含む90名程度の参加あり)。
- ・堤防桜の木の倒木の危険に対しどのように取り組んでいくか。
- ・環境美化活動にはこの2年間力を入れてきました。コロナ禍で一斉清掃が中止になっていた時期もあり、大荒れ状態になっていました。清掃道具もほとんどない状態で市の方に申請して、ぼちぼち道具を集めてきているところです。
- ・毎週金曜日8:20~30の10分間清掃を推進中。まちをきれいにするとともに、高齢者の引きこもり防止活動として推進している(まだ途上です)。
- ・畜産公害への対応(臭気モニター→行政)。
- ・ごみ出しのやり方について、より合理的なやり方への移行を進めている。ただ一方で、ごみ出しルールを守らない方が依然散見されており、合理化の流れでよりルールを無視する方が出ることを懸念している。
- ・海外の方のルール、マナーを守る取り組み。ごみの分別、ごみ当番が6:30に鍵を開けること。
- ・地元松林(国有地の防砂林)の整備(成長しすぎた松の剪定、伐採)。
- ・環境美化活動で小中学校、地域における草刈り等があります。
- ・鳥対策(ネットがけ)。

【納涼祭・盆踊り】

- ・納涼祭は自治会役員が協力して夜店、ゲーム、ビンゴゲーム、ミニ花火大会をしている。夜店0円で提供、誰でも参加ビンゴゲーム、アイスクリーム無料配布、和気あいあいの祭りです。
- ・夏祭りの参加促進。
- ・地区内で唯一実施している盆踊りやもちつき大会を継続する。
- ・町内行事の継続(盆踊り、春祭り)。
- ・2歳から高齢の方まで幅広い層での交流ができる行事として「夏の盆踊り」に力を入れています。
- ・若者世代(子ども会を運営する世代)を中心とした盆踊り実行委員会活動への協力。

【地区体育祭】

- ・ 市民体育祭。
- ・ 体育祭の準備。
- ・ こどもの要望を受け入れて、本年は久しぶりに地区体育祭で玉入れの参加が可能になった。

【地区文化祭】

- ・ 文化祭(発表会や展示、地域交流、催し物)。
- ・ 文化祭(神社奉賛会、いきいきサロン、こども会)。
- ・ 文化祭などの行事を通じての交流。
- ・ 夏祭りとは文化祭を一緒にして年1回開催(秋祭り)。

【祭り・文化の継承・振興】

- ・ 祭り(鯨船)の伝統文化の継承。
- ・ 石取り祭りは町全体あげて実施。四日市祭りにも隔年で参加。
- ・ 神社のかがり火当番、門松の作成準備(10年に1度)。
- ・ 伝統芸能文化の継承。
- ・ 町の一大イベントである鯨船に自治会としても協力しております。各組長を通じ、寄付集め等行っています。
- ・ 予算が少ないため大変ですが、こどもたちに地域の文化を継承するために、地藏堂での地藏盆と夏祭り、また年末には地藏堂での年越し参りと初日の出に力を入れています。
- ・ 8月の例大祭の維持継続。
- ・ 地区内にある寺等の祭りの参加・準備・片付け。
- ・ 神社の氏子として例祭の準備祈祷等があります。
- ・ 行燈祭りについてこども中心だが大人も楽しめるようにアレンジした。

【自治会未加入者への加入促進】

- ・ 未加入者に対する会費徴収の扱い。
- ・ 個人情報の観点から不動産及び管理会社からの転出、転入者の情報が得られず、加入促進活動が難しくなっている現況を改善する取り組みとして、各班長(8班)、隣人への呼びかけ。一覧による空室状況の共有等地味なものです。
- ・ 未加入者への対応。やはり役員の負担が大きい。準会員の制度があるにもかかわらず、未加入者になってしまっていたまだ話ができている家庭もある。
- ・ 自治会未加入者への加入促進活動。

【会員・住民との情報共有、回覧板】

- ・ DX推進活動。
- ・ 公式LINEアカウントを登録し、デジタル回覧板、住民の陳情対応、組長会や連合自治会議事録開示、自治会イベントスケジュール、地区HP、四日市市HPをメニューとしてスマホで見える化。住民は他人に知られることなく自治会長へ陳情できる仕組みで運用している。
- ・ 月2回、回覧の表紙にレジュメを作成し、今回の回覧内容をわかりやすくするよう心掛けている。

- ・自治会だよりとして、身近な自治会活動の内容を毎月回覧(回覧板に追加)。役員LINEグループ、LINE回覧板(オープンチャット)。
- ・平成に建てられた複数の集合住宅(約90家族)に対して、回覧板等による本市からの情報、地区からの情報が共有されていない状況が10年以上継続していることから、令和6年度に自治会LINE公式アカウントを活用して情報提供をしてきた。しかし、参加する会員が増えると高額な利用金額になるため、本年度11月から、キントーンを活用して、自治会HPを作成し、回覧板との併用及び防災等に関する情報の共有を進めている。11月末現在の登録は半数未満のため、継続して活用依頼リーフレットを定期的に回覧や戸別配布により推進する。
- ・広報活動。毎月の自治会及び関係団体の活動状況を伝える「自治会だより」を月1回発行し、各世帯へ回覧及び掲示板への掲示を行い、会員に自治会活動への関心を高め、積極的な活動参加を喚起している。

【自治会運営】

- ・各組の人員バランスが悪いため、組の再編成を推進中。また、準会員(後継ぎ相当)について、文書化された規定がないため、本来準会員になる資格のない人が準会員になる事例が発生しており、その対策として文書化を推進中(案作成、意見集約、協議会開催等)。
- ・自治会組織が今後も存続できる体制の構築。組長、役員の確保。
- ・法人化。
- ・組の人数が少なく、活動できる年齢層も限られることから、組の再編に取り組んでいる。
- ・役員選出マニュアルの作成。
- ・自治会財政の健全化。現状の自治会費で持続可能な自治会活動への転換(経費削減)。
- ・まずコミュニケーションを一番にとる。組長会を2カ月に1回は実施。組長をしていただき、皆さんと会話をよくしてもらっています。まずどなたにも分け隔てなく接するように心がけています。3月新旧引継ぎ会親睦会実施。
- ・次々にわいてくる費用のかかる問題を次の自治会長に残さないこと。
- ・自治会員の負担軽減と効率的な自治会運営を心掛けている。催し物も最小の準備で最大の参加を得られるよう同時開催などを行っている。
- ・高齢化に伴い空き家も増えていることから、組長や自主防災隊員の確保が難しいことから、自治会全体にわたる組の構成見直しや規約改正に取り組んでいる。

【その他】

- ・狭あい道路の側溝を有蓋化。
- ・相続人の所在が不明であった空き家、空き地問題解決に向け取り組み中(2軒が対象)。解決には引き続き行政のバックアップが必要(宅地農地に関する規制が強すぎる弊害)。
- ・自治会地内のまちの変貌を危惧し、特にマンション管理者、企業との情報交換会の定期開催及び自治会事業への参加、協力の要請。空き家、駐車場の所有者(または管理者)への参画要請。
- ・町内の安全に関して土木要望のとりまとめ及び改善できるところは自分たちの手で実施する
- ・地区の行事に多くの住民が参加してくれる方法を考える。

- ・自治会の土木要望を全会員に回覧で提出してもらい、その要望を提出していただいた方にお一人ずつ現場立ち合いで詳細な要望内容を確認し、会員の声を要望書にまとめて提出した(2025年11月28日提出)。
- ・地域諸団体の活動支援、自治会員とのコミュニケーション強化。
- ・地域行事への積極的な参加の呼びかけ(地域コミュニティの確立)。
- ・今年度自治会法人格取得、集落センターの土地の市からの返却を進め、集会所建て替えを前提条件として建築推進委員会を設け進めています。
- ・広報紙の発行による地域コミュニティの維持。
- ・自治会員との距離を近くすることを目標に、ホームページの活用(施設利用申し込み、自治会への意見、自治会の活動を掲載、ごみの出し方ガイドブックなど)。

問11. 今後、自治会として力を入れていきたい活動内容を教えてください。

今後、自治会として力を入れていきたい活動内容をたずねたところ、429人(488件)の回答があり、防災活動や地域福祉活動などの活動が多くなっています。また、その他のなかには自治会運営や会員・住民との情報共有、回覧板、土木要望・公共施設の改善に関するものが多く含まれています。

内容	件数
防犯活動	15件
防災活動	106件
交通安全活動	3件
高齢者を対象とした行事・見守り・居場所づくり	40件
子どもを対象とした行事・見守り・居場所づくり	15件
その他地域福祉活動	67件
環境美化活動	33件
納涼祭・盆踊り	2件
地区体育祭	1件
地区文化祭	1件
祭り・文化の継承・振興	10件
自治会未加入者への加入促進	16件
その他	179件

【防犯活動】

- ・防犯活動(資源ごみを持ち去るので防犯カメラの設置など)。
- ・地域が飲食店街の中心にあり、防犯、防災活動に取り組んでいく。
- ・防犯外灯の新設。

- ・ 防犯活動(防犯カメラの設置等を契機として、ごみの不法投棄抑止を含む地域防犯活動に取り組んでいければよいのではないかと考えている。

【防災活動】

- ・ 災害時の諸活動、防犯防災活動。特に災害発生時の状況確認、安否確認。
- ・ 防災活動で、年1回ペースで「防災・減災勉強会」を取り込んでいく。まずは令和8年2月スタート。
- ・ 防災用品等の準備が不足しているため、増やしていくとともに高齢化に見合った活動を考えていく。
- ・ 地域の防災活動、火災、地震などにおける住民の連携、横のつながりの強化。
- ・ 全住民参加の防災訓練。
- ・ 防災のための呼びかけ、活動(飲料水の確保、井戸の新設、緊急時の避難方法の検討)。
- ・ 行政のイメージする防災は公平の観点にあることは承知しているが、インフラの整った中心部では避難行動など実情に合わない。防災に関してはこのまちで起きうる災害の種類に応じた現実的な活動を考えていきたい。
- ・ 商店街組織と連携した防災対策。
- ・ 高齢化や空き家問題などにより、災害時に役立つ昔ながらの「ご近所づきあい」が復活できるような活動に力を入れていきたいと思えます。
- ・ 防災訓練による防災意識の向上の継続。
- ・ 自治会の会員に対しての情報共有を図るとともに、防災に関する情報等の共有を進めるとともに災害時に備えて、キントーンHPを活用した会員の安全確認ができるようにしたい。
- ・ 防災消火栓の使い方、AEDの使い方の講習を行いたい。
- ・ 防災資機材の管理、台帳作成。
- ・ 防災資機材が使えるか点検。現状は在庫の確認のみのため、役員の高齢化による組の再編。自治会員の防災への意識を高める。
- ・ 緊急連絡網の整備、日本語以外の案内作成。
- ・ コロナ禍にて防災訓練ができていません。今年度できたら良いなと思っています。来年度も続けていけるように負担のない活動。

【交通安全活動】

- ・ 通学路等の安全対策(町内道路狭く、一時停止カーブミラー、道路標示の設置)。
- ・ 通学路の見直しと安全確認。
- ・ 交通安全の確保。

【高齢者を対象とした行事・見守り・居場所づくり】

- ・ 敬老会食、花見など、住民同士の交流の促進。
- ・ 高齢者のふれあう行事の企画運営。
- ・ 当自治会ではマイカー利用でないと買い物や通院もできないことから、高齢者等の買い物難民解消。一人暮らしの高齢者などの見守り活動を民生委員らと連携できないか検討している。
- ・ お買い物・足ネット活動。

- ・ひとり暮らしの高齢者のお宅を民生委員と一緒に訪問し、困っていることを聞き取り調査。自治会としてできる範囲で支援していくこと。
 - ・高齢者の家庭が多いため、隣近所の声掛け、見回り等の活動。
 - ・高齢者を対象とした行事、見守り、サークルづくり。
 - ・民生委員と連携のもと高齢者一人暮らしの声かけ。
- 【子どもを対象とした行事・見守り・居場所づくり】
- ・こども居場所づくり、学習支援活動。
 - ・児童遊園整備。
 - ・こどもの数が少し増加しているので、こども会として活動できるように財政的にバックアップしていきたい。自治会を支える構成員は減少、高齢化しているので十分なバックアップはたやすくはない。
 - ・こども会の充実。こども会運用の難しさがある。コミュニケーションをとる場所として公園の充実をあげたい。祭り等のなかで多くのこどもたちをどのように集客するか、方法があれば教えてほしい。
 - ・こども達が喜ぶことを考えていきたい。
 - ・こども会活動へ自治会としてフォローする。
- 【その他地域福祉活動】
- ・花見など、住民同士の交流の促進。
 - ・世帯間交流事業での若年層の参加。
 - ・もちつき大会にこどもたちが来てくれるようになってきたので、その数を増やしていけるようにしたい。
 - ・イベント、マルシェ他ボランティアも含め、商店街の活動に参加を促す。
 - ・納涼祭など各種のイベントによりコミュニケーションの機会を増やし、活気あるまちづくりと災害時に協力し合えるようにしたい。
 - ・自治会員での旅行。
 - ・地区としての人口は増加傾向ですが、少子高齢化の減少はあり、地区のイベントもそうですが他人事では済まさないみんなで活動していくような地域力の活性化に貢献していきたいと考えて行動しています。
 - ・高齢者、こどもが引きこもりにならないよう、個々に声掛けをしていきたい。
 - ・コロナ禍以降希薄になった地域コミュニティを再生するために、祭礼行事や防災訓練を通じて、みんなで声を掛け合い、助け合う町内を目指している。
 - ・学生ボランティア活動の推進。
 - ・高齢者世帯など会員の困りごとの相談やアドバイスが可能な専従組織がつけられるよう協議していく。
 - ・ウォーキングなどスポーツに関連した体力づくり。
 - ・町内の活性化を目的にした取り組みに力を入れたい。具体的には子どもを対象とした行事や高齢者向けのイベント、さらには、だれでもできるスポーツなどのイベントを開催し、町の交流と活性化を進めたい。

- ・年に1回、自治会として食事会を行っているが、今後も続けていきたい。
- 【環境美化活動】**
- ・地域内の環境美化に取り組んでいく。
 - ・ごみ集積場のマナーアップ。ごみ置き場残ごみゼロ。
 - ・除草等美化活動。
 - ・ごみ収集日のごみ出し分別等のルール徹底、モラル向上活動を継続し、モラル向上の未来にはごみ当番撤廃を目指したい。
 - ・外国人の居住者が多く、ごみ出しルールを徹底。
 - ・堤防桜の木の倒木の危険に対しどのように取り組んでいくか。
 - ・環境美化の徹底化、犬のフンなどをなくす。
 - ・湯添え、山草刈り、道づくりの継続。ただし、若者人数減により高齢者ばかりで、今後どこまで活動できるか不安材料ではあります。
 - ・公園美化保全、芝生の養生管理。
 - ・ごみ集積場の改善。カラス等の野鳥対策、不法投棄対策、ごみ捨てモラル教育等。
- 【納涼祭・盆踊り】**
- ・コロナ禍後のイベントを復活したい(盆おどり、餅つき等)。
 - ・納涼祭の復活、ただしやる気、人材、経費(自治会費)の問題あり。
- 【地区体育祭】**
- ・以前、運動会がありましたが、何かスポーツで交流できるようなイベント活動等が希望です。
- 【地区文化祭】**
- ・文化祭(発表会や展示、地域交流、催し物)。
- 【祭り・文化の継承・振興】**
- ・祭り(鯨船)の伝統文化の継承、地藏尊の夏冬行事による町内融和。
 - ・伝統芸能文化の継承。
 - ・神社の総代選出。
 - ・行事を中心に、今までやってきた地区と自治会主催のイベントを守っていきただけ。
 - ・コロナ禍において中止となっていた地藏盆の催しを少しずつ復活させております。
- 【自治会未加入者への加入促進】**
- ・新しいマンション建設時の入居者に対する自治会入会の促進。
 - ・未加入者の自治会加入促進(若年者、高齢者、アパート居住者)。
 - ・自治会役員への担い手勧奨。マンションの自治会脱退者への再加入及び新規転入者の加入勧奨。マンション管理会社の協力及び市からの働きかけが是非必要！
 - ・(自治会員を増やすため)駅北側地区の開発。
- 【自治会運営】**
- ・退会希望世帯へ継続加入のお願い(役員・委員・組長・ごみ集積場当番の免除措置の検討)。
 - ・会議体の開催を減らすことによる、役員・委員・組長の軽減負担。
 - ・若い自治会役員の掘りおこし。

- ・自治会の活動を継続するための組織改革と人材育成。
 - ・子育て世代に負担がかからない自治会運営。
 - ・情報共有ツールの統一化、リードタイム短縮。
 - ・高齢化世帯の増加による自治会運動の衰退を防ぐために、組の再編を進めていくことが必要と思っています。併せて若年層の自治会活動への協力を図っていきたい。
 - ・町民が高齢化しているため、また、気候も変動し猛暑のため、より合理的かつ作業内容を軽減化。
 - ・個人の負担を軽減できるような自治会役員選出方法や運営方法の検討と見直し。
 - ・会議等の回数減少と時間短縮検討。
 - ・次期以降の役員の継承の一環として、地区自治会役員の経費の増額(市補助金増額が見込めない状況での対応)検討。
 - ・高齢化、子育て、共働き等生活環境が著しく変わってきているため、自治会規約、防災規約通りには活動できない状況であり、通信技術も著しく発展してきているので無理のない、現実的に実施できる規約の見直しが必要です。
 - ・高齢化に伴い、病気、身体的に問題などで免除者が多く、役員選出に問題があり、今後どのようにしていくか検討中。
 - ・高齢化に伴い組の活動人員にばらつきが生じたため、組を再編。
 - ・だれでもできるように業務や活動の効率化。
 - ・地域企業様との関係を密に行う。企業様なしでは自治会運営はできない。
 - ・自治会長活動をわかりやすくするため、自治会長の活動の文書化を進めている(引継ぎ書で仕事の内容が分かるように)。
 - ・道路拡幅に伴う組編成の変更。
 - ・自治会の法人化。
 - ・従来通りの活動内容の維持。これ以上の負荷を増やさない。
 - ・活動という前に次年度以降の自治会長のなり手がいないことが当自治会にとって最大の問題である。今後自治会が存続していけるか、個人的には非常に頭が痛い問題です。
- 【会員・住民との情報共有、回覧板】**
- ・DX推進活動。
 - ・集合住宅住民(170世帯)への情報の発信。
 - ・自治会公式LINEアカウントの維持、継続。
 - ・デジタル化(回覧板の電子化、情報伝達のデジタル化)。
 - ・現状回覧にて自治会内での情報共有やコミュニケーションを図っているが、何か不具合、問題発生した場合の対応について適切に話し合いができていない。そのため今後は半年に1回の頻度で役員、組長会議を実施して自治会内の声を吸い上げ、適切に対処していきたい。将来的にはデジタル化を進め、より効率的に情報共有やコミュニケーションを図っていきたい。
- 【土木要望・公共施設の改善】**
- ・特別措置法の事業ハード面について、23年もたち、悪くなってきているところを見直していきたい。

- ・ 公民館のリフォーム。
- ・ 自治会活動の見える化により自治会への理解をしてもらえよう行政に働きかけ、公園や道路等の不備を改善していきたい。
- ・ 公会所計画的修理と利用者への満足度アップ。
- ・ 町内の排水対策(住宅開発増加による排水環境の未整備)。
- ・ 畑、田んぼの整備。
- ・ 道路の補修。町内のほとんどが農道、共有道で、補修が必要な個所が何カ所もある。また、一部道路の市道化への認定も考えている。
- ・ 交通インフラ整備。高齢化率も上がり、バスの運行がなくなり、病院や買い物にも行けない。
- ・ 集会所の修繕。
- ・ 数年後に集会所の建て替えを検討している。

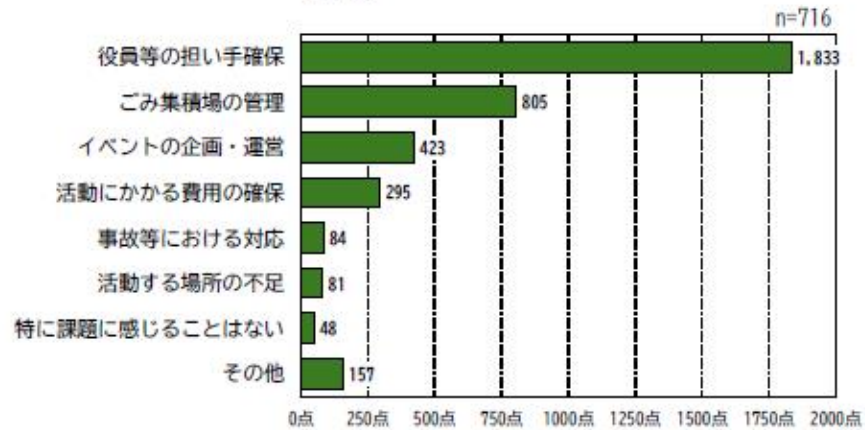
【その他】

- ・ 住みよいまちづくりのためにハード面(環境、収支等)とソフト面(安心、安全な暮らし、良好な交流、近所づきあい)への最大公約数を求めて、折り合いをつける。
- ・ 空き家予備軍への対応(町内の空家率 12.7%、5年後は 19%にアップ?)各御家庭の問題ではあるが、町の問題でもあり情報収集に努めている。
- ・ 既設の発電所の発電終了時(約 10 年後?)の対応は、そのまま産業廃棄物?契約者ではないので何もできず、今後も行政とも強い連携が必要。
- ・ 共働きの時代背景(タイパの時代)から、自治会の負担が多すぎて敬遠されている。敬遠されることにより、意思疎通の溝が深まってしまうので、負担を減らしつつ地域住民として情報共有をできるようにしていきたい。
- ・ 町内の人が楽しく、明るく生活できるよう努める。
- ・ 自治会の存在意義を見つけること。
- ・ 外国人の人との交流をどうするか。
- ・ 住民皆さんが同じ町内問題意識を持てるよう町内コミュニティの向上を図りたい。
- ・ 地区の行事に多くの住民が参加してくれる方法を考える。
- ・ 地域業者の優先利用。
- ・ 無駄にためている自治会費の会員への還元。
- ・ 高齢化が進み、地域の関係性や考え方も変わってきた。自分たちの地区を荒廃させることなく、安心安全きれいな地区にしていくための活動をしてきたい。
- ・ ホタル保存会。
- ・ 高齢者と若者がうまくコミュニケーションをとり、ひとつひとつの行事を盛り上げていきたい。
- ・ 外国人がもう少し住民と接する機会をつくり、一緒に何か活動できるようなことを考えていきたい。

問12. 自治会の活動のなかで、特に課題になっていることはどれですか。(最もあてはまるものから順に3つまで数字を記入してください)

自治会が抱える課題等を評点化(第1:3点、第2:2点、第3:1点)で算出したところ、活動の中で特に課題になっていることは、「役員等の担い手確保」(1,833点)が最も多く、「ごみ集積場の管理」(805点)、「イベントの企画・運営」(423点)が続いています。

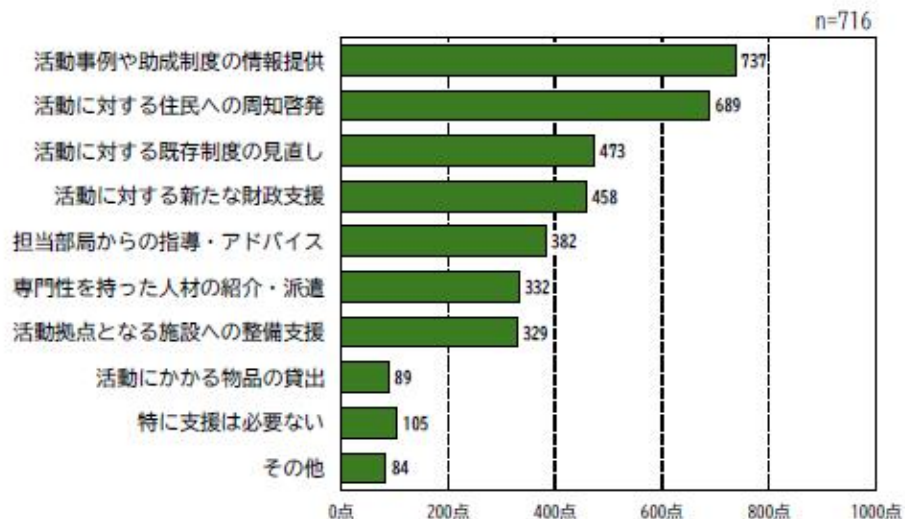
【評点】



問13. 自治会の活動を進めるうえで、特に有効だと思う支援はどれですか。(最もあてはまるものから順に3つまで数字を記入してください)

自治会の活動を進めるうえで特に有効だと思う行政の支援は、「活動事例や助成制度の情報提供」(737点)が最も多く、「活動に対する住民への周知啓発」(689点)、「活動に対する既存制度の見直し」(473点)が続いています。

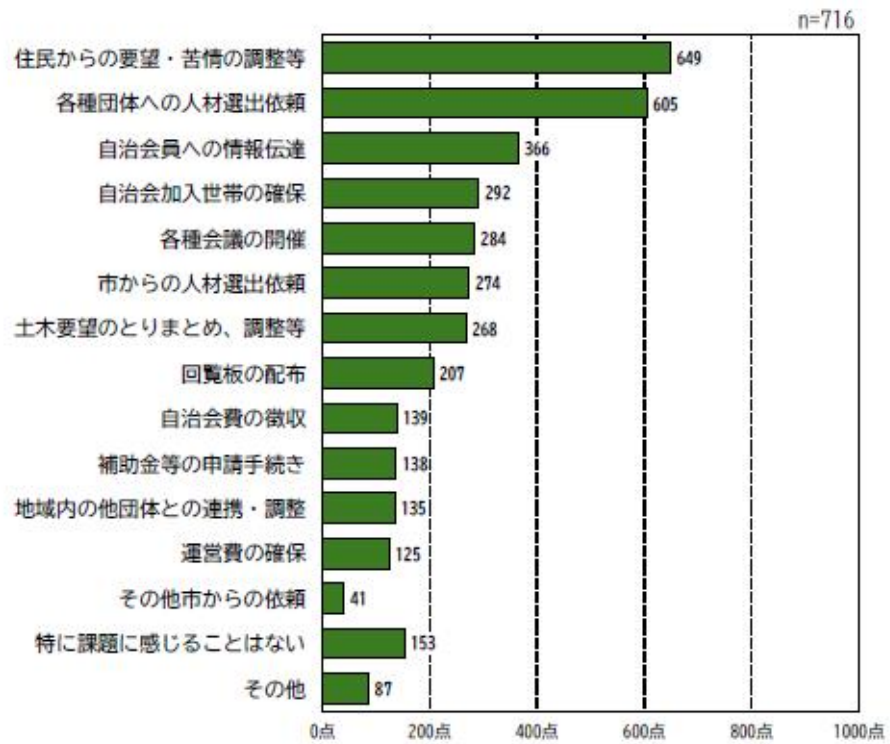
【評点】



問14. 自治会の運営のなかで、特に課題になっていることは何ですか。(最もあてはまるものから順に3つまで数字を記入してください)

自治会の運営のなかで特に課題になっていることは、「住民からの要望・苦情の調整等」(649点)が最も多く、「各種団体への人材選出依頼」(605点)、「自治会員への情報伝達」(366点)が続いています。

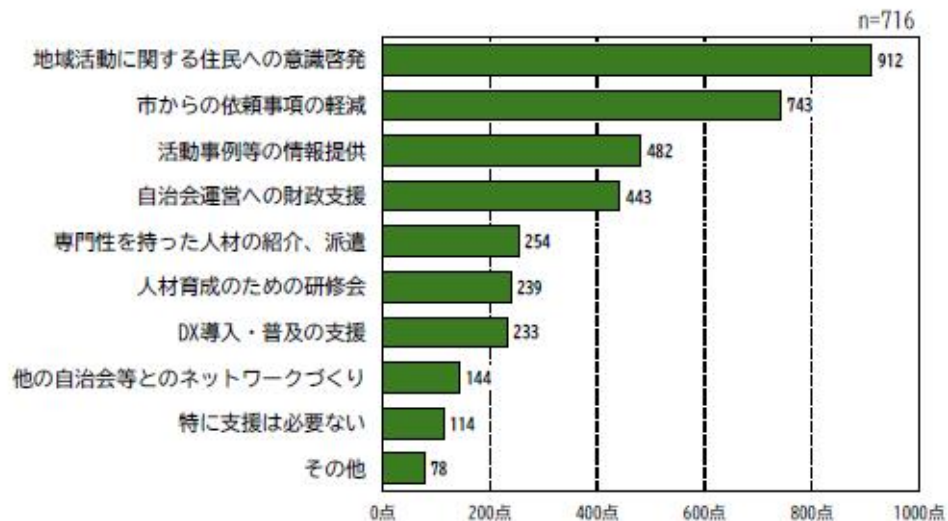
【評点】



問15. 自治会の運営を進めるうえで、特に有効だと思う支援はどれですか。(最もあてはまるものから順に3つまで数字を記入してください)

自治会の運営を進めるうえで特に有効だと思う支援は、「地域活動に関する住民への意識啓発」(912点)が最も多く、「市からの依頼事項の軽減」(743点)、「活動事例等の情報提供」(482点)が続いています。

【評点】



問16. 自治会の活動・運営上の課題について、解決した事例があれば、具体例をご紹介します。

自治会の活動・運営上の課題について、解決した事例を具体的にたずねたところ、170人の回答があり、役員等の担い手確保やごみ集積場の管理、イベントの企画・運営、住民からの要望・苦情の調整等に関する事例が出されています。

【役員等の担い手確保】

- ・ 高齢化に対応するため、役務免除申請制度をつくりました。80歳以上の高齢者世帯や、病気等の理由のある世帯は役員会で審査して承認が得られれば組長等の役務を免除される制度です。
- ・ 自治会役員の変更。単位自治会と連合自治会業務の分離で、自治会長の陣頭指揮を廃止、分散方式とした。
- ・ 20組の組長を10組長とし、2組ずつ管理。
- ・ 従来役員4名を役ごとに選挙で選んでいたが、知名度のある人しか名が出てこない。これを改め、年齢層を考慮して役員になってほしい人を組長役員で20名程度候補として選び、その中から4名を選ぶという方式に変えた。これによって役員の年齢層が若干低くなったとともに、候補者として名前が挙げられた人はそろそろか、と自覚が構成された。
- ・ 自治会長をはじめ、役員を順番制にした。
- ・ 自治会長の負担を軽減するために、副会長の人数を2人から4人の2倍に増やした。

- ・ 組の構成人数の大小で組長負担に不平不満があったので、できるだけ均等になるように改めた。
- ・ 組及び単位自治会ごとの世帯数の平準化を図るための再編成。組内の世帯数の減少(死亡や転出)により、組活動(組長や単位自治会長等の選出)に困難が生じていたため、本年度の自治会総会、組長会、組回答を経て、令和8年度からの単位自治会、組の大幅な再編成を行う予定である。長期的視野と組内構成員のバランスをもち、密に考慮した計画作成と円滑な実行は自治会の会長の尽力によるところが大きい。
- ・ 一つの自治会では単位自治会長を3期目まで決めていて、探す手間が省けている。
- ・ 会長選出を行った事例(最高の人選ができた例)。組をブロックごとに分け(4組)その中の会員から選出してもらい、選出された候補者に集まってもらい、適任者を決めた。幸いにも3名の方が立候補し、お互いに話し合い最高の選出ができた(ブロックごと会員が集まってもらい話し合ったことで、最低でも1名選出を義務付けたことが功を奏したと思っています)。
- ・ 今年と来年で役員の選出をシステム化に向けて取り組んでいる。

【ごみ集積場の管理】

- ・ 自治会未加入世帯のごみ出し課題を今年度解決した。具体的には自治会活動の中で全ての住民が恩恵を享受している活動費用を「自治会協力金」として未加入世帯に支払ってもらうことでごみ集積所の利用を許可することとした。本内容を加入世帯及び未加入世帯にそれぞれ説明を行い、受諾していただいた。
- ・ ゴミ置き場の新設。工事にあわせて、新しくごみ置き場をつくっていただいた。
- ・ ネット使用のごみ集積場をごみボックスに変更(設置申請)することで、車道へのはみだしや転落防止にもつながり美化も向上した。
- ・ 環境美化、ごみ集積場への防犯カメラの有効活用により、不用品回収の軽減。
- ・ センター館長より、ごみ集積場の管理が悪いと指摘があった。町内防災訓練のときごみ集積場の話をし、様子を見て来年度カメラを設置するようにした。
- ・ ごみ集積場からのごみの持ち去り。監視カメラで監視し、犯行現場を集積場に掲示したらなくなった。
- ・ 近隣からごみ集積場への不法投棄。12月20日から鍵をダイヤル式とし、各人で開閉する。
- ・ ごみ集積所の管理が破綻していたが、生活環境課の理解、協力により居住者は個別収集の対応をしていただき、営業者は事業系ごみの収集業者との契約を徹底し、ごみ集積所を撤廃することができた。
- ・ 生ごみネットの改善(カラス対策)。
- ・ 資源ごみ収集場の移転、防犯カメラの設置により、町外からの投棄が大幅に減り分別が楽になった。
- ・ ごみ置き場の管理において(早朝鍵を開ける仕事)、高齢化のため負担が大きい。ごみを最初に出す方が空けることにしたらスムーズに機能しました。
- ・ ごみ集積場のカラス被害に伴うごみかごの設置。
- ・ 可燃ごみ置き場への折り畳みごみ箱の支援により設置。

- ・令和3年度から資源物管理を町内の各組の当番制にして、組内で有志を募り、日当を支払うようにした。
- ・ごみ集積所の管理は無料の輪番制であったが、希望者による手当支給の専属管理に変更した。
- ・ごみ集積場清掃を組み順から世帯順にした(不公平感の解消)。
- ・今後も課題は続くが、ごみの散乱防止対策として、ごみ集積場を2件改善設置した。
- ・ごみ集積場の新設⇒解決は途中であるが、やっと1か所許可が下り、長年の課題に一つの結果が出た。
- ・ごみの分別やルール、出し方が守られていなかった。当番担当者が集積所のカギを開けるときに、本日のごみの名称を扉の所にかかげることで分別防止した。
- ・住民負担を少なくするため、ごみ当番の見直しを行い、ごみ箱の複数設置により立ち番をなくした。
- ・ごみステーションの更新要求に伴い、補助額以上の価格帯が多く、パレット等を利用し自作したステーションを製作し容量を拡大した。
- ・防犯カメラの設置によって資源ごみ、埋立ごみの監視もルールが守られ、当番制の監視をなくした。
- ・未加入者のごみ集積所使用とごみ当番について、数名の加入につながった。

【イベントの企画・運営】

- ・イベント(夏祭り)の準備を、テント等の使用を削減し簡略化した。
- ・2年に1度の親睦旅行が有効。参加者が増え、協力者が増えた。
- ・コロナ禍以降滞っていた秋祭りイベントの再興。
- ・グランドゴルフの推進を自治会主体になったとき担当会長が自治会の考えで推進させていただき、参加者から喜びの声を聞くことができた。
- ・コロナの蔓延で約5年中止となっていた親睦会を再開し、会員の皆様に喜んでいただけた。
- ・夏祭りの企画・運営を担う自治会役員が高齢化等により実施が困難であったため、住民等からボランティアを募集して実行委員会を結成し、予算も別枠として夏祭りを実施した。

【住民からの要望・苦情の調整等】

- ・近隣の放置農地(現在茶畑、昔は墓地)についての苦情を受けて、団体との連携が良好にとれ、更地にすることができた。さらに今後の管理も含めて、円満に進んだ事業。
- ・住民からの要望、苦情を市民センターの係の方の努力により早く解決できた(カーブミラー割れ修理、側溝のコンクリート蓋の割れ、民家の植木の枝が道路に覆いかぶさっているのを処理)。
- ・戸建て住民の高齢化で庭木の管理ができなくなった。樹木の枝が隣の庭まで出て苦情がある→ふれあいネットに対応。
- ・自治会と「ふれあいネットチャンネル」利用し、住民サービス対応。
- ・ごみカゴが転倒して住民の車両を壊した際、市より保険をつかわせてもらって解決できた。
- ・農水路の清掃。雨水等の流れが悪いため、早急に依頼し清掃を実施していただいた。

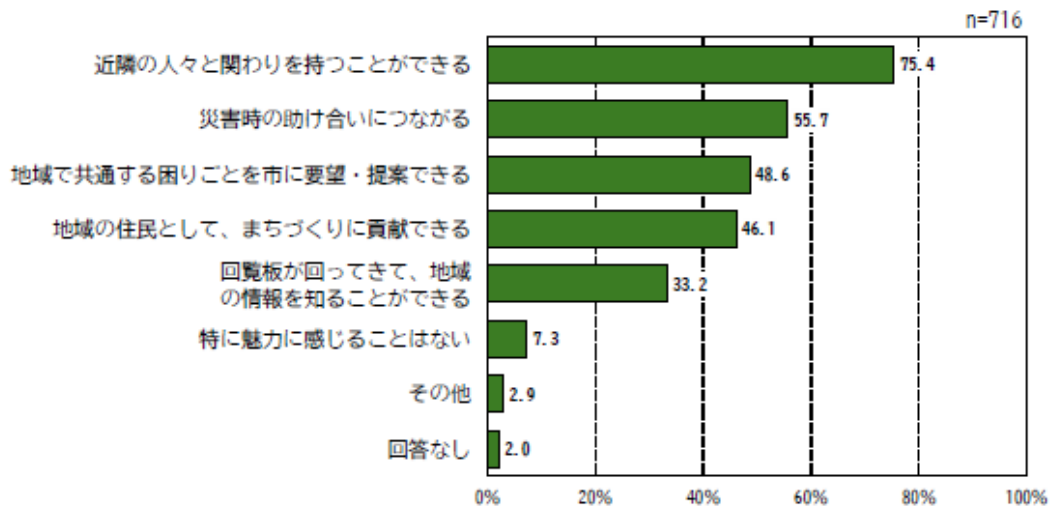
- ・ 公園の整備など長い年数がかかってきた案件が館長、副館長のご尽力で少しずつ前に進み、手ごたえを得られたことがとてもありがたいです。
 - ・ 外国人居住者に対する苦情を雇用主に連絡することで改善。
- 【土木要望のとりまとめ、調整等】**
- ・ 以前は道路小陥没、穴等は報告者が自治会長へ伝達し、自治会長が道路維持課へ報告し、現説して立会補修をしてもらっていた。令和7年4月～道路破損通報システムを回覧啓発し、自治会員個々での道路破損通報システムの活用の推進活動を行った。結果、自治会への道路破損等の報告が減り、負担が軽減された。
 - ・ 道路維持課の道路破損個所のLINE通知システムは非常に役に立った。河川課、農水振興課も、私がメールで住民陳情を内容、場所、写真にして通報すると即応する(仲介している市民センター長の協力がある)ので、この陳情のメールデジタル化は役に立っている。
 - ・ マンションから道路へ車いすで出られるよう、土木要望にて解決。
 - ・ 雨のたび防災庫に浸水。土木要望にて解決。
 - ・ 外部団体から事前連絡なしに道路使用があった場合の、自治会会員への事前連絡(回覧)の実施。
 - ・ 近隣の樹木の撤去など市営住宅に要望して改善された。
 - ・ 土木要望により危険箇所が解消されたこと。
- 【自治会員への情報伝達・回覧板】**
- ・ 緊急連絡網と組長連絡網はライン化を実施した。
 - ・ LINEオープンチャットを今年度より開始しており、落とし物などは写真を掲載することで落とし主が判明した。
 - ・ 加入者へのきめ細かな啓蒙活動の実施。
 - ・ Eメールと添付ファイルを用いての直接訪問数の削減。チャットの利用による一部役員間の訪問、電話の削減。人によって自治会活動に充てられる時間帯が違う。
 - ・ (※集合住宅の要素が強いです)回覧板は回さず、建物内の掲示板に設置いつでも見れるようにした。回覧板、掲示板の更新やお知らせ等はLINEのオープンチャットを利用。自治会総会は書面決議とし、重要事項はマンション理事会の決議にまとめて負担軽減。ある意味管理会社が雑務を担当していることが大きい。
 - ・ 組長6人への情報伝達をLINEで実施。地域全世帯へのLINE又はEメールでの拡大を図りたい。
 - ・ 自治会のLINE作成。全員登録による情報発信、リアルタイムの情報共有化が図れた。
 - ・ 組長、役員間の連絡ツールとしてグループLINEを活用したことにより、相互の情報伝達がスムーズになった。また、個々の案件についても情報の共有化ができた。
 - ・ 解決といえるかわかりませんが、緊急連絡体制の組長グループ、組グループへの一括連絡ができるようにしてからは参加者の多い組では回覧の代用・ごみ当番への確認・意見に対する賛否など常時利用されており紙回覧は不要のようです。年配者の多い組では、抵抗勢力(30%)が強く、紙ベースの回覧が必要な状況です。

- ・運営会議を開くにも、場所の確保ができない。独自の回覧板を2回/月で発行して回覧板として回覧している。
 - ・会議も場所の確保が難しいなか、回覧板の発行で周知を図っている。
 - ・全世帯ではないがLINE グループで情報共有をしている。行事などの日程や変更内容など、リアルタイムで伝えられることはメリットがある。
 - ・月2回の回覧板は情報量が多すぎてすべてを見てくれない。大切な町内の連絡はLINEと別タイミングで回覧している。
 - ・役員会の開催をグループLINEで済ませて極力減らした。
 - ・毎月の組長会をしていましたが、何も意見を発しない方が大半だったので現在は来ていただく組長の数を減らして輪番で出ていただくことになりました。今のところ支障はありません。
 - ・役員内でラインを導入したことで、小さな話し合いなどはラインで済ませることができた。
- 【活動にかかる費用の確保・自治会費の徴収】**
- ・会費の納入については、コンビニ振込サービス利用により、組長及び会計の業務を大幅に軽減できた。会員についても自分の都合のいいときに振り込めるので好評である。
 - ・昨年役員手当を少し値上げした。自治会費を年間 24,000 円から 20,000 円に変更した。その他不要な手当を削減した。防犯カメラを1台追加した。
 - ・自治会会費を各戸より直接集金方法を採用していたが、銀行振り込み並びに口座引き落としを採用した。一部ではあるが 2023 年度より導入、班長の負担軽減。
 - ・自治会費の集金の改善で、会計担当への軽減。
 - ・36 年ぶりに自治会費改訂による財政基盤の安定化。
- 【その他】**
- ・市民防災隊、民生委員など、必要な人員の確保。
 - ・各单位自治会の戸建て数が 200 件と多く、新たに単位自治会を追加するため、規約改正案とした。
 - ・臨時総会開催による規約改定(民生委員を役員として毎年選出※任期一年、役員の再任を認めなかったのを妨げないことへの変更、役員手当の総額を民生委員分の追加)。
 - ・自治会の組織の中でいびつになっている組を一部統合して活動しやすく改革した。
 - ・自治会規約の全面改訂(30 年前に市に認可された規約を今の自治会活動に合うように全面改訂)。
 - ・墓地管理を自治会長が行っていたことが大変でしたので、墓地管理会を自治内に置くことで運営をスムーズに行えるように、来年4月までに発足させる活動をしています(墓所有者は約 100 件)。
 - ・女性部の見直し。女性も多くが仕事を持っており、男女共同参画社会が進んでいる中で、女性に特化した役割分担、組織は必要ないのではという女性部からの提案を受け、組織の名称を「活動支援部」に改めたうえで、自治会活動に女性の視点、意見も入れるため、引き続き部員は原則女性とするものの、活動については、その世帯の男性が柔軟に代理できるように改めた。
 - ・高齢化が進み、県から委託を受けて行っていた除草作業をやめた。

- ・草刈り用の自走式機械を購入した。
- ・高齢化によりクリーンタウンでの清掃、除草活動が難しいと感じる人が増えた。有償ボランティアに草刈りを依頼し、クリーンタウンの時間を大幅削減(緑政課と協働中)、現在途中。
- ・公会所、公園等の除草を一部年長者で行っていただいています。
- ・隣接する自治会とのコミュニケーションは重要であり、防犯外灯の設置についてお願いをした。設備代を当自治会で持ち、毎年内の電灯料は相手自治会でお願いする。
- ・自治会員との距離を近くすることを目標に、ホームページの活用(施設利用申し込み、自治会への意見、自治会の活動を掲載、ごみの出し方ガイドブックなど)。施設の利用受付、苦情などホームページを活用し、対面での対応時間が激減した。
- ・組長会で人的支援が必要と伝えたことで協力してくれる意識が高まった。
- ・上から目線の役員ではなく、会員とのコミュニケーションをとり傾聴することで課題解決できたこと。
- ・何とか無理無理ではあるが、今までの取り組みを続けてきていることが成果であるとともに課題である。
- ・防災訓練は一部の住民が参加するだけで有効性に欠ける。そこで、三重県で初めて黄色いタオルによる安否確認を全世帯対象に実施し、住民の防災意識向上を図るとともに、災害時の人命救助に寄与することにした。

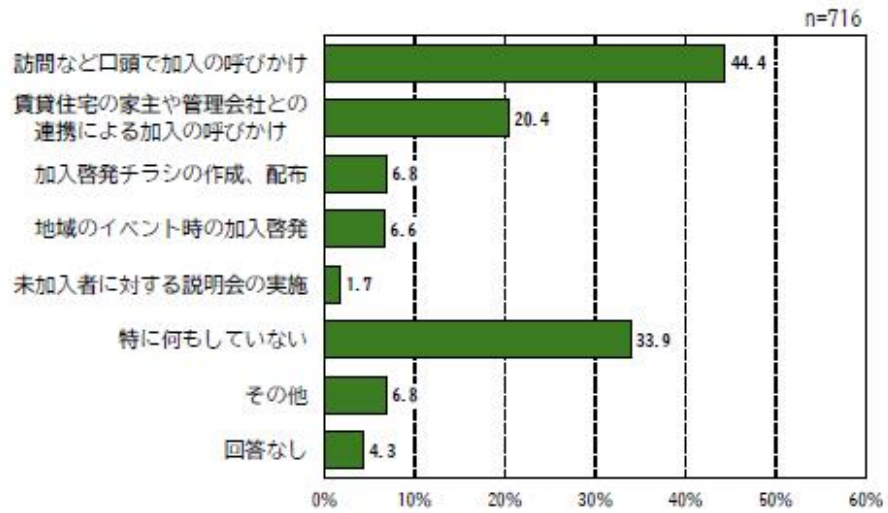
問17. 自治会活動のなかで、魅力に感じることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

自治会活動のなかで魅力に感じていることは、「近隣の人々と関わりを持つことができる」(75.4%)が最も多く、「災害時の助け合いにつながる」(55.7%)、「地域で共通する困りごとを市に要望・提案できる」(48.6%)が続いています。



問18. 自治会未加入者(転入者を含む)に対する取組について実施していることを教えてください。
(あてはまるものすべてに○)

自治会未加入者(転入者を含む)へ実施している取組は、「訪問など口頭で加入の呼びかけ」(44.4%)が最も多く、「特に何もしていない」(33.9%)、「賃貸住宅の家主や管理会社との連携による加入の呼びかけ」(20.4%)が続いています。



問19. 自治会について、ご意見がございましたら、お書きください。

自治会について、289人(340件)のご意見をいただきました。

内容	件数
課題	136件
各種会議の開催	5件
自治会員への情報伝達	8件
回覧板の配布	4件
自治会費の徴収	4件
地域内の他団体との連携・調整	5件
住民からの要望・苦情の調整等	10件
運営費の確保	3件
自治会加入世帯の確保	23件
各種団体への人材選出依頼	9件
市からの人材選出依頼	8件
土木要望のとりまとめ、調整等	10件
その他市からの依頼	7件
その他	40件
支援・提言	86件
人材育成のための研修会	5件
活動事例等の情報提供	5件
専門性を持った人材の紹介、派遣	3件
地域活動に関する住民への意識啓発	16件
他の自治会等とのネットワークづくり	2件
市からの依頼事項の軽減	8件
自治会運営への財政支援	5件
DX導入・普及の支援	10件
その他	32件
感情	24件
評価	73件
その他	21件

【内容】

■課題に関すること

【各種会議の開催】

- ・ 現状、多くの行事があるが、自治会の方が多くの場合行事に参加せず、自治会の活動に理解が難しいと感じる。自治会独自の活動を中心にして自治会の意義の向上に努めるほうが良いのではと考える(例えば公園の清掃、桜まつり)。特に自治会長会議においてもいつも連絡事項の説明だけで会議とは程遠いと思っている。せっかく自治会長が月に1度出席するので、お互いの問題点を解決するような意見交換の時間があっても良いと感じている。本当にこのままではいつかは住民の方から自治会の存在価値がなくなるのではないかと心配です。実際、全国的に自治会が減少しているところが増えています。
- ・ 連合自治会議のとき、時間の制約が優先されているように感じる。質問を途中で遮られ、その場で否定、または回答なく終わることが多い。
- ・ 地域内の苦情、要望、調整と、地区連合の会議や行事参加が自治会長に集中している。軽減要。
- ・ 仕事をもちながらだと土日しか動けないので制約が多い。
- ・ 総会、定例会等の報告が主目的の会議は不要。書類回覧でOK。

【自治会員への情報伝達】

- ・ 全員がPC、スマホを使えるならLINEやチャット等で対応できるようにしたい。
- ・ 回覧すべき内容は回覧と同じく資料配布していただけると助かる。自治会長会議からの情報展開を回覧準備するのが大変。かつ、自治会によりばらつきが生じていると感じる。
- ・ 自治会と社協(育成会、婦人部、スポーツ委員等)等のつながりを示したものがあれば(補助金含めて)全体像がはっきりしてくるので問い合わせ等あった時に対応しやすくなると思っています。
- ・ 基本的に自治会内主体の活動はなく、地区のスケジュールのみで運営しています。地区単位でA4用紙1枚くらいに役員活動内容や報酬についてまとめた資料を提供してほしい。
- ・ 育成会・敬老会・民生・福祉・スポーツ・人権教育等の組織もあり単独で活動のためイベント等の重複も見受けられ個人で優先順位を決めての参加になりますので、参加者を多くするためにも連絡体制の充実が必要ではないかと思えます。
- ・ 自治会活動の苦勞が、経験者は理解してもらえますが、一般自治会員にはなかなか理解してもらえません。自治会活動を自治会員に広報したいです。
- ・ 個人的には会議・行事等が多過ぎる。以前から思っていた事があります。防災倉庫の備品の点検を毎月する必要性があるのか?非常に疑問である。毎月各自治会の輪番制で当番が回ってくるが、本当に点検が毎月必要か実施していていつも不思議に感じます。
- ・ 現状では当自治会は戸建ての世帯が多いため、自治会内での情報共有、コミュニケーションも比較的しやすいが、一部集合住宅もあり、その居住者に対しては管理会社への連絡のみで特に直接コミュニケーションをとっていないのが現状である。災害時の対応含め、集合住宅との関わり合いを今後どうしていくべきなのかを考えていく必要があるように思われる。

【回覧板の配布】

- ・ 会長の業務を減らさないと、誰も会長を引き受けたくない。回覧板を見る人もあまりいないので、回覧回数を月2回から月1回にしてほしい。
- ・ ペーパーレス化。回覧板の縮小化。
- ・ 連絡員さんへの負担が大きい。例として、四日市広報誌のページ数が多く、軒数が多いと連絡員さんの配布も大変。
- ・ 自治会に入っていない世帯にも配布してほしいと頼まれることがあるが、自治会費も納めていないのにそこまでできない。

【自治会費の徴収】

- ・ 未加入者には年間出不足金を請求できる条例がほしい…各自治会で決定すればいいのですよね…
- ・ 自治会退会者に対して、ごみ集積場管理や防犯外灯点検などに自治会から費用支出することから、協力金名目で徴収できないか悩ましい問題があり、四日市市は「自治会の手引」を製本化しWEB上で公開すべきである。
- ・ アパート住民の未加入者も 2000 円/年は頂いてもいいと思う(ごみ、その他)。
- ・ 自治会長について、生活困窮者については会費を無料として、加入者と同等としている。会長が判断している。保護世帯についても同等である。

【地域内の他団体との連携・調整】

- ・ 現在、自治会が神社、寺院の運営に関わっており、氏子や寺方には強制加入ではなく自由加入となっています。しかし運営補助金や火災保険等の費用は自治会から捻出しています。特に神社については自治会の組が宮元を務めており、負担が大きい状況です。神社費は町費とは別に集めていますが、官司への謝金や運営費を自治会費から支払っています。昭和の時代から継続して実施されてきていますが、法的に問題はないのでしょうか。
- ・ 近隣の一人暮らしの年配者の安否確認を市の民生委員、自治会のどこがするのか、考える必要があると思う。
- ・ 自治会から見て社会福祉協議会に所属する各種地区委員の活動内容がほとんど見えてこない。地区委員は社協からの要請を受けて、自治会から人員を選出しているが、自治会との乖離がみられる。自治会が他の地域への貢献を目的の一つとして掲げている以上、自治会と社協との連携を深めていきたい。地区委員の活動がもっと見える工夫はできないか。
- ・ 共同で管理運営している集会所の活動分担金を支払わない自治会、育成会への補助金の支出を減らす自治会への対処方法。
- ・ 自治会は、行政組織や四自連・連合自治会及び地区の各種団体等からは独立した団体である(当自治会は認可地縁団体)。したがって、それらの組織からは何らの拘束を受けず、義務を負うものでないことを再度確認し、徹底願いたい。

【住民からの要望・苦情の調整等】

- ・ いま全国で問題になっている移民、難民、不法滞在等の外国人が、地区の空き地、空き家を購入して住み始めた場合、日本の、四日市の、地区のルールを守れば良いが、誰がルールを

- 教えるのか？言葉は通じるのか？守らない、そもそも守る気もない場合、どう対処すれば良いのか、行政によるガイドラインが必要と考える。
- ・ 住民からの苦情に対して、まずは自治会長に相談してくださいという案内はやめてほしい。草刈りに応じない空き地等の土地所有者に対する対応を求められることが多いが、自治会には特に権限はないため、市からの強い対応をお願いしたいと考えます。
 - ・ 地区の中には自治会活動に非協力的な人も何人かいます。また、高齢の独り住まいの人もいます。何度も苦情的なことを言う人もいます。色々な人がいるから社会であり、面白いところでもあるけれど、それをまとめるのに会長はじめ役員さんたちの技量が試されるのでしょ。自治会は生活の根底にある組織だと思うので、誰もが入会するべきものだと思いますが、拒否する人はその人の人生であるのだと思います。
 - ・ 自治会役員も仕方なくやっている。自治会長以外の役員の責任感の欠如。自治会長を便利屋と勘違いしている人がいる。自治会長の家族で他の役を引き受ける場合がある。地域住民が嫌いになる。
 - ・ 地域内の苦情、要望、調整と、地区連合の会議や行事参加が自治会長に集中している。軽減要。
 - ・ 困りごとや隣の家に伝えたらよいことを自治会長に相談したり、解決を求めたりすること。自治会長としての仕事かと思うことがある。
 - ・ 自治会長の仕事とは何ですか。ペットのフンやペットに関する相談。住民が市に連絡すると「自治会長に言いなさい」とか？自治会長という割には個別の対応をすとか。行政のやるべきことと自治会長との切りわけがあるのか？
 - ・ 住民さんより組長さんへ→会長へ連絡。困り事相談(会長が判断する)。
 - ・ 日常的に自治会長への依存度が高い。
 - ・ 加入、未加入で不平等感が住民にあります。任意なので、働きかけに気を使います。
- 【運営費の確保】**
- ・ 町費においては約40%を各種団体の会費や寄付金などでとられてしまっていますが値上げもできず、町内会へ入るメリットは皆無に近いです。このような状況では町内会の存続も危ぶまれ、早急な対策が必要と考えます。昔ながらのやり方や考え方を大幅に変えて、今の時代に合った運営ができると良いと思います。
 - ・ 公会所の維持、管理費が負担になっている。
 - ・ 年金世帯増加による町会費の負担。
- 【自治会加入世帯の確保】**
- ・ 今後はさらに高齢世帯が増えることで本活動の運営が成り立つのが課題。役員、組長もできかねる世帯に無理にお願いすることは難しいので、結局動ける世帯でまわすことで負担が重くかかり、若い方でも脱退に行く方向にならないかを危惧しています。
 - ・ 当自治会での新規加入者については、さほど問題はないのですが、他の自治会での状況を聞くと世帯数の1割くらい加入してもらえず、特に近年転入者の未加入者が多いとの問題を抱えているようです。当自治会も他人事ではないと思っております。市も自治会も転入者への自治会加入は推奨止まりであり、強制力がないのはわかっています。しかしながら、未来

のことを考えるなら少しばかり転入者が安易に気安く自治会加入できる道筋を、市と自治会と連携し行っていかなければ自治会の遠い未来は先細りな感じがします。

- ・自治会へ加入すべき条例を制定すべきではないでしょうか。
- ・商業地の自治会なので、自治会加入について家主さんはテナントへ直接というし、テナントは逆を言って加入しようとしない。昔は店＝家が多かったが、家主は今は他地区で居住しており昔のつながりはほとんどなく、家主からテナントへの加入のお願いもない。HPを見ても一般住人向けの加入案内しか見つからず、ほぼ活動が破綻していると言っても言い過ぎではない我が自治会である。テナント向けの加入案内などほしいと思う。
- ・最近あちこちに建設中のマンションのグループが地域の自治会に大変非協力だという話をよく聞く。当自治会も2027年完成予定であるが、独自の自治会をたてるのは良いとして、連合に加入していないのは問題だと思う。管理会社は「販売後は管理組合が決めることだから」と逃げの言葉ばかり。そのようなトラブルに対して市がどのように対応し、解決を考えているのか。また、そのようなグループを市内に許可している意図が知りたい。
- ・役員になるのがめんどくさい、加入にメリットがないという理由で未加入の方がとても多い。マンションで人の入れ替えが多いが、個人情報なのでその情報を入手できず、転入者の加入を促せない。
- ・近年、自治会の加入率が減少してきている中で、転入者が自ら自治会加入を当然のように入会の申し出がありありがたく思っている。しかしその一方で、市の加入促進条例があるにもかかわらず、加入しない、自治会を退会する住民がいる。権利ばかり主張し、自治会員である以上組長など輪番で回ってくるがやりたくないなど勝手な住民が増えてくると自治会運営に支障をきたすことが懸念される。
- ・任意加入としているのに、転入時以外に問18のような働きかけはできない。これからどんどん退会者、非加入者が増えてくると思う。市として動いてほしい。
- ・自治会長が行うことには限界がある。賃貸住宅の管理会社への自治会加入の働きかけは市からやってもいいのではないか。可能なことは民間委託へ。
- ・今後さらに自治会を退会する人が増える。四日市市は自治会を支援する行動をしてほしい。自治会が管理しているごみ集積場には「自治会に加入していないと捨てられません」としてほしい。避難行動要支援者リストに自治会未加入者が入っているが、未加入者への支援を自治会に任せるのはおかしい。自治会に入るメリットが何もない。
- ・未加入者が多く不公平感があり、組織運営上困っている。転入時に本人から連絡がなければわからない。
- ・自治会の活動は数多くの協議会等の組織がありその中で活動していますが、現在の役員は地区役員輪番表・自治会では組長迄輪番・くじ等で決めており、活動内容も分からないため、自治会の会員活動はおろそかになってきています。また、高齢化・子育て・共働き・物価高・通信技術の進歩など生活環境も著しく変わってきていますので、役員世代交代・活動の方法・内容・協力体制などは変えなくては自治会会員の退会者がますます増えるのではないかと思います。

- ・新規入居者がほとんどなく、住民の高齢化に伴い、病気、体力面の問題で自治会役員選出の免除者が多くなり、自治会の運営が非常に難しくなってきた場合、どのような対応をしたら良いか苦慮しています。
- ・自治会未加入者に対して市からも協力してほしい。チラシだけでは説明しにくい。
- ・アパート住民の情報が取れない。個人情報自治会長へ提供できないのか？
- ・未加入者への自治会への加入の意義の周知が不足している(いろいろな行事に際して、好きでやっている、自分らには関係ないと思っている)。
- ・管理会社は自治会があるのは知っておられるが、連携はしていただけない。
- ・市民センターにて新規居住者への自治会加入を強く要望して欲しい。
- ・会員の高齢化と集合住宅の住民に入れ替わりが多く、個人情報がわかりづらい。
- ・高齢化(一人住まい)が多くなっている。組入りの限界(町費、組の作業)。
- ・退会に関して市が軽々しくOKを出しすぎ。
- ・自治会は必要な機関と思いますが、今後自治会加入のメリットがないと退会、未加入者が増え、ごみ管理等自治会会員に負担がかかってくる。ごみ捨て場所など市としての明確な対応を提示し、未加入者との区別も必要と考えます。未加入者が増えると大規模災害時に横のつながりがなくなり、被害拡大とならないようにしたい。
- ・自治会加入は任意であるが、少し強制力を持たせた勧誘方法がないものか。老若男女問わず難しい問題である。社会情勢の変化に伴い、自治会の位置付けが希薄になっている。

【各種団体への人材選出依頼】

- ・各種団体及び市からの人材選出依頼への対応に大変苦勞している。人材選出のやり方を自治会依頼以外で検討してほしい。
- ・高齢者だけの世帯が増えてきており、自治会役員のなり手がなくなっている。組長は何とかやれるが、副会長/人権/社協/健康作りなどの各種団体を担当するのであれば、自治会をやめざるを得ないといった人が多くなってきている。背景にあるのは高齢化による身体能力低下だけでなく、各種団体の会議開催頻度が多すぎることや、行事への動員などが負担になっている。外部団体から脱退する様な意見も出てきているし、真剣に脱退に向けた議論を行う必要を感じている。行政としても、連合に未加盟の自治会(自治会そのものを解散)が出てきたときの対応について議論を進めておいていただきたい。
- ・自治会長だけでなく、他の役員選出も大変困っている。〇〇委員会がたくさんあるが、減らせないのかと意見も出ている(高齢だから、パートで何度も休めない等)。高齢でも元気な方はたくさんいるが、会は夜になることも多く、車の移動は避けたい。イベントが多く、土日の勤務に影響が出る。
- ・市を含めた関係団体、市からの依頼事項のとりまとめや人材の選出に苦慮しています。このような状況では町内会の存続も危ぶまれ、早急な対策が必要と考えます。昔ながらのやり方や考え方を大幅に変えて、今の時代に合った運営ができると良いと思います。
- ・地区内でも単位自治会でみると加盟世帯数の大小がある。当自治会のような加盟世帯数の小さいところでは、地区内で決められる業務の担い手を選出するのに無理な面がある。防災活動などでも以前にも増して自治会から担当を選出しなければならない形になっているよう

なので、こういった点を解決する方法が出てくるとよい。例えば単位自治会で同数の人数を出すのではなく、単位を複数自治会にして、そこから選出等。とはいえ当自治会の世帯数が少ないのがそもそもですが。

- ・ 今後の自治会長及び役員等の選出について、自治会長及び役員の選出は合議制で実施しており、任期はあるものの就任期間が長くなる傾向となっている。防災隊長は担当業務が多いことから後任の選出が厳しい状況。また、会計及び民生委員の選出についても自治会役員内で持ち回り。長期就任は意思決定が固定化しやすいので、新しい方の選出(女性も含む)も含め、後任選びについてしっかりと検討していきたい。
- ・ 各種委員の選出を廃止してほしい。民生委員など地域の人材を利用せず、市から業者へ委託するなどしてほしい。人材がないため、選出時に問題が生じている。人間関係、トラブルに発展しそうである。
- ・ 役員、関係団体委員の選出に労力負担が多い。
- ・ 自治会長になると、他団体への参加が義務になっているが、それが負担になるので担い手が決まらない。

【市からの人材選出依頼】

- ・ 各種団体及び市からの人材選出依頼への対応に大変苦勞している。人材選出のやり方を自治会依頼以外で検討してほしい。
- ・ 少ない世帯ですのでイベント等の動員数の見直しを検討してください。
- ・ 市を含めた関係団体、市からの依頼事項のとりまとめや人材の選出に苦慮しています。このような状況では町内会の存続も危ぶまれ、早急な対策が必要と考えます。昔ながらのやり方や考え方を大幅に変えて、今の時代に合った運営ができると良いと思います。
- ・ 古くからある町ではなく、世帯もすべて戸建てで地元民が少ないと思われ、そのためどのような住民が居住しているかほとんど分からない状態であり、コロナ禍以降は町内でのイベント(隣人祭りや餅つき大会など)が無くなったのも自治会活動を衰退させてしまった原因の一つと考えられる。以前は町内回覧でイベントを考えようとバス旅行や見学会も提案されたが賛成多数とはならず、また新たに転居してくる土地がないため小学生のこどもの数も減ってきており親同士の交流も減り町内での活動意識が個別化してきている中で、昔ながらの取り組み(民生委員や国勢調査員)は難しくなっている。町内で適任者や推薦者と言われても人となりも知らない状態では如何ともしがたく、既存の活動で精いっぱい感じではあった。町内の自治会員は必ず1度は何れかの自治会役員の任に就くとあるので自治会の活動は最低限での関わりという認識や雰囲気がある。そのため役員と組長・自治会員の間に意識のズレが発生し進む方向が一定とはならず物事を決めるにも苦慮している。今回のアンケートから活動に対する住民への周知啓発や各課題について改善できるように協力頂きたい。
- ・ 民生委員の人選が難しい状況です。
- ・ 民生児童委員の選出は自治会長に任されている。行政(市民センター館長)がもっと協力を！
- ・ 自治会内世帯が少ないため行政委員等の人選が困難。

- ・歴史ある在所ほど地域行事や出会い作業が多く残っているうえに、地区・市・各種団体の活動が上乘せされている現状で、上位役員の活動が多く、多忙と心労が絶えないことから担い手不足が増長している。

【土木要望のとりまとめ、調整等】

- ・道路整備に関すること 道路の陥没等の解消。
- ・公園の管理を自治会長がするため、重機が必要で困る。
- ・四日市への要望の対応が遅いこと。特に周辺の草刈り、予定通りをお願いします。遅れるときの連絡がない。
- ・耕作されない田が多く、雑草が背丈ほどに伸びて荒れている。墓地に行くにも通行しにくい。高齢で管理できないのか、または土地を貸したり売却して管理しないのか。以前のように関係者が用水路の土砂清掃、草刈りをしないと耕作している人が困る。
- ・土木要望などは、とりまとめや住民への説明、承諾書の取り付け、街灯の移設などを自治会で行うように指導されて、大変な思いをしています。このような状況では町内会の存続も危ぶまれ、早急な対策が必要と考えます。昔ながらのやり方や考え方を大幅に変えて、今の時代に合った運営ができると良いと思います。
- ・町内の土木要望は生活に直結する重要事案であり、予算がないからできない。何年待ちの状態(考え方)の見直し(施策)を強く要請する。
- ・地区要望について。認定道路(生活道路、農道)があるが、自治会としては生活道路を優先し、農道までは難しい。
- ・当自治会は今までに幾度となく浸水被害に遭遇しています。令和7年の9月12日深夜の短時間大雨には町内の多くの家屋が床上・床下の浸水被害をこうむりました。この町の地形は大小の川に囲まれ、いったん大雨が降れば低い土地であるために雨水がたまりやすく、浸水被害にあうのは必定と考えます。今回も含め自治会の力では解決できないのが実態であり、町内に流れ込む水量をいかに減らすかは行政に頼るしかないと思います。雨水流入抑制のために計画されている「まつの雨水2号幹線」の整備完了を早期に望みます。
- ・空家の雑草の処分。特に2件の対応が急務。
- ・地域内の工事について、会長の承認を工事業者が貰いに来るが、現役の会長は対応ができません。

【その他市からの依頼】

- ・民生委員、国勢調査員選定など、面倒なことは自治会任せにしているが、市職員のOBから選ぶとか市が動く必要があるのでは？自治会は住みよいまちをつくるためにあり、市の面倒な処理をする団体ではありません。
- ・募金、寄付金を市の下請け的に自治会が徴収するのはやめられないか。赤い羽根も赤十字も必要性は理解しているつもりだし、個別に集金して回る人材もいないので、自治会一括支払いを便宜上しているが、後進に強制はしたくない。
- ・何か地域の催し物のとき、スタッフ不足の場合にとりあえず自治会から何名と、自治会の出番が結構多く感じる。

- ・市から民生委員、国勢調査員の人材選出依頼があったが新人の自治会長では人材選出を行うのは無理がある。市で人材選出を行ってほしい。
- ・行政の下請けが多く、独自のものを模索する余裕がない。
- ・市からの雑用が多々占める。例として、ポスター張り付け、雑用等。
- ・市職員の仕事であっても自治会へ持ってくることが多い。

【その他課題】

- ・自治会に加入しなくてもごみ出しができ、防犯外灯の恩恵も受けることができるので、日常生活には何の支障もないとの声があります(ごみ集積場の備品、消耗品の購入や管理当番、防犯外灯の費用も自治会が負担している)。加入しないことで会費の支払いも不要となり、役員・委員・組長・ごみ集積上の当番もせずに済むため、会員の中には不公平感もあり退会希望世帯の増加が危惧されます。高齢化も進んでおり、最悪解散せざるをえなくなった場合のごみ集積場の課題や防犯外灯の費用拠出に対して、行政はどのように対応していただけるのかのお考えをお聞きしたいと思います。
- ・人口の減少で組の存続も危ぶまれる。他の自治会との合併も検討すべき。
- ・やはり市民センターの方々は、企業で働く利益追求の仕事の段取り、仕組み、考え方が違うため非効率。また、団体事務局の時間があまりにも短すぎる。月水金の数時間だと、現役の私は行くタイミングがない。
- ・本年度の自治会長に任命され活動を行っておりますが、それまでは自治会活動にはほとんど参加していない状況でした。会長になったことで、自治体や自治会に支えられていることが多々あるということに接し、今後の自治会活動につなげていけたらと思っております。要するにほとんどの住民の方が、自治会活動を認識していないのではないかと思います。そのことが一番の問題ではないでしょうか。
- ・世帯数の少ない自治会は1世帯当たりの自治会費が高くなり、自治会としての総収入は少ない。よって、役員手当は少額となる。また、組数が少ないため組長数が少ない。一方やるべき活動は大世帯自治会と同じであるため、役員、組長1人当たりの負荷や動員率が高くなる問題あり。
- ・町独自の活動だけでなく、四日市全体の町民で構成する組織、そして事業内容の見直しが必要である。実際市民が求めている活動で、人数が集まらない活動があり、強制的に人集めしている活動があることも実情である。
- ・各組の人数(6～43世帯)に差があり、いろいろ対応が難しい。
- ・自治会イベントを軽減させる。開催ありきとしない。例年実施したから今年も、ではなくしっかり検討する。
- ・自治会関連の仕事が多すぎる。大胆な改革が必要と考える。
- ・高齢の方が増え、若い方の地域活動の参加が減る。
- ・地域の委員や行事動員要請を自治会世帯数や人口を基準にして割り当てているが、実態は高齢化により体に問題なく活動できる人は減少している。自治会員の人口ピラミッドや高齢化率を参考にすべき。加入している地域団体の退会も考えている。

- ・一番の問題は役員のなり手がいないこと。自己犠牲が多く、敬遠されている。特に輪番制、くじ引き等は強制力が伴い住民に不安を与えている。これらを払拭するには自治会運営をオープン化し、会合や業務の簡素化が求められている。誰がなってもできるというイメージ化が大事と思う。
- ・自治会の規模によって会長の動きが違うのがみえる。軒数が大きい自治会長は活動が積極的(やることが多い)。少ないところの会長は消極的(少ない)。
- ・我が自治会は世帯数 22 世帯と小さく、役員選出が大変困難。隣の自治会等との合併が必要か。22 世帯のうち9世帯が後期高齢者。
- ・自治会に加入するメリットよりデメリットが大きい。加入しようと思う者が少ない。加入するメリットの説明ができない以上勧誘も困難であり、個人情報保護重視により共同住宅の居住者も把握できない。現状の制度を継続させるのであれば、自治会加入者しかごみ捨て場を利用できないなど何かしらメリットを増やすほかないのではないか。
- ・現在の環境が個人主義になっているため、地域社会に対して関心のないことが自治会運営に支障が出ている。会長を担う場合、補助金がもう少し多ければ担う人材も増えるのではないか。ごみ問題が多く、現在のルール、各人のモラルが問題ではないのか。外国人の存在があるため、言葉の問題が発生している。対策が必要では？
- ・場所柄、徒歩での出勤経路になるため他の町の人もごみを出していくことに困っている。
- ・今までのような自治会への活動を一部の人員に頼るような運営組織ではもう限界である。社会状況の変化をもう少し行政でも考えて、自治会をどう維持していくかを真剣に議論してほしい。ただ条例を設定したからとかではない。また、自治会長の個人情報というのは工事業者等含めて外部にだだ洩れ状態ですが、この点についてはいかにお考えでしょうか。
- ・自治会は企業を定年退職後などある程度時間が自由に使える方や、自治会の仕事を名誉職として尽力してくださる方々によって運営されていると感じます。年中行事、防犯、防災、清掃、行政広報、全てを自治会が担わなければならないのでしょうか。働き方も変わり、生涯働かなければ暮らしていけない時代に合わせた組織に変わっていかないと加入者も減り、ましてや自治会長を引き受けてくれる人はいなくなると思います。
- ・資源物等のごみ収集所の処理に困っている。各組の当番制にて実施しているが、高齢者が多くなり自治会員の負担が大きい。直近の課題。
- ・小人口自治会のため、ただただ人手不足を感じています。
- ・9月の四日市市内に発生した地下駐車場の対応について、危機管理課が主として対応にあっているが、危機管理課に他の業務を依頼しても、職員が忙しくて対応できないだろうと慮って連絡をしなかったが、数日後に必要となり、連絡を取ってみたが、まだまだ忙しい様子であった。大地震・広域災害時であれば致し方ないが、発災時にはまず、対応できないと肝に銘じなければと確信した。大災害時の事態となれば、地区内での活動に終始しなければならないことを痛感している。
- ・高齢化により清掃等の用役を果たすのが毎年難しくなっている。
- ・今年から自治会長をさせていただいていますので、昔がどのような体制で行ってきたかはわからないですが、コロナが明けて個々の価値観に対する傾向がより強くなるなか、皆で協力

して行うことへの無関心さが多くなってきているような気がします。行事には出るがその行事を手伝うなどは嫌がる方が増えているように感じます。このようなことは昔もあったかと思いますが、それなりに仕方なくやっていたように思います。今は忙しいからの理由で断るケースがあり、理由としては子ども、親の面倒(看護)、仕事、趣味等々などがあげられます。行事を行う方の顔は一緒に、その方もだんだんと疲弊し、やがては参加しなくなる負の連鎖にならないためにも、たくさんの若い方への参加をお願いしたいと感じています。

- ・ 定例に行われる行事、調査等は専門に行う人が必要(ボランティアでないこと)、役所との関係で平日 17 時までにはセンターへ出向くことが多々あるが、会社を休まなければならない、年間 5~10 日は必ず必要。現役の者は生活に支障をきたす。
- ・ 高齢化も進んでいるので、年齢制限を設けてほしい。(各組長さんも 80 歳超えた方だと気の毒すぎる)。
- ・ 担い手不足、育成がやはり難しい。自治会及び地域社会への参加の向上。
- ・ 会長等役員のみなり手を確保することが難しい。長年役員をしている方が多い。
- ・ ごみの不法投棄。特に大型家電。一旦出されたら持ち帰らず処分に困る。
- ・ 次の会長のなり手がいない。
- ・ 候補者がいない状態のなかで、我々の自治会では推薦選挙でどこのだれかわからない人に決まる。当てつけ状態のなかで活動、運営している状況。また、上下関係も不明確でうまくいかない。
- ・ 自治会は必要ではあるが、自治会加入時のメリット(個人単位)があまり感じられない。仕事の休みを自治会の行事に合わせなければいけないことが多い。
- ・ 当自治会では 60 代では就労者が多く、時間的に役員ができない人がほとんどで、人選に大変苦労しています。自治会を継続、維持していくのが大変難しくなっています。70 代になるとデジタル化についていけないため役員を断られたり、パソコン、プリンターがない等で役員を引き受けてもらえません。また、この自治会においては住民同士の意識が希薄で、コミュニケーションもなく、今後災害等が起こったとき住民同士の連携が取れないと思います。
- ・ 自治会活動への意識低下のためイベントを開催しても集客が難しく、今何を求めているかを調べていくことが必要と感じる。また、今後の役員育成のため、前年度役員数名は残留できる体制を整えることと考える。
- ・ 短期間(1 年ごとに交代)では無理がある事は、経験してつくづく実感しているが、長く務めすぎる方がもっと問題が多い。
- ・ 目的、活動は素晴らしいものであるが、運営時の協力を得ることは困難である。
- ・ 高齢化が進み、役員等の後継者不足の深刻化。家屋の修繕を口実とした訪問による詐欺まがいの商法や、特殊詐欺等の被害にあわない地域づくり(近隣に相談が行いやすいコミュニケーションづくり)。
- ・ 自治会に限らず育成会・PTA・民生委員等の地域活動に対する住民の意識・価値観の変化への対応に苦慮している。行政側や四自連もこれからの変化を踏まえ、不要不急業務の削減や思い切った業務の改革など、柔軟な変革と対応が必要である。
- ・ 会長のやり手がいなくて本当に困っています。他の自治会でも同じ悩みをよく聞きます。

- ・ 今後の高齢化が課題。

■支援・提言に関すること

【人材育成のための研修会】

- ・ 新自治会長に選出されたスタート時期(4～6月頃)には、例えば地区連合自治会からの各種情報提供、届出書類などの内容の詳細説明など、きめ細かなフォローがあったら良かった。なお、役員交代時には町民からの期待が、感情的な物言いも含め要望や苦情に近い話もあつたりして、私のように現役で働いている者には使える時間も限られて、疲弊した。
- ・ 今後町内の中心になれる人物を育てていけるような研修、講習などの紹介。
- ・ 地域振興推進はまず自治会未解決事案の解決。少子高齢化時代の進行と共に、空き家や耕作放棄地の増加も進み、また、農業後継者の不足(跡継ぎの農業難れ等)から耕作地の土地活用とした太陽光発電の開発が近年、この陽当たりのいい茶園や傾斜地の山林において活発化してきています。そのためと思われませんが、地区のあちらこちらで道路の冠水が発生し、その都度隣地住民は浸水への対応を余儀なくされています。温暖化の異常気象は、解消されるとは思えません。四季が二季になるとまで言われています。この太陽光発電の開発等による住環境悪化の影響は現在より近い将来に向けて大きくなりつつ、住みづらい集落の烙印となり、どんどん増えると思われる空き家の解消、並びに空き地活用施策も進みません。自治会は、増えすぎた太陽光発電の開発(行政が追いついていない政策)による生活環境の悪化、特に町民の生命と財産を守るための活動が優先であり、そのためには行政との協同が欠かせません。農地(耕作放棄地)等の有効活用に太陽光発電を否定するものではありませんが、現在の事業者主導の太陽光発電の開発を改め、官民協同の農地等の有効活用に方向転換する時期にきていると考えます。上記にも記しましたが、農地等(耕作放棄地)を抱える町民の多くは活用方法も当てがなく、事業者の言いなりで勤められた太陽光発電の開発は大きな問題を生んでいる。このような状態の中で自治会の活動等について現在の活動を将来的にも維持していくため、果敢に挑戦できる人材発掘(育成)！と引き続き行政のご支援が必要と考えています。
- ・ 若者が自治会役員を進んで参加できる方法をアドバイスしてほしい。
- ・ サル追い払い講習会を開いてほしい。

【活動事例等の情報提供】

- ・ 未加入者への対応事例があれば知りたい。
- ・ 他地区での活動の参考事例等、多くを紹介してほしい。
- ・ 自治会、市民センター共に負担軽減となる類似地区の活動事例を共有してほしい。
- ・ 自治会の役割・あり方等について、他で参考になる事例等はないでしょうか。
- ・ 自治会長を長く務め表彰されている現状を見ると、後継者はどのように引き継ぎをするのか事例を教えてください。

【専門性を持った人材の紹介、派遣】

- ・ 無報酬で行って行くにあたってはあまりにも協力的になれない。自治会費でもなんでも依頼してもいいから外部運営にしてほしい。
- ・ アウトソースも考えてほしい。

- ・一番望まれることは、自治会運営に関して有望なセカンドキャリアが可能な人材を四日市市で委託されるか、それに類した方法に変更される方が良いかと考えます。

【地域活動に関する住民への意識啓発】

- ・自治会は何のためにあるのか。自治会に加入しなくても日常生活に支障はないので加入しない。自治会の必要性を行政の立場からPRしてほしい。
- ・自治会未加入でもその地域での暮らしの質は同等で、自治会加入者は損でしかない。例えば市内企業や連合組合と連携して、雇用主から加入を促す、地域社会への貢献による企業ブランド力向上等に結びつけるようなアプローチも必要と感じる。
- ・集合住宅の住民の割合が多くなってきたのが主な原因でもあるが、自治会活動に無関心な人が増えた。これは高齢者の割合が増えていることも原因であり、年をとると気力がなくなり、若い人は自分の生活が中心で自治会活動まで意識が行かない。日本の社会情勢や、自己中心的な教育の関係とも思われるが、このままでは災害のときに困るので、自治体としてこども(小中学校)の教育から意識を変えるような取り組みを期待したい。
- ・少子高齢化が進んでおり、町としてまとまった活発な活動は期待できない。個別対応するにしても専門知識、専門性がなくどのように対応したらいいかわからない。また、専門知識を体得している時間もない(現役で仕事を持っており時間がない)。思い付きで恐縮だが、女性の自治会長だともう少し活発な活動につながるような気がするが…
- ・人間関係の希薄化に伴い、自治会活動への不関心が多くなってきている。向こう三軒両隣の声掛けの必要性をいかにアピールできるかが課題である。
- ・自治会離れはどの自治会も共通の課題。市も「自治会加入・活動推進条例」は制定したものの、その必要性を周知している状況が見えないので、もっと積極的に関わってもらいたい。
- ・自治会活動の意義や活動状況について、市広報誌などでもっと広く市民に紹介してほしい。
- ・自治会未加入者に対するごみステーションの使用可否が全国的に問題となっており、福井県においては使用料を徴収し使用を認める判例がでた。本自治会においても自治会退会希望者が退会したらごみを捨てられるのかと言ってくる。下記文言参照に、捨てられるが鍵当番の継続をお願いしている。連合自治会活動マニュアルより、加入未加入を問わずごみを出すことはできる。一方で未加入の方もごみ集積場の維持管理については地域のルールに従って協力していただく必要があります。これについては市においても引き続き周知徹底、啓発をおこなっていきます、と記載されている。四日市市として、自治会未加入者に対してのごみ捨てルール指針を出していただきたい。
- ・自治会活動の有益性を市としてもっとアピールしてほしい。または自治会に入っていないと不利益になるようなことがあれば何か頼むとすぐに自治会を脱退すると言われる。
- ・自治会推進条例に基づく未加入者の問題は、賃貸住宅の家主や管理会社としっかりと連携して協力を加入を呼びかける必要がある。特に昨今のように災害が頻発する際には、地域コミュニティに未参加の住民とのトラブルが頻発しています。道徳規範の問題なので一朝一夕で解決できるものではありませんが、自治会条例の執行が重要です。また、ハンディキャップを持つ住民や外国籍の人たちへの呼びかけも重要です。彼らへは意識啓発だけでなく、昨今の外人排斥風潮に振り回されない周辺地域住民の意識改革も重要だと考えます。

- ・現状自治会長が民生委員、児童委員の選出を義務付けられているのを、市としてのデータを活用して適任者への働きかけをお願いしたい。
- ・定年退職者が自治会長を務めるとの考えが、いまだに浸透していることに対し、行政が啓発するべきと考えている。
- ・転入届を受理するときに、自治会参加を強く促してほしいです。この町では軒数も少ないので、意外とスムーズに入会してもらっている。
- ・自治会が必要であることを分かってもらえるような取り組みを行政で行ってほしい。
- ・自治会活動の大変さに比べて報酬がないので、誰もやりたがらない。やりたがるのは虚栄心の強いクセのある人が多い。住民に、誰かやってくれるだろうという考えから自ら率先して活動するように、自治会活動の内容を周知してもらう必要がある。
- ・時勢で自治会未加入者が増加している。市では「自治会とは」という内容での文書があると思うが、決まりきった内容で魅力を感じない。良い事例を映像(SNS、DVDなど)で紹介したものがつくれないか。

【他の自治会等とのネットワークづくり】

- ・自治会運営について、他の自治会では組長会議の実施状況や役員・組長への報酬の有無など情報交換できる機会があればと思います。
- ・自治会長という役目をして初めて、自治会の役割や重要性、必要性を知ることとなり、いかにその部分を町民や役員に知らしめ、理解してもらうかが自治会発展の肝となると思う。自治会の努力も必要だが、1～2年交代である現状から、市からの支援または自治会相互間の情報交換連携がより必要と感じる。

【市からの依頼事項の軽減】

- ・国勢調査は対面での配布をやめて全戸ポストインにすべき。異常な人間がいるため、調査員の負担が大きすぎる。市民へ委託するならそこまで考えてほしい。また、要支援者について、当地区では自治会長が1件ずつ回ってヒアリングし、避難計画を策定することになっている。一個人がそこまでしなくてはいけないのか。国や市がすべき内容ではないのか。
- ・要援護者名簿の更新は年1回ですが、その間に要援護者が転入されたときには、民生委員だけでなく、自治会長、自主防災隊長にも連絡してほしい(特に緊急連絡先)。質問として、自治会未加入者の方は要援護者名簿には記載されませんか？市の方では自治会に加入・未加入は把握されていますか？未加入の要援護者には自治会ではどう対応したら良いでしょうか？また、このアンケートの結果還元はありますか？それはいつ頃になりますか？3月までの任期中にはできますか？ 今後はポスターのラミネート加工は一切やめてください(掲示後の処分に困ります、再生紙となりません)。空き家に空き巣が数軒続けざまに被害が発生したが、警察は所有者からの届けがないと対応してくれない。所有者への連絡先が分からず、連絡先が判明するのに時間と労力を要した。空き家の実態把握とその所有者連絡先を調査の上、その結果を自治会にも提供してほしい。ごみのネット更新等の場合、一度申請に市民センターに行き、後日また取りに行く二度手間である。申請は電話で受付を可とするか、デジタル化を推進しているならネットでの申請受付ができるようにしてほしい(もっと働いている者に配慮をお願いします)。現役世代が役を引き受けやすいようにしてください。

- ・ 定年延長等で、サラリーマンが自治会長を担う者(私も同様)が今後も増える傾向にある現状を踏まえていると、仕事量の軽減化も検討しなければならないと思う。
- ・ 役員の皆さん忙しいので市からの依頼事項は極力減らしてほしい。
- ・ 国勢調査をするにあたり、自治活動が多く後期高齢者負担である。市ができる人を募集して行っては？
- ・ 高齢化や仕事等で多忙な役員さんも多いと思いますので、少しでも負担の軽減が必要(草刈りの作業委託、組費の振込等)。
- ・ ごみステーションや防犯街灯、消火栓ボックスの管理など、自治会任せにせずに市直営で行うようにしてほしいと思います。
- ・ 環境部門についてフラワーロード花植え・水やりをしています。当地区も花植え・水やりもやっていますが、公園の草刈りを含め住民だけでやっています。フラワーロード花植え・水やりから自治会長を外してほしいです。

【自治会運営への財政支援】

- ・ 自治会長を引き受けることによって発生する負担に比較して報酬が低すぎる。特に自治会長以外は無報酬で負担を強いられており、町費から支払いたい思いはあるが財政的に厳しい。
- ・ 制度や既存概念にとらわれず、これまで以上に住民中心の考えに立って支援をお願いしたい。特に財政支援では、あれはダメ、これはダメではなく、一度やってみようという考え方をお願いしたい。
- ・ 自治会とは市として地域活性化活動の補助的役割を担っているともいえる。財政の問題もあるが、自治会の負担を軽減した補助金制度を考えてほしい。
- ・ 自治会長の手当てをつけてほしい。
- ・ 予算が少ないため、助成いただきたい。

【DX 導入・普及の支援】

- ・ DX推進に対する補助金(通信費、機器購入費等)を早急に検討してほしい。
- ・ デジタル化、ペーパーレス化が進んでおり、回覧板という制度も古いのではないかと思います。回覧のスピードも遅く、スマホ等を活用した新たな伝達手段が必要かと思います。
- ・ 地区市民センター長の協力により、スマホで回覧板のPDFを見ることができるようになったが、文字、画が小さく(拡大したりはできるが使い勝手は紙より悪い)、紙に勝る情報提供ができていない。回覧紙の企画団体が、スマホで見る画面や操作系をデザインしてLINEやHP公開して欲しい。そうすれば回覧紙のPDF化は不要。デジタル化は、その即時性を活かす情報の提供、例えば、今回の四日市市大雨で、森市長は対策費の捻出で図書館、大学招へい計画費を延期するという議題を市議会に提案し承認、即時対策室が発進した。この出来事は、地区の自治会LINEを通じて市民センター長から展開され、自治会長の市への信頼度は増したと思う。
- ・ デジタル化の普及を検討しているが、高齢者が多いため、遅々として進まない。
- ・ 会長承諾書の電子化が有効。ただでさえ形骸化しているのに口頭承諾では人は本質を見失う。

- ・無料タブレット、市のフリーWi-Fi等自治会役員、組長などに配布し、同じレベルで情報を共有できるような環境を構築し、回覧閲覧、自治会会議のリモート化などで若い世代にも気軽に情報を得られる環境を整えてほしい。
- ・アプリ等市で作成してほしい。
- ・DXを活用した組織のフラット化と情報伝達手段の刷新。1年目の役員でも自走できるような組織役割、実績の公開。
- ・回覧物等が紙媒体なのでデジタル化を進めてほしい。資源の無駄にもつながっている。
- ・会議等にオンラインで参加できるようにしていただければ、参加率も上げられるし、若い人も参加しやすいと思います。現状、「高齢者が一方的に子供を思う会」という印象です。

【その他支援・提言】

- ・土木要望に対する予算の増額 現在、年間20m～30mの施工を実施していただいているのですが、今後ともこのような工程量しかできないのであれば何年もかかってしまう。
- ・地域によって差はあると思いますが、事業を減らし自治会の存続に重点を置くべきだと考えます。
- ・敬老行事の見直し。現在、700円/人の追金を給付して、具体的な内容は自治会にお任せになっているが、何をするか等の検討実行についても自治会役員の負担になってきている。各自治会に700円給付して、後は自治会で勝手にやれではなく、給付制度自体の見直しが急務である。例えば、国民健康保険料を敬老行事のある月に700円下げるなど、自治会役員の負担軽減を考慮した違う方法を考えるべきである。森市長は、給付しないとありがたみを感じる人がいないといわれていたが、自治会役員の苦勞を理解されていない。市長懇談会で、カード決済を認める様に意見したが、ポイントが個人に付くからと言って今の運用になった。敬老行事で記念品を購入する時に、会計から仮払金を受けて、実際に支払いして清算を行っている(清算のための入出金作業)が、時間の無駄である。カード決済者にポイントが付くのは事実であるが、高額なポイントは付かないし、購入者の手間ひまを考えると、問題にならない額である。ポイントが問題になるのであれば、地域住民(住民の代表者が組長)が「カードを使用してポイントが付くことに対して、異論ありません」の一筆を貰って市に提出させればよいと思う。自治会会長に対するいろいろな要請、例えば民生委員の選出、敬老行事なども自治会役員のなり手の障害になっていることを理解してほしい。当自治会は、高齢化により、自治会解散・外部団体からの脱退なども視野に入れざるを得ない状況にあります。同様な自治会は外にもあると思います。自治会が無くなった後の住民サービスのやり方について、行政としても検討を始めていただきたい。
- ・市として将来の団地のあり方を自治会と協議のうえ決定してほしい。それにより取り組みが具体化できる。
- ・ごみ集積場の自治会加入者と非加入者の区別をしてください。障がい者は市民センター内でごみ集積場あり、自治会未加入者も地区で数カ所決めて集積場をつくり、分離する方がよいと思います。
- ・資源ごみ集積場の整備をお願いしたい。
- ・市内全自治会一律ではなく、個々に応じた政策をお願いしたいです。

- ・地続きのまとまりの必要性が低下している中でも防災は否応なく地続きの助け合いが欠かせないものであり、今後は防災に重点をおいた活動に重きを置く必要があると思います。
- ・会計処理などが必要となる項目をなくし、主な役割を公務員が担う方向にできたらと思う。
- ・「四日市市自治会加入の促進と自治会活動推進のための条例」を行政から改めて発信していただきたい。
- ・自治会未加入者に加入を促すことは難しいです。強制力がなく、タイパ、コスバ、会費においてメリットがありません。地域行事に参加こそしても、運営に携わりたいと考える人は一部です。さらに減る一方です。例えば、行事ごとは業者に対価を払って行い役回り負担を減らす、自治会によって違う会費を一律にする(不公平をなくす)、自治会加入によって市役所の窓口による手続きを24時間自宅から行えるようにする、または手続き専用端末を貸与する、といった抜本的な対策をしなければ、ますます役員に負担が集中しなり手は減ると考えます。
- ・統一的なマニュアルを作り、安心して自治会役員を引き受けられるようにしていく。
- ・自治会長手当てを公的に認めて欲しい(ボランティアにも限度がある)。
- ・地区イベント等の参加増の仕組みづくり。
- ・自治会長の報酬を上げてほしい。
- ・他市の友人が、自治会長を1年やると市から20万円もらえると聞きました。自治会長の仕事が思ったより大変なので、それくらい欲しいと思いました。
- ・現状は自治会活動ができているが、近い将来高齢化が進み、担い手が少なくなってくる。各地域で同様の問題があらうかと思われるので、現状の自治会活動をどうしていくか、行政の一部として委託化等行政問題としても検討してほしい。
- ・市営住宅の自治会区割りは異常な状態。80戸、120戸、150戸などバラバラ。一度再編していただきたい。当自治会のようにあまりにも少ない戸数では将来運営できなくなる可能性があります。
- ・自治会の未加入者に罰則規定(ごみ出しの制限)。
- ・たまには市の担当者も役員会に出席してはどうか。
- ・自治会未加入者が減り、自治会活動に参画することが自身にとって有益になるような制度(例えば役を担う方の住民税が一部免除されるとか)や活動の効率化(自治会費の口座振替)を検討して欲しい。
- ・他から魅力ある団地にするための市行政の参加・実施。
- ・自治会への市の通知文、土木要望に対する市の実施方法など、行政として自治会への向き合い方に問題があります。行政サイドの問題です。この2年間、青道の整備、補助金請求時の自治会での見積合わせ、業者による勝手な木の伐採など、市役所担当部署へ何度か意見を言い、改善いただいた部分も多々ありますが、自治会の運営以前の問題で、行政の事務レベルが低いと感じざるを得ないところがありました。ただ、各職員さんはとても真摯に対応いただきました。このアンケートはその材料としたいのだと思いますが、自治会への行政のかわり方のアウトラインの部分で、行政がもっと考えるべきところは多いのではないかと思います。制度規則など、もっと行政が変わらなければいけないところがたくさんあると思います。1つだけ特にお願ひですが、市会議員、県会議員の口利きで決して物事を進めないでくださ

い。四日市市が「公職にある者等のあつせん行為による利得等の処罰に関する法律」に対してどのように対応しているか知りませんが、いまだに土木要望等で市民から議員にお願いするケースがあり、各自治会の顧問としてならまだわかりますが、そういった自治会の工事が優先的に行われていると聞いております。

- ・今年から自治会長を仰せつかって、自治会運営継続の重要性をつくづく感じる。誰でもいいから順番に自治会長に就任することは難しいので、60～65歳か55～65歳の現役組のなかから3名くらい副自治会長に選抜して将来の自治会長を育成する制度を市が指導して、手当となる補助金を支給していただくのはどうでしょうか。
- ・敬老会イベントについて、趣向を変えていただきたい。幼稚園児の芸、中学生の演奏などを長年やっているが、敬老の祝いと育成が一緒になっている。やはり育成は育成として別の場を用意し、敬老の祝いは質の向上を図るべきである。具体的には名画鑑賞、コンサート、落語漫才、演芸、観劇などをあさけプラザ、文化会館などで行ってはどうか。半額有料にしてもいいと思う。もう少しハイレベルな文化に接するべきである。また、年号を西暦に統一してほしい。
- ・定職に就いていても務められる自治会長の業務設定、改善。
- ・本来自治会活動は大切な財産となるものであるが、近年は様々な要因が重層的に重なり制度疲労が進み、ともすれば崩壊する危険性も孕んでいると危惧している。
- ・前述の様々な要因としては、①担い手の減少→ア+イ+ウ+エ+オ、②世代の不連続→カ、③多忙感への忌諱→キ+ク、④負担の不公平感→ケなどがあり、一つ一つは何とか対処できるとしても重層化すれば厳しい。詳説すると…
- ・ア:65～69歳までの就業機会確保施策の努力義務化による就業率の上昇(52%)
- ・イ:15～64歳の女性の就業率74.1%の達成、及びかつての青年部や婦人部に代わる担い手組織の未整備
- ・ウ:健康寿命が男性73歳、女性76歳という意識や健康志向の高まり
- ・エ:自治会への加入は任意であること、ごみ集積場の利用は市民としての権利である、自治会活動は大変等々の概念がSNSで拡散し、退会のハードルが低下
- ・オ:家庭や地域で行っていたこと(遊び・行事・教育・冠婚葬祭など)をどんどんと外だしするようになってきたため、村の教育・遊び・催し物・葬祭などの住民同士の触れ合いが極めて薄くなった
- ・カ:子ども役員世代+自治会役員世代と、それ以外の世代が自治会活動では断絶
- ・キ:行政的・広域的機関の下請け的イメージや実態が醸成する自治会に対する多忙感
- ・ク:有給の労働環境での改善施策が進むなか、原則無給の自治会活動が多忙であれば、次世代には受け入れられないという自覚を持たないと、後継者を確保することはますます困難となってくる
- ・ケ:自治会役員には業務や役割が集中してくるという状況が顕在化しており、またそれが会員にもよく分かるので、会員の忌諱感が強まっている。すなわち、自治会長時にはその他のポジションをいろいろ兼務させられ、自治会長が終わった後もいろいろな役職の要請があるという困難な状況を会員が強く認識しているので、誰も自治会長にはなろうとしない現状。

・【対策例】

- ・ ①担い手の減少と②世代間の不連続の解消
- ・ 15～22 歳には、地域ボランティアへの参加を推奨する。
- ・ 50 歳代には、一人一役で軽い負担の役割を担ってもらい、自治会活動で前後の世代との繋がりを強め、世代間の断絶を解消する。
- ・ ③多忙感の解消と④負担の均等化
- ・ 行事のスリム化を大胆に進める。
- ・ 一人一役の状況に向けた取り組みを進める。すなわち、現自治会長に他の職を兼務させたり、元自治会長だからという観点で他の職務を依頼するのではなく、事業ごとに別途担当者組織を（一人一役の感覚で）選任する。とりわけ、自治会長と連合自治会役員の兼務や、自治会長と祭の実行委員長の兼務のように大型の役職の兼務はとてとても大変でご苦労も多いので、解消に向けた検討を進めた方が良いのではないかと。
- ・ 業務の見直しやデジタル化で、業務量のスリム化を進め、軽減状況の見える化を図る。
- ・ 自治会活動にて骨折等、怪我のとき保険は？怪我損ではだめなので保険加入を進める。
- ・ 空き家、空き地の所有者への働きかけを市としてフォローしてほしい（雑草、植木類の公道へのはみだし等への注意喚起）。
- ・ 行政と自治会で取り組むこと、進めることの棲み分けが必要。自治会でなければならないこと、自治会がやるべきことを主体とした活動が必要（ただし、単位自治会の特性として、もはやその領域外になっているかも…）。
- ・ 自治会活動の最低限の仕事とは何かを考えてほしい。例えばごみ収集所の維持管理は使う人全員がするべき。そうであれば自治会として依頼されること自体がおかしい。
- ・ 自治会活動の魅力とは、人と関わることを前提にしていると思うが、関わることを前提に自治会として費用を徴収する活動（もしくはそういった思想、個人、団体のやり方を他人にも押し付ける、賛同者が運営する活動を自治会と結びつける考え方）は、いわば強制に思える。

■感情に関すること

- ・ 新自治会長に選出されたスタート時期（4～6月頃）には、例えば地区連合自治会からの各種情報提供、届出書類などの内容の詳細説明など、きめ細かなフォローがあったら良かった。なお、役員交代時には町民からの期待が、感情的な物言いも含め要望や苦情に近い話もあつたりして、私のように現役で働いている者には使える時間も限られて、疲弊した。
- ・ すごく大変です。
- ・ 自治会長は大変である。
- ・ 小さな自治会や高齢者ばかりの自治会は役員が当たる頻度が多すぎて困っています。
- ・ 会長他役員の方々の任期を1年としている自治会が多く、諸々のやるべき事々の継承ができなくなってきているうえに、行事に対する簡略的な姿勢になりつつある。自分たちの自治会をみてもそのように感じる。行事等に対して、時間がない、その日は仕事である、自分たちの用事でできないなど身勝手と言うか残念である。自助、公助、共助の自助すらできなくなっているのではないかと心配である。

- ・今のところは良いが、将来的に地域の住民が自治会の大切さをわかってもらえなくなるのが心配。そのためにもっともっと住民に沿った活動を啓発していきたいと思います。
- ・行事が多すぎて会社を休むのが困難です。
- ・回覧・掲示等が多い。
- ・地区センターの皆様にはお世話になり助かっています。
- ・正直やりたい人がいない。まったく意見を聞かず、要望ばかり言うだけで困っている。文句ばかり！会長は仕事量も多いと言っても大変だと言っても協力もない。自治会入っていない人もごみ捨ててるということ聞かない。
- ・なぜ自治会活動が必要なのかを、どのような方法で伝えれば良いのかを知りたい。これからのこの町がどうなっていくのが心配です。高齢化が進み、人口減少になりどうなるんでしょう。
- ・今までの考えで全てが進んでいる。課題を多く持っていても何もしない。会議が次の行事の連絡だけで終わっている。全ての自治会員を動かすことがヘタな人が会長に居座っている。コミュニケーションが取れない。会長には怒りを感じることもある。
- ・災害が起きたときに入っていない人は大事だと感じると思います。入っているだけましと思うのが今の現状です。
- ・地域の住民が自治会に入っていてよかったと思ってもらえるようになればいいと思っている。地域の情報は回覧板などで知らせたり、戸別配布しているが、しっかり目を通してもらえない人もあり、全員に周知というのは難しいものですね。
- ・今、まちづくり検討会を進めているが、先日、市に対する要望をまとめていたら市職員より、要望ばかりであなた方は何をするのか？と質問を受けた。何かおかしいのではないか。我々は市民税を払っている、また、周辺の清掃など自分たちでできるところは行っている。自分たちでできたいことは要望として市に足すのは当然でないかと思う。また、ごみ置き場の整備の補助金は更新されたのか？以前と比べると資材は2倍くらい高騰している。
- ・自治会活動に無関心の人も多く、助け合いの精神を持って活動してほしい。
- ・必要性は感じるが、平日5日間働いているので、もう責任のある会長はやりたくない。退職して暇になったら少しは地域に貢献しようと思います。
- ・サラリーマンで仕事との兼務で大変。
- ・どんどん住民が少なくなり、また一人暮らしで高齢化にて、現在何もできない。これからどうなるのか不安である。
- ・いつまでもあってほしい自治会をみんなで守ろう。
- ・少子高齢化に伴い、自治会役員の担い手不足で自治会活動が困難になってきているので心配しています。
- ・会長の他に会計もしているので銀行へ行くのが大変。仕事をしているのに月2～3回も早退していくので給料が減る。会社にも迷惑。
- ・なり手不足の現況下、行政委員や地域役員の人選など困難。若年層が先細りの自治会のため不安。
- ・自治会長、自分のボケがすごいんで困っている。

■評価に関すること

- ・古い慣習を見直し、簡素化等時代に合ったものに変革が必要と感じる。
- ・会員と非会員(未加入者)との住み分けが不明瞭で、会員の「嬉しさ」「利点」がなく、このままでは自治会の存続が心配である。
- ・自治会組織は、今は必要がない。
- ・土木要望、一斉清掃等、会長は激務だと思う。
- ・今の世の中、自分の生活でいっぱいの人々がほとんどだと思います。70歳以降も何らかの仕事をしないと生活できない方々にボランティアで役員を、それもくじでやってくれと言われても無理でしょう！だから退会は私も理解できるので、止めることもしていない。あと5年したら自治会が消えてもおかしくない。
- ・現状のままでは継続が難しくなっている。負担の軽減と魅力の発掘が必要と思う。
- ・自治会が小規模すぎてこの先10年20年経つうちに存続が危ぶまれると思います。
- ・人によって熱心にされる方と、仕事もあるので行事をこなせばいいだけの人もおり、地区様々でその地区独特の問題もあれば課題もあると思う。私も任期の間、大した事故など問題なく役目を全うできたら良いと思っています。
- ・マンションの環境から人間関係をつくるにはいろいろなハードルがあり、正直何かしらの事故や事件が起こらないと自己努力ではなかなか難しい感じ。居住期間が短い、活動の場が略、管理会社任せで活動の必要性を感じにくい。
- ・自治会長を拝命して2年弱ですが、少しずつ地域の人々のつながりの大切さがわかってまいりました。
- ・自治会活動に一生懸命にしている人はごく一部の人で、ある程度自治会活動を理解して協力してくれる人が増えるのを期待しています。
- ・地続きのまとまりである自治会の役割は何か、と考えることがあります。当地区はかつて自営業主が多数を占め、地続きの関係は職住一体となって繋がり抜きに成立しない状況でした。当然自治会は顔みしりの集まりであり、日常の様々な問題を話し合う場でもあったと思います。しかし、今はサラリーマン化が進み、地続きでない職住に重心が移り、自治会への依存度も低下しています。また自発性が少なく、上意下達の活動しかないように感じます。
- ・自治会への加入メリットがない。自治会はもう役目は終わった。時代に合っていない。
- ・自治会長、自治会役員が近い将来少子高齢化のため人材不足になってくる。
- ・他の市区町村ではあまり見られないようですが、市道の工事許可申請に会長承認書類を加えていることは自治という観点からとても評価できる。訪問面会の煩雑さから嫌う自治会長も多いと思われそうですが、対応を工夫すれば負担軽減は可能。自治を軽んじて安易に手放せばやがて自らの窮地となって返ってくる。
- ・自治会とは何なのか、わからない人が多くいる。自治会に入れば良い魅力等があれば教えて下さい。現状はごみを出せるだけとされています。イベントを企画しても3分の1くらいの出席なので、もっと多くの人に出ていただく予定で活動します。
- ・自治会役員と地域住民との仕事負担率の差があまりにもありすぎるのは問題だと思います
- ・自治会長の仕事が多すぎる！

- ・自治会を解散したらどんな不都合があるんですかね？その不都合から自治会があることの都合が理解できれば少しは関心が高くなるかもしれないかも…
- ・民生委員児童委員・青少年相談員の選出や地区内のまちづくり推進協議会の当てる職、防災関係や女性部委員等の選出も各自治会に負わせているが、退職年齢の引き上げや就職している方の高齢化が進んでいる現在において、今以上の高齢者に依頼した選出になってくることは明らかである。昭和的な活動内容や選出方法に破綻が来ているため善意のボランティア精神に頼る施策は見直す必要がある。地域性に差があるものの、自治会役員の選出ですら困っている自治会は多いと感じている。自治会長の業務においても仕事をもちながらできることは限度がある。地区により体制の違いがあるものの、まちづくり推進協議会の業務も兼ねるシステムには無理がある。様々な役職の方は、無理に頼まれたからとか業務内容の説明も十分受けないまま断ることができずに受けてしまい、結果的に会議に欠席したり、指示された業務を適当に取捨選択しながらこなしたりすることになり、逆効果に繋がっているのではないかと感じることもある。自治会長、民生委員児童委員、主任児童委員、防災関係者等は、各市民センターの地域マネージャーと同様の立場を位置付け、給与を受けながら職業にすることを提案する。そのことにより、様々な方が就職活動として応募があり、構成年齢も高齢者に偏ることはなくなるとともに様々な地域活動にも責任が生まれるだけではなく、長期的な活動ができるようになると考える。
- ・なくせるものならなくしたい。
- ・行事が多く、休みが無くなるため、誰もやりたがらない。
- ・少子高齢化で自治会活動が手詰まりになってきており、町の合併自治会を考えていかなければならない。
- ・市への要望等の解決スピードアップを望む。
- ・個々の役員をお願いするだけの人数がいなくて、今後さらに高齢化することを考えると、何か対策を考えてほしい。
- ・何をやるにしても人材、お金、場所等の問題が発生する。
- ・今後、自治会活動が維持可能な本質的改革が必要でその事が現実的であることを認識すべきである。このままでは、自治会組織の役職の重複が多くなり、長期にわたり務めることになる。負担が大きく多く、他者に引き継ぐ(お願いする)事が気の毒になっているので引き継がない。
- ・とにかく行事・イベントが多すぎる。
- ・自治会の加入者は減少する。役員はなりたくない人が多い。もっと、業務を減らし若い人でも役員になってもらわないとそのうち自治会が運営できなくなる。
- ・昔に比べて地域に関わりたくない人が増えているため、組長、自治会への協力性が無い方も増えている。
- ・自治会役員及び組長等に当たってくる時に自治会や組を脱退する会員が増える傾向にある。歯止め策を考えていかないと自治会存続が危ぶまれる(共働き世代が増えているのも要因であると思われる。)
- ・高齢者が多いのでなかなか難しい。

- ・ 役員の選出について、今後の問題が残る。
- ・ とにかく世代交代が必要！
- ・ 現時点で自治会は後期高齢者で運営している。昭和時代の考えが多く、将来の自治会は厳しくなると思う。
- ・ 自治会は住民が助け合い、自らの地域を住みやすくするための組織と思いますが、自治会員の関心が低いように思われます。自治会員の高齢化等により、役員等のなり手不足から自治会長に負担が集中しているように感じます。
- ・ 内容の割に報奨金が少ない。
- ・ 世の中デジタル化が進んでいるなか、自治会というものはいまだにアナログであると思う。働く人の時間が有効でない。高齢者は時間があるにもかかわらず役員にはなりたくない。このギャップをどのように解消していくかがキーとなると思う。このままでは自治会が成立しなくなると思う。
- ・ 自治会役員のなり手がいないため、数年後に選出が難しくなる。
- ・ 参加意識が低い。
- ・ 会員が協力的でない又何もうまくいかない。幸いにも今回の会長は自治会の運営方法の知識が豊富で、会員を役員全員で導いていけるよう頑張ります。
- ・ 今年は組を 16→10 組に縮小することが、組長会議での議題となっている。ひとり世帯の家が増えてきたので高齢者が多くなる一方、空き家も多くなってきた。あと 5～10 年後はどうなるのか？市の方はどう考えているのか？こういう話は全然でないな！！将来は自治会の合併も出てくるのか？最終的には自治会長、役員は給与性にすべきだ、手を挙げる人が出てくるのでは。
- ・ 私も昭和ひとケタ代、10 年代の人から見れば新人類かも知れませんが、今後ますます新人類が増えてきて自治会運営が難しい時代に突入するのではないかと危惧します。
- ・ あと 5～10 年後には自治会は消滅するのではないかと危惧しています。東京より魅力ある地域にして、若い人を戻す必要があると思います。
- ・ 自治会及び自治会長は土日関係ない。
- ・ 会長を受けて、各自治会長により活動内容や運営形態が異なっていることが分かった。役員を選挙で選出する方法で、昔ながらの運営形態を維持する限界が見えてきた。
- ・ 自治会活動が活発になれば、地域のこどもの見守りや独居の高齢者の見守り等につながる。地域の変化にも早く気づけて、犯罪の防止や危険個所の気付き等に活かせる。
- ・ 国勢調査に携わり感じたことですが、時代が大きく変わり、地域との接点を望まない世帯が急増しました。また考え方も自己の利益を最優先し、他社を顧みない風潮が当たり前になって来ております。自治会に未加入のお宅に理由を伺うと、「自治会の存在意義が理解できない」「自治会加入のメリットがない」「なぜ行政の仕事を肩代わりしないといけないのか」「自治会の必要性を感じない」など、自治会そのものに対する疑問をお持ちです。加入していただいている方も、「仕方がない」「入らないと肩身が狭い」など、消極的加入の方も多いです。防犯街灯設置や環境整備など自治会を通じて行っておりますが、これを上げると「そんなことを自治会に通すのがそもそもおかしい」「行政の怠慢に付き合う気はない」などと強く言わ

- れる方も少なくありません。私の妻も「今の時代、なぜまだ自治会があるのか理解できない」といいます。良い意見はありませんが、自治会のあり方について見直していくことが急務ではないかと感じています。
- ・「四日市地域づくりマイスター養成講座」に参加したが、解決策となる事例がほとんどなかった。どこも同じ問題でした。
 - ・法人化をめざそうとしているが、時間が取れないほど業務が多忙のため、少しずつのサポートがあればよい。
 - ・自治会の仕事を減らさないと次のなり手がいない。唯一の役割は、災害発生時の助け合いと考える。防災・福祉等々の活動が「自治会」に依存している。自治会、防災・福祉など「上部団体」の存在が不要。結局「自分の身は自分で守れ」という意識を植え付けている。
 - ・昭和の時代からあまりスタイルが変わらずに来ていることが大きな問題。自分の任期だけ何とかやり過ごせばいいとして変えてこなかったため、今になって一気に問題が吹き上がっているような印象を持っている。仕事を持っている人たちがするしかないという前提に立って、運営方法も思い切って変えていくことが必要だと感じている。
 - ・自治会のあり方について、根本的に見直す時期ではないかと思う。市が積極的に取り組んでほしい！
 - ・自治会行事に参加すると次の役員に引張られるという不安感があり、参加しない人もいると思う（個人の感想で意見ではない）。
 - ・連合の防災訓練をもう少し実体験的、小団体でもできることがあれば良い。防災訓練で装備品の認識はよくできているが、実際に使用して行動ができればと思う。
 - ・それぞれ町によって違いがありますが、皆さんとの会話なくしては始まらないと思います。若い方たちにお手伝いをお願いする場合、必ず自治会長からわかりやすく素直に話し合いができるようにこちらからうまく持っていくことが大切だと思います。長いお付き合いができていずれば自治会活動をやってもらえるように指導していきたいと思います。町民さんとも仲良くしていく！
 - ・各自治会長は輪番制で選出された者がほとんどで、任期終了を待ちながら仕事を行っている状態です。外部支援によってやりがい、魅力を見出すことは難しいと思いますし、昔のように自治会長が名誉職ではない時代、リーダーシップを発揮してモチベーションをあげることを求めるのは酷かもしれません。
 - ・職業自治会長あたりまで、環境を上げる努力が必要である。そのため市の補助が大切であります。
 - ・昔のようにみんなが一緒に力を合わせてということが生活の多様化で困難になっています。今からの地域活動は有志を募り、小さなユニットで活動していくことになると思います。そのときに有志の人たちに利益となるような、報酬等の仕組みづくりが必要です。
 - ・地域での防災活動の充実を図るためには、地域コミュニティの充実が必要不可欠と考えている。まちづくりの基本は防災活動であり、このことによりその他のまちづくりにも好影響が出ると考えている。
 - ・自治会への仕事が多岐にわたり、また、仕事量が多くなっています。

- ・集合住宅(マンション、アパート)の住民とは全く顔を合わす機会もなく、管理会社から自治会費を納金してもらっているだけの付き合いとなっている。ただし、特に問題となっていることはない。
- ・新任自治会長は何もわからない手探り状態なので、何もできない。自治会長のあり方について再考が必要と思う。
- ・コミュニケーションツールとしては重要だと考えるが、自治会活動で何かを得られるメリットがあるのかと問われると、返答しにくいのが現状。
- ・高齢化の進展で、自治会の中でも大きな年齢差がある。それが役員のなり手不足につながっている。
- ・組長、役員、ごみ当番、回覧、自治会員集会など、基本的な作業もままならない。自治会員のメリットがわからない。働いている人たちにとって情報はほしいが、自ら動く事(参加)は困難。時間が持てない。ごみの管理は公でしてほしい。自治会員の責任にしないよう、→住民同士のトラブルが生じる。
- ・会員の中で自治会不要との声もあり、存続するのか？
- ・多くの対応が経験値に基づく対応(前もやっていたから)となっていて、ルール化、仕組み化となっておらず、繰り返しの慣例化にて多くの時間を取っている。
- ・当自治会も高齢者が多く、今年度も多くの高齢者が亡くなっています。それに伴い、世代間の格差が広がっています。今後、若手の育成が課題です。
- ・自治会は、地域住民が自主的に集まり、地域の安全や美化、行事の運営、防災活動など、様々な活動を行う大切な組織です。地域のつながりや情報共有、防犯、防災意識の向上に寄与する。一方で近年は役員のなり手不足や高齢化、活動の負担増など多くの課題も指摘されています。また、連絡や回覧などの伝達手段についても、デジタル化への移行が求められていますが、導入には課題が多く、自治会単位で進めるのは難しいです。今後は、自治会の活動を時代に合わせて見直すとともに、多様なライフスタイルやニーズに応じた柔軟な運営体制の整備が必要だと思います。
- ・ごみ集積所の購入や設置に関わる費用や手続きは行政がすべてやるべきと考えます。資源物等を集める際の資源物置場は現在のごみ集積所補助 10 万未満ではあまりにも少なすぎます。また、街灯の設置や電気代についても安全安心なまちづくりとして市が負担し維持すべきと考えます。自治会負担を減らし、自治会が災害や日頃の交流活動に取り組める環境をつくるべきと考えます。自治会の役員のみならず、何年かに1回回ってくる組長でも負担に感じる住民が増えており、自治会を脱退する理由にしている人も少しずつですが増えている声を聞きます。自治会のあり方を見直し、自治会の活動内容も見返すときに来ていると思います。また、地域内の工事について、会長の承認を工事業者が貰いに来るが、現役の会長は対応ができません。
- ・個人主義浸透による協働意識の低下、自治会活動への無関心化が進み、これまで以上に自治会活動が困難な状況になっていく。

■その他に関すること

- ・町内の高齢者と初めて会話することができた。個々それぞれの悩み事があるのだと認識できた。
- ・同時期に四日市自治会連合会からも自治会長調査が配布されている。調査内容は異なるが、調整していただきまとめてほしい。
- ・ふれあいの場づくりを大事にしている。
- ・アンケートに対するフィードバック、行政の取り組みの強化。
- ・特にない。自分自身も多くの人と関係し楽しく自治会活動ができるよう努めている。
- ・世代別(50代、70代)でそれぞれ活動意欲に温度差があり、今後は時代に合った自治会活動を模索していきたい。
- ・現役サラリーマンと自治会長を兼務して従事できるのか。自治会長職が避ける。ただし他の役員なら良い。
- ・また、ライフスタイルの多様化に合わせた運営体制、誰が担ってもわかりやすいマニュアルづくりの構築に取り組んでいく予定である。
- ・自治会のこれからについて話し合い、総会を開くことにした。5月から皆さんの意見を聞き、役員の負担減を皆さんでカバーすることとし、規約にて確保するというのを考えている。
- ・私が担当の単位自治会は50年前頃に建った住宅街と10～30年前頃にかけて立った住宅街で構成されています。そして現在127軒が加入され、未加入は2軒だけです。自治会の存在はこのような認めてくれているのですが、いざ自治会主催のイベント(文化祭、盆踊り、グランドゴルフ等々)となると全く関心がありません。したがって自治会関連の役員になろうとしません。原因は先の住宅街の人は高齢者が多く、過去に役員などに関わった人に対する対応が悪く、信頼していません。校舎の10～30年前頃に住んだ人たちは、50代、60代の仕事で現役の人が夫婦ともに多いため、関心が薄いです。私自身も2012年に車で30年以上この地を離れていました。2018年評議員になるまで全く関心がありませんでした。
- ・地域で幅広い年齢層で交流できるイベントが何かあればと思います。
- ・新旧入り混じった地域で、考え方の異なる世代がもっと意見発言してもらえるような自治会のあり方を模索しています。
- ・いつも大変お世話になっております。住民が自治会の一員として参加できていないところもあり申し訳なく思っていますが、そのような事情もご理解をお願いしたいと思います。
- ・自治会長とそれ以外の人で、回答に大きな差異があると思いますので、分析に注意が必要です。自治会長以外の人にもアンケートをするのでしょうか？
- ・国勢調査の用紙配布について、配布枚数の基準となるものは何ですか、調査地区で95枚配布されたが60枚不足となっていた。
- ・団地内から体育祭に選手、観戦者ゼロなのでテント組み立ては無しになりました(令和7年度)。令和9年度は体育祭への出席を辞退することを考えています(会長職9年度新役員から)。選手、観戦者がゼロで会長だけが活動しているなら辞退で良いのではという話が出ていたので、上記を文章で連合自治会に提出する予定です。
- ・人の口に戸は立てられない。自治会活動に関わらず実感させられます。

- ・今までのような当番制、くじ引き制ではなく、自発的に動いてくださるボランティア制を定着させたいです。「自治会に携わらせてください」と言わせるような、楽しいコミュニティを作るのが目標です。
- ・自治会の価値を再認識してもらい、地域住民が一体となって住み良いまちづくりを目指したい。
- ・住民の生活をよりよくするためのいろんな活動が自治会の役割ですが、市との協力・連携がないとほとんどの活動に支障が出ます。一例ですが、ごみ置場特に可燃ごみの出し方ルールを守らないのには辟易します。また、通過道路をスピードを出して運転する人等、モラルを問われる、ルールを守らない、自覚をしない人が多いと思われまます。広報等で少しでも減ればと思っていますが、何とかならないでしょうか。
- ・令和8年度から法人化に向け活動予定です。新築の集会所の件で登記等の問題があり、法人化にする予定となります。

地域振興推進のための基礎調査

自治会長調査

自治会長の皆様には、日頃から本市の市政運営にご協力いただき、ありがとうございます。

本市では、自治会等を中心とした地域振興を推進するため、皆様にご尽力いただくとともに、市としても地区市民センター等を拠点に支援を行ってまいりました。

しかし近年、人口減少や生活様式・価値観の多様化など、地域を取り巻く環境が目まぐるしく変化し、活動や組織の状況が変わりつつあるものと思われまます。

そこで、自治会長の皆様を対象に、自治会の現状や課題、今後の方向性についてお考えをお聞きしたく、アンケートを実施します。

ご多用のところ、誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願い申し上げます。

令和7年 11月

四日市市長 森 智 広

■ ご回答にあたってのお願い ■

1. ご回答にあたっては、それぞれの設問でお願いしている数だけ、答えの番号に○印をつけてください。設問のなかには、数字や文章で記入いただくものもあります。
2. 調査票は、ご記入の上、**11月〇〇日(〇)**までに地区市民センターの館長にご提出ください。
3. ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

〇〇地区市民センター〔担当:〇〇(館長)〕

☎ 059-〇〇〇-〇〇〇〇

月曜日～金曜日の午前8時30分～午後5時15分まで

問1. あなたの住んでいる地区・自治会名を教えてください。(記入してください)

地区	自治会
----	-----

問2. あなたの性別と現在の年齢を教えてください。(1つに○)

性別	1. 男性	2. 女性	3. その他
年齢	()歳 ※数字で記入してください		

問3. あなたの職業を教えてください。(1つに○)

1. 農林漁業	5. 無職・家事従事者(主婦・主夫)
2. 自営業	6. パート・アルバイト
3. 会社員・会社役員	7. その他 ()
4. 公務員・団体職員	

問4. あなたの自治会の住宅環境について、現在の状況を教えてください。(1つに○)

1. ほぼ全てが戸建て住宅	4. 多くが集合住宅で一部戸建て住宅
2. 多くが戸建て住宅で一部集合住宅	5. ほぼ全てが集合住宅
3. 戸建て住宅と集合住宅が概ね半数ずつ	6. その他 ()

問5. あなたの自治会に新たに転居してきた人は、自治会に加入していますか。
[概ねで結構です]。(1つに○)

1. 転居者のほぼ全てが加入している	3. 転居者の加入は80%未満である
2. 転居者の加入は80%以上である	4. その他 ()

問6. あなたの自治会の自治会費(年額)はいくらですか。

(年額)1世帯あたり	円
------------	---

問7. あなたの自治会では会長をどのように決めていますか。(1つに○)

1. 輪番制(当番制)	4. くじ引き
2. 投票制	5. その他
3. 合議制(立候補・互選・推薦)	()

問8. 自治会長を決めるにあたり、苦勞していることや問題点はありますか。(1つに○)

1. 苦勞や問題点がある↓	2. 苦勞や問題はない
【苦勞や問題点】	

問9. 現在、自治会としてどのような活動をしていますか。(あてはまるものすべてに○)
 ()には、活動の概要をお書きください。

- | |
|-------------------------------|
| 1. 防犯活動 () |
| 2. 防災活動 () |
| 3. 交通安全活動 () |
| 4. 高齢者を対象とした行事・見守り・居場所づくり () |
| 5. 子どもを対象とした行事・見守り・居場所づくり () |
| 6. その他地域福祉活動 () |
| 7. 環境美化活動 () |
| 8. 納涼祭・盆踊り () |
| 9. 地区体育祭 () |
| 10. 地区文化祭 () |
| 11. 祭り・文化の継承・振興 () |
| 12. 自治会未加入者への加入促進 () |
| 13. その他 () |

問10. 現在、特に力を入れて取り組んでいる自治会の活動内容を具体的にご紹介ください。

【内容】

問11. 今後、自治会として力を入れていきたい活動内容を教えてください。

【内容】

問12. 自治会の活動のなかで、特に課題になっていることはどれですか。
 (最もあてはまるものから順に3つまで数字を記入してください)

1. 役員等の担い手確保	6. ごみ集積場の管理	
2. イベントの企画・運営	7. 特に課題に感じることはない	
3. 活動にかかる費用の確保	8. その他	
4. 活動する場所の不足	()	
5. 事故等における対応		
第1	第2	第3

問13. 自治会の活動を進めるうえで、特に有効だと思う支援はどれですか。

(最もあてはまるものから順に3つまで数字を記入してください)

1. 活動事例や助成制度の情報提供	6. 活動に対する既存制度の見直し	
2. 専門性を持った人材の紹介・派遣	7. 活動にかかる物品の貸出	
3. 担当部局からの指導・アドバイス	8. 活動に対する住民への周知啓発	
4. 活動拠点となる施設への整備支援	9. 特に支援は必要ない	
5. 活動に対する新たな財政支援	10. その他	
第1	第2	第3
【内容】※具体例があれば記入してください		

問14. 自治会の運営のなかで、特に課題になっていることは何ですか。

(最もあてはまるものから順に3つまで数字を記入してください)

1. 各種会議の開催	9. 各種団体への人材選出依頼	
2. 自治会員への情報伝達	10. 市からの人材選出依頼	
3. 回覧板の配布	11. 土木要望のとりまとめ、調整等	
4. 自治会費の徴収	12. その他市からの依頼 ()	
5. 地域内の他団体との連携・調整	13. 補助金等の申請手続き	
6. 住民からの要望・苦情の調整等	14. 特に課題に感じることはない	
7. 運営費の確保	15. その他	
8. 自治会加入世帯の確保	()	
第1	第2	第3

問15. 自治会の運営を進めるうえで、特に有効だと思う支援はどれですか。

(最もあてはまるものから順に3つまで数字を記入してください)

1. 人材育成のための研修会	6. 市からの依頼事項の軽減	
2. 活動事例等の情報提供	7. 自治会運営への財政支援	
3. 専門性を持った人材の紹介、派遣	8. DX 導入・普及の支援	
4. 地域活動に関する住民への意識啓発	9. 特に支援は必要ない	
5. 他の自治会等とのネットワークづくり	10. その他	
第1	第2	第3
【内容】※具体例があれば記入してください		

問16. 自治会の活動・運営上の課題について、解決した事例があれば、具体例をご紹介します。

【内容】

問17. 自治会活動のなかで、魅力を感じることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 近隣の人々と関わりを持つことができる
2. 地域の住民として、まちづくりに貢献できる
3. 災害時の助け合いにつながる
4. 回覧板が回ってきて、地域の情報を知ることができる
5. 地域で共通する困りごとを市に要望・提案できる
6. 特に魅力を感じることはない
7. その他 ()

問18. 自治会未加入者(転入者を含む)に対する取組について実施していることを教えてください。(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|-------------------------------|-------------------|
| 1. 訪問など口頭で加入の呼びかけ | 4. 地域のイベント時の加入啓発 |
| 2. 加入啓発チラシの作成、配布 | 5. 未加入者に対する説明会の実施 |
| 3. 賃貸住宅の家主や管理会社との連携による加入の呼びかけ | 6. 特に何もしていない |
| | 7. その他 () |

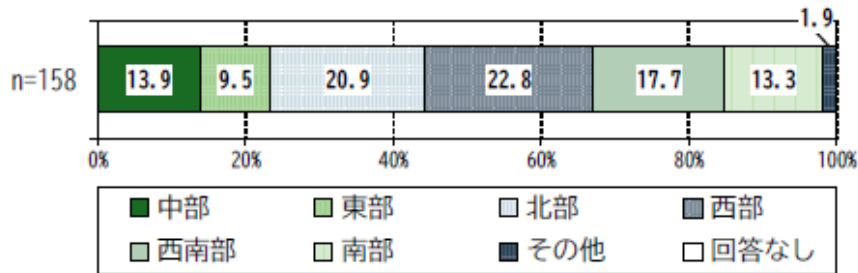
問19. 自治会について、ご意見がございましたら、お書きください。

調査は以上です、ご協力ありがとうございました。
11月〇〇日(〇)までに地区市民センターの館長にご提出ください。

(3) 地域振興団体調査

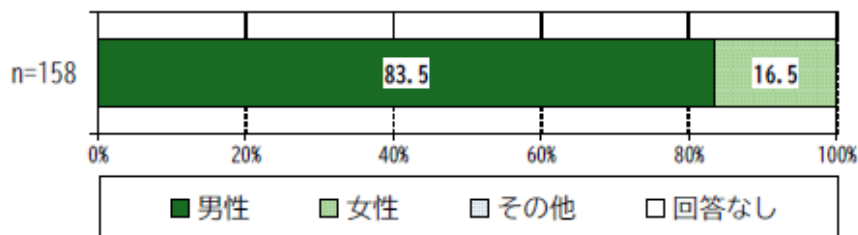
問1. あなたの住んでいる地区・団体名を教えてください。

回答者の住んでいる地区は、「西部」(22.8%)が最も多く、「北部」(20.9%)、「西南部」(17.7%)が続いています。

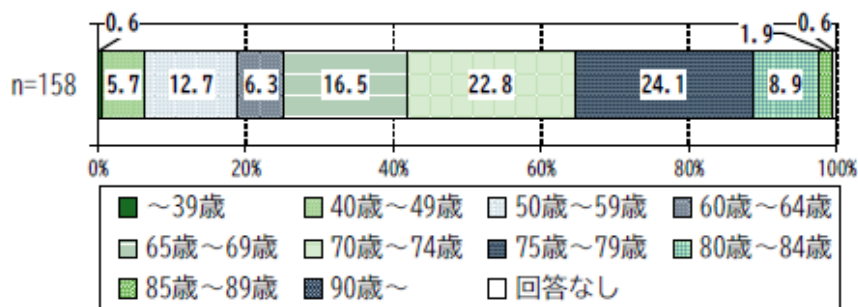


問2. あなたの性別と現在の年齢を教えてください。(1つに○)

性別は、「男性」(83.5%)が8割を占めています。

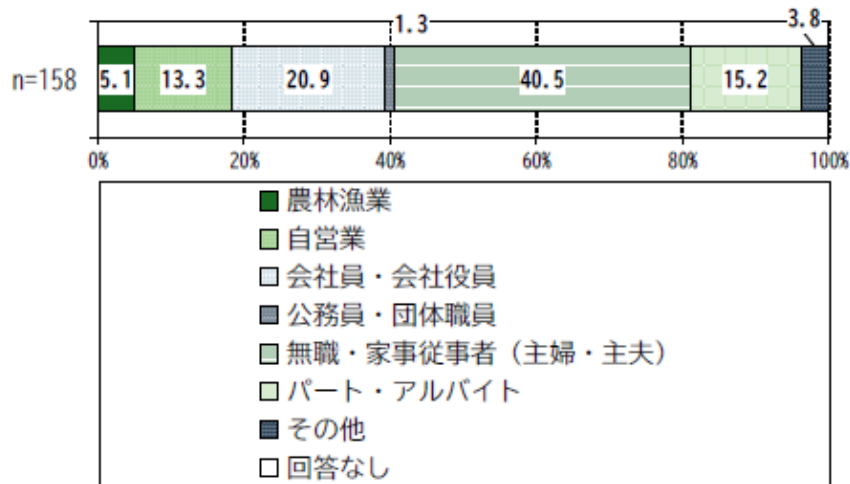


年齢は、「75歳～79歳」(24.1%)が最も多く、次いで「70歳～74歳」(22.8%)、「65歳～69歳」(16.5%)となっているなど、全体の7割超を65歳以上の高齢者が占めています。



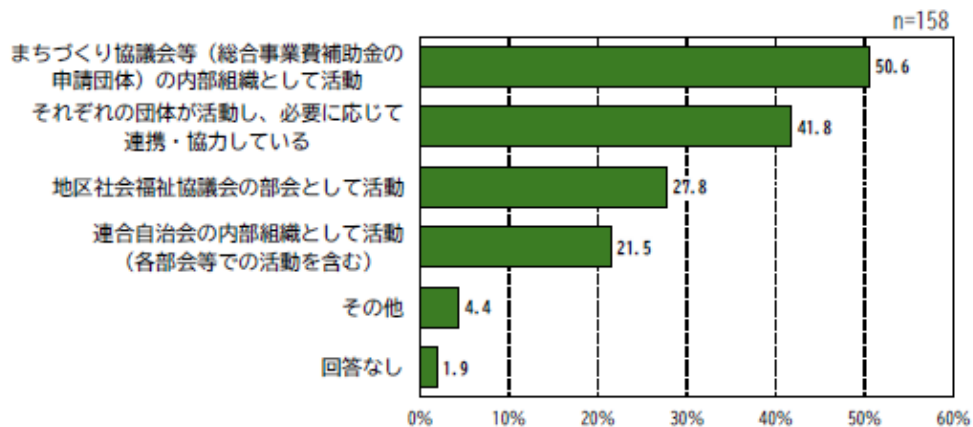
問3. あなたの職業を教えてください。(1つに○)

職業は、「無職・家事従事者(主婦・主夫)」(40.5%)が最も多く、「会社員・会社役員」(20.9%)、「パート・アルバイト」(15.2%)が続いています。



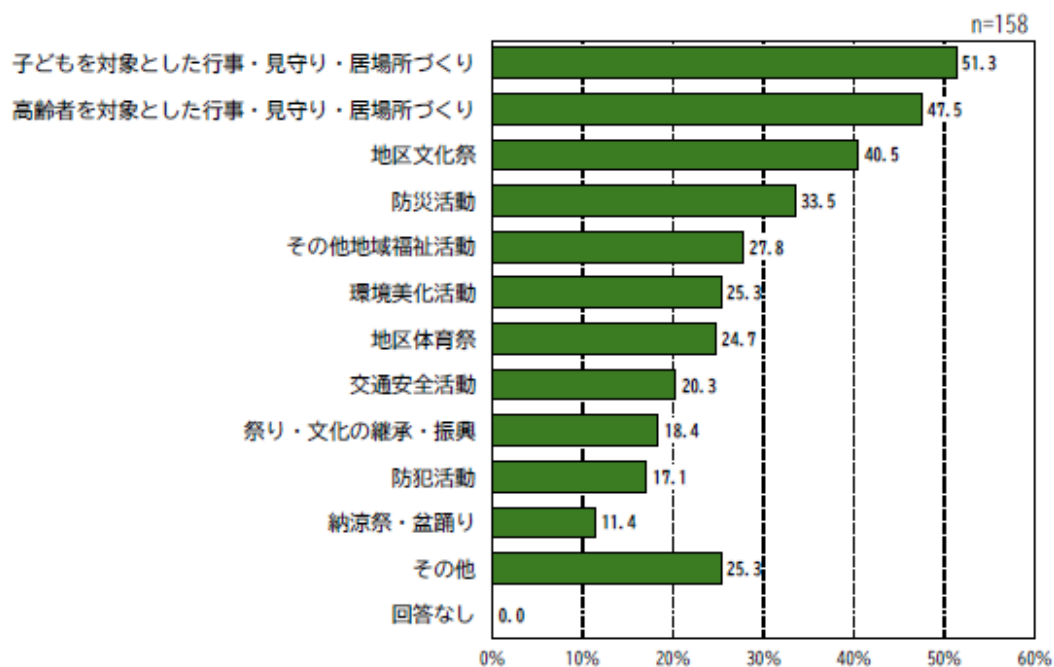
問4. あなたの団体は、地区でどのような位置付けですか。(あてはまるものすべてに○)

地区の中での団体の位置付けは、「まちづくり協議会等(総合事業費補助金の申請団体)の内部組織として活動」(50.6%)が最も多く、「それぞれの団体が活動し、必要に応じて連携・協力している」(41.8%)、「地区社会福祉協議会の部会として活動」(27.8%)が続いています。



問5. あなたの団体で取り組まれている活動を教えてください。(あてはまるものすべてに○)

団体に取り組んでいる活動では、「子どもを対象とした行事・見守り・居場所づくり」(51.3%)が最も多く、「高齢者を対象とした行事・見守り・居場所づくり」(47.5%)、「地区文化祭」(40.5%)が続いています。



問6. 現在、あなたの団体が特に力を入れて取り組んでいる活動の内容を具体的にご紹介ください。

団体として特に力を入れて取り組んでいる活動について、150人(192件)から回答があり、その他地域福祉活動や子ども・高齢者を対象とした行事・見守り・居場所づくりが多くなっています。その他では、スポーツ・健康づくり活動やデジタル化などの取り組みがみられます。

内容	件数
防犯活動	8件
防災活動	24件
交通安全活動	1件
高齢者を対象とした行事・見守り・居場所づくり	30件
子どもを対象とした行事・見守り・居場所づくり	32件
その他地域福祉活動	38件
環境美化活動	8件
納涼祭・盆踊り	1件
地区体育祭	6件
地区文化祭	8件
祭り・文化の継承・振興	4件
その他	32件

【防犯活動】

- ・ 特殊詐欺防止。
- ・ 防犯訓練。
- ・ 各自治会防犯団体との情報共有・防犯啓発活動。
- ・ 近鉄四日市駅周辺の補導パトロール(年間10数回程)。
- ・ 単位自治会への防災備品購入。

【防災活動】

- ・ 命を守る活動として小学校の防災学習、中学校の防災部活に積極的に取り組んでいる。特に中学校の防災部の活動はマスコミにも取り上げられている。
- ・ 自然災害の怖さを紹介して、対応策を考えてもらえるように、勉強会を会議の時に実施している。
- ・ 防災視察研修、救急救命講習。
- ・ 住民への防災意識向上への啓発。
- ・ 防災講座、地域の方々を巻き込んだ防災啓発講座。ここ数年は地区の女性防災隊にお世話になり、防災講座を毎年2回実施してきた。
- ・ 災害発生時に近隣住民と協力し、避難所設営、運営について迅速な対応ができるよう、毎年防災訓練を実施。
- ・ 毎年実施する防災訓練(主に避難所開設)を円滑に進められるよう、各地区より避難所支援委員を選出し、訓練実施までの半年間、講習会や勉強会を重ね、支援委員の育成を図った。

・防災及び地域活動に参加するメンバー間での LINEWORKS を使った連絡の利便性向上。

【交通安全活動】

・地区での交通事故の防止及び交通ルール順守の啓発。

【高齢者を対象とした行事・見守り・居場所づくり】

- ・認知症予防。
- ・高齢者大学として体の不自由な方(お年寄りも含め)に対応できるよう研修会を実施(現状年4回)。
- ・高齢者が集まって学べる機会と場所づくり又交流を深められる場所づくり。
- ・特に身寄りのない一人暮らし高齢者への訪問相談支援。
- ・認知症サポーター養成講座(小中学校での開催)。
- ・一人暮らし高齢者の方が詐欺にあわないように定期的に訪問するときに、高齢者の体調や生活環境を確認してから、詐欺の手口などについて話している。
- ・敬老会の開催。川越高校に演奏を行ってもらう。
- ・敬老行事、敬老の日の粗品配り、一人暮らし老人への給食配り、いきいきサロン。
- ・高齢者宅に訪問して、見守りや話し相手になる。対面で話をすることで顔色・体調の変化に気付く。月一回の歌の会への参加への推進。居場所づくり。
- ・一人暮らしや高齢者(昼間独居)の方へ声掛けをし週1回の楽へ参加してもらい、居場所や地域の人との交流、百才体操により、自分のことが自分でできるよう、また、色々な体験や参加者で楽しく昼食を摂ってもらっている。
- ・会員相互の交流。他の地域団体との積極的な事業協力、高齢者の居場所づくりとして、地域に34か所あるサロン活動支援。本年は地域内の19箇所で社協主催でも実施した。
- ・住民主体型活動、通所型活動、訪問型活動、高齢者の介護予防、病院や買い物支援、家事支援。

【子どもを対象とした行事・見守り・居場所づくり】

- ・子どもの虐待防止。
- ・部活動地域移行。
- ・保、幼、小中学校との綿密な連携。
- ・地域・親子の絆事業としての畑・田んぼ作り。子どもたちの地域活動に参加するための支援
- ・ますつかみ大会(朝明川に池をつくり、マスを放流して行っている)、星座観察会(きらら号等を迎え、観察)。
- ・中学校、保育園、こども園、行事参加。小学生登下校見守り活動。
- ・未就学児子育て親子を対象とした交流の場、仲間づくりの場、情報交換の場としてのサロン活動。
- ・夏休み中の見守りパトロール。
- ・子育て支援事業。
- ・子ども食堂。

- ・新春風揚げ大会(子どもから大人までみんなで楽しみましょう)、タコキットを無料提供(各戸にチラシを配布)、たこを揚げてもらう。ボン菓子屋さんの実演と無料提供をして食べてもらう。
 - ・高齢者福祉については一通りの活動を行ってきたが、地区内には子どもの遊べる公園や児童館などの施設がなく、子どもの居場所づくりとして、年2～3回の工作教室や里山散歩、焼き芋などの活動を行っているが、単発的であり持続性がない。
 - ・未就園の子どもと保護者がつどえる場所の提供をしています。季節に応じた内容や、高校生とのコラボなど地域で子育てを支えています。子どもをまんなかにした多様な人たちとの交流とふれあいの機会を深めていきたいです。
 - ・保育園幼稚園等に訪問して、地域の子どもたちと触れ合う。
 - ・キャンプや登山など学校行事では体験できない学年を超えた活動に力を入れて取り組んでいる。
 - ・子ども中心の活動。将来大人になり、地元に戻って子育てや地域貢献したくなるような思い出作り。防災サバイバル体験・米洗川いきもの探し・神社祭りなど。
 - ・子どもの居場所づくり。子ども食堂では、不登校で学校に行けない高校生が中心となり運営。小学生の悩みを聞くなど受け皿となり活躍。自己有用感も高まり、学校に代わる居場所に。
 - ・春、夏、秋の行事のほか、「こどもみまもりたい」でボランティアを募集して、毎日の登下校の見守りを実施。保護者の登板をなくしている。
 - ・臨時開館(社会見学・ウォーキングなど)への対応。
 - ・児童館に助けていただいている、子育て応援。
 - ・こども園と共にする芋堀体験学習と焼き芋大会。
 - ・子どもの居場所と家庭状況の把握等。
 - ・子どもたちが自ら考え行動できるような取り組み。
- 【その他地域福祉活動】**
- ・救命浮輪の設置、点検と祭りでの子どもたちと楽しみ、地域の方達との交流。交流することにより、子供と大人が互いに顔を覚えれば、日常の見守りにつながると考えています。
 - ・協議会の委員への人権教育。地域全体の人権教育・啓発活動(町別懇談会)。
 - ・ふれあいまつりとして地区全体の運動会、同時に各町から模擬店の出店、中学生による吹奏楽部の演奏などを通して、地域コミュニケーションの活性化。
 - ・福祉のつどい。各地区のふれあい行事を発表、報告してもらい、これからの地区の問題点を探し出し、地区全体で共有する。
 - ・福祉講演会。四日市市の出前授業を利用して話をさせていただく。
 - ・他地域の人権啓発活動を学び、保・小・中の学校人権教育及び人権同和教育推進協議会の諸活動に協力する。
 - ・人権啓発活動(人権まちづくり講座、地区懇親会)。
 - ・月1回の地域カフェで世代などを超えた住民のつながり、居場所づくり。
 - ・福祉活動(いきいきサロン、シニアパーティー、ミニ門松づくり、フィールドワークなど)。

- ・地域住民の交流。
 - ・少子化の激しい地区なので、地域に住む子どもたちとその保護者が小学校入学前から交流を持ち仲よくしてもらいたい。
 - ・地域行事への交流の場をつくる、スタッフ同士のつながりをつくる。
 - ・児童、高齢、障がいの三部会に分かれての研究会。
 - ・スポーツを通しての三世交代。以前はソフトバレーやグラウンドゴルフ等を行ってきたが、高齢者の参加が主なので、今はポッチャ大会を行っています。また、社協主催のふれあい広場という地域のお祭りの実行委員としてみんなで頑張っています。
 - ・子どもたち中心のお祭りではあるが、子どもから高齢者まで地域の方みんなが楽しめるお店、やぐらステージでの踊り、演奏。
 - ・地域住民の人々が参加しやすいイベント開催を通じて、住民の交流の機会を増やし、親しみの持てるまちづくりに取り組んでいます。
 - ・人権フェスタ、人権フォーラム、人権作文「発表のつどい」。
 - ・保健体育部(主に地区大運動会)、青少年育成部(主に YPO パーティー)、文化広報部(主に地区大文化祭)、生活福祉部(主にふれあいフェスティバル)。
 - ・在宅介護支援センターなどと合同で行う、65 見守り会議。
 - ・老人から子どもたちまでふれあい事業、健康講話・体操。
 - ・ウィンターウォークラリー・運動会・文化祭と同等以上で幅広い年代層が参加・交流できる事業を企画・検討していく。
 - ・1973 年発足以来、部落差別をはじめとするすべての差別をなくすことを目指し活動を行っている。人権フェスタ・啓発委員研修会など地区内で活動を行っている他、市および県の関係団体との研修など参加している。
- 【環境美化活動】**
- ・桜並木が樹齢 100 年を迎えており、保全を含めて桜並木の景観を地区・四日市市の財産として残していく価値あるものとして、四日市市と協力して維持対応している。
 - ・年4回の整備活動、市民緑地3箇所地域団体との連携。
- 【納涼祭・盆踊り】**
- ・世代間交流の場所づくりとして、夏まつりと餅つき大会&体力測定(各 600 名程来場)を毎年開催中。
- 【地区体育祭】**
- ・地区運動会の開催(コロナ禍の3年間を除き、約 50 年継続開催中)。
- 【地区文化祭】**
- ・地区文化祭の開催(コロナ禍の3年間を除き、約 50 年継続開催中)。
 - ・地区文化祭として色々な方の日頃のサークル活動、作品などを地域の皆様に見てもらおう。
 - ・地域行事(文化祭・コンサートなど)への協力。
- 【祭り・文化の継承・振興】**
- ・小学校の児童に音頭を、地域の景色の良さや文化の継承ができればいいと考えています。
 - ・地域の成り立ちの歴史を知る。先人の功績を知る。

- ・郷土資料館の開館(土日)、来館者への対応。

【その他】

- ・地区の高齢者の相談団体をやっている。それぞれ会員の健康増進のため、年2回グラウンドゴルフ大会開催。最近は会員の高齢化が激しく、体力不足で減少気味です。
- ・「スポーツ DAY」として複数の競技を体験できるイベント。
- ・研修会事業(先進地視察)。地区イベント事業(竹あかり、夏まつり等)の推進、春の桜まつり(模擬店、川柳、絵画、写真出展)への参画と企画。
- ・スポーツ推進委員と協力して、年1回、地区住民の方と一緒に New スポーツを実施した。
- ・三世代交流のグラウンドゴルフを通じて、地域の年配の方から若い世代までの交流を深めている。
- ・環境活動(ホテル観賞、水質調査、星空観望、トンボ観察、環境ポスター、野鳥、野草の観察など)。
- ・グラウンドゴルフ大会、ポッチャ大会。
- ・今年度は4年に一度の地区イベントを開催(11月2日開催済み)。地区住民の方々とのおふれあい交流に努めています。ノルディックウォーキング講習会、大会を実施計画。
- ・地区アピール、人材育成。
- ・もみじの季節に向け、周辺の整備をしている。除草作業など、広場を市民の集える場所としていく。
- ・後継者の育成。
- ・デマンド交通実証事業。
- ・スタッフの負担軽減。
- ・行事の参加者だけが喜べる内容ではなく、スタッフの楽しめる内容に心掛けている。
- ・若い人の保存会への入会説明等。
- ・地区企業との連携。
- ・桜並木の安全対策。
- ・地区の新ホームページの開設(従来のタイプは特定の方のみの編集・更新であり、汎用性に欠ける。今度のタイプは、会員さんでつくってもらえるタイプに)。
- ・地区の活性化、中学生のボランティア活動・交流、従事者の達成度・満足度。
- ・協議会の活性化を図るため、下部組織として推進委員会を立ち上げ、各地区より委員を選任し、1回/月の頻度で活動。
- ・定期的な講座の開催にて、地域住民の IT スキル向上を目指す。
- ・毎年度、事業計画で提案しているが、なかでも地区住民が今地区内で何が行われているか(ex. イベントなど)の情報共有のために「地区公式 LINE」により情報発信に努めている他、地域の魅力の地区外への発信のため、最近「地区インスタグラム」を立ち上げた(残念ながら更新はほとんどない)。
- ・敬老会と文化祭を同時開催等により、準備等の負担を軽減して、社協へ派遣いただけている人数の減(組織の縮小)を実現した。

- ・今、当地区は(コロナ禍を含んでも)2009年～2025年この17年間もっとも厳しい冬の時代に入ってしまった。すべて代表である私の責任でございます。昔は園、学校関係者も「住民と交流懇談することを大変楽しみにしている」「人権・同和教育推進協議会のファンの一人です」「私にできる事があれば力になります」など、もう日常的に人権デーが定着していました。いつまでも懐かしい故郷を思っただけでもいけません、あの頃を取り戻すのは極めて困難ですが、より効果的な方向に進んでいきたい。
- ・まちづくり協議会の役員・委員・サポーター等に対するグループウェア(LINEWORKS)を導入。現在、メンバーの登録を実施中。DX化の基幹システムとして稼働していく予定。
- ・民生委員・児童委員としての知識を得るため、単位地区民児協だけでなく、県、市の研修への参加。

問7. 今後、あなたの団体として力を入れていきたい活動内容を教えてください。

今後、団体として力を入れていきたい活動内容について、142人(164件)から回答があり、その他地域福祉活動や防災活動が多くなっています。その他では、団体の活動を活性化させるため、人材確保や育成、情報交換などが見られます。

内容	件数
防犯活動	4件
防災活動	24件
交通安全活動	1件
高齢者を対象とした行事・見守り・居場所づくり	15件
子どもを対象とした行事・見守り・居場所づくり	18件
その他地域福祉活動	35件
環境美化活動	7件
地区体育祭	2件
地区文化祭	5件
祭り・文化の継承・振興	2件
その他	51件

【防犯活動】

- ・各自治会防犯団体との情報共有・防犯啓発活動。
- ・補導パトロールの充実。

【防災活動】

- ・消防分団員の増強。地区に3隊ある市民防災隊員の若返り、増強。女性防災会(隊)の発足。小・中学校の防災教育の充実。
- ・避難所開設時のマニュアル作成。
- ・防災視察研修、救急救命講習の更なるレベルアップ。
- ・自主防災隊員の意識向上、周知啓発。

- ・地域の防災力を高めるために、自主防災隊の防災力をあげる必要があると同時に、住民一人一人が自助力を高める必要もあり、その2面の強化と啓発をやっていきたい。
 - ・地区住民に対する防災意識の向上。
 - ・参加型の防災活動の推進。
 - ・防災資器材の経年劣化による資器材の買い替え、消耗品等の交換買い替え、資器材の運用・保守の充実。チェーンソー、カッター等の老朽化による部品購入と部品がメーカーにもない場合が多く、新規購入が必要。乾電池、紙オムツ、消毒用薬品等、消耗品の保存期間が切れている物がほとんどである。市の補助金では購入できないので、今後は計画的に購入していく方針に変更しなくてはならない。
 - ・個々の地区、地域が持つ特有の災害を把握し、その地区に合った防災活動と各自治会単位での防災訓練の実施。
 - ・女性防災隊の確立と活動支援。
 - ・南海トラフ地震等の、特に津波に対する避難、及び年配者向け避難タワー設置への活動。
 - ・アプリ登録者をさらに増やし、市からの正確な情報を共有し各町との相互協力を図る。
 - ・地域住民の自宅避難へ向けての防災啓発と自宅避難のための支援。
- 【交通安全活動】**
- ・小中学生の交通安全として、特に自電車のルール・マナーを指導。
- 【高齢者を対象とした行事・見守り・居場所づくり】**
- ・高齢者の学びと啓発になる場や交流を深められる場づくり。
 - ・特に身寄りのない一人暮らし高齢者への訪問相談支援。
 - ・一人暮らし高齢者や高齢者世帯の人達に「いきいき百歳体操」に参加してもらえるように地域の方と協力し、楽しみながら無理なく参加できるように工夫し、声掛けしながら「孤立」を防ぐ活動をしたい。
 - ・一人暮らし老人の把握と見守り。
 - ・敬老祝賀会の参加者から「楽しかった」「来年も楽しみにしている」とのお声をいただき、今年以上に楽しんでいただける企画を立案していきたい。
- 【子どもを対象とした行事・見守り・居場所づくり】**
- ・子どもの楽しみと安全につながるように、見守り活動の強化。
 - ・子どもたちの地域活動に参加するための支援。
 - ・少子化の激しい地区なので、地域に住む子どもたちとその保護者が小学校入学前から交流を持ち仲よくしてもらいたい。
 - ・高齢者については現在の活動を引き続き継続し、子育て支援については他団体の協力を得て、切れ目ない開催を目指したい。また、地区内の公園やこどもが集まれる場所を整備していきたい。
 - ・長く続けていきたい活動ですが、その時その時で方法はいろいろと変えていきながら、毎月開催の回数を増やすことができ、対象者も未就園から小学生までを考えていきたいと思う。
 - ・マンネリ化しないように、子どもたちが楽しめるようなイベントを企画したい。できれば、地域交流など絡めながら考えていきたい。

- ・子どもたちに生涯スポーツを指導、去年より小学校のクラブ活動でポッチャを指導(5回/年)。四日市市スポーツ推進委員協賛。
 - ・夢や希望にむかって心豊かに成長し、次世代を担う自立した青少年の育成。
 - ・子どもを中心とした活動は継続していきながら、その中から将来、地域で活躍する人材を育成していきたい。そのためには、地区だけにとらわれず、地区外との他団体とも交流を行うことで、より深く興味関心を持ってもらえる企画から、子どもたちが活躍できる場所を継続して提供していきたい。
 - ・地区内、小中学生に対する安全(特に下校時見守り)。
 - ・地域福祉のためには、災害時のためにも自治会との連携を密にしていきたい子どもたちの見守りのため、園・学校との連携も多く持って行きたい。認知症の事を正しく理解し、それを地域に啓発していきたい。
 - ・青少年(YPO パーティー)活動。
- 【その他地域福祉活動】**
- ・協議会の委員への人権教育。
 - ・地域全体の人権教育・啓発活動(町別懇談会)。
 - ・地域・親子の絆事業としての畑・田んぼ作り。
 - ・人権同和教育推進協議会の開催及び情報交換。
 - ・未就学児子育て親子を対象とした交流の場、仲間づくりの場、情報交換の場としてのサロン活動。
 - ・人権啓発活動(人権まちづくり講座、地区懇親会)。
 - ・地域(町)が一堂に参加して、地域全体でコミュニケーションが図れるイベント行事。
 - ・凧揚げ大会を地域の新春の恒例行事として認知してもらい、大人も子どもも楽しい思い出となり、この地区に住んでいてよかったなと思ってもらい、地域とのつながりができればと思います。
 - ・外国人住人が増えてきたので交流できる事業の展開。
 - ・健康と病人の間の人を健康に戻す運動。介護保険を使う方向にしない、イベントづくり。
 - ・介護保険料の減額。
 - ・大規模でなく(近くのセンター等で実施、少人数(10~20人))で開催できる、簡易で適度に体を動かせ、参加者が気兼ねなく交流できる居場所づくり。
 - ・子どもたちの笑顔、高齢者の元気な姿、みんながふれあえる居場所づくり。
 - ・ますます高齢化社会が増えるが、自宅で最後まで生活をしたい(年金も少なく、施設入所は子どもの負担となる)。在宅医療や介護サービスの利用により、自分のできない部分を援助してもらい、家族の介護を軽減したい。
 - ・高齢者ふれあいフェスティバル。
 - ・世代間のコミュニケーションの場づくりを心掛けたい。
 - ・障がい者(児)の施設訪問と勉強会をする。
 - ・かかる費用を少しでも軽減し、日本社会における本人の責任外の理由で差別にあう現実、閉塞感に満ちた社会構造、また世界では「この世の地獄よりもひどい」と言われているガザとウ

クライナの状況、倫理、人道あらゆる面で限界をはるかに超えていて、ただただ人間の尊厳が奪われているという現実・事実がそこにある。よく言われる「人間が生きている目的は少しでも不条理なことをなくす努力をすること」と、ここに特に注目し、啓発に取り組んでいきたいと考えています。

- ・部落差別をはじめとする全ての差別をなくす活動。主に研修会や勉強会など。
- ・人権についての勉強と、地域の住民が顔見知りになれるよう、「住民の集い」を開く。
- ・市の出前講座の活用。

【環境美化活動】

- ・小学校の児童と住民が地区内の花、農家から仕入れた花を一緒に植えているのを続けていきたい。
- ・町内、地域内の美化。
- ・地区内の各自治会において、町内の公園・道路沿いの花壇に花苗を植えて育てる自治会が活動していれば、できる限り花苗を供給できるよう活動していきたい。
- ・海岸清掃。

【地区体育祭】

- ・地区大運動会。

【地区文化祭】

- ・地区文化祭へのブース参加の内容充実。
- ・沢山の方に来ていただける文化祭にしていきたい。
- ・地区大文化祭。

【祭り・文化の継承・振興】

- ・昔ながらの郷土料理を次世代に伝え、伝承していくこと。
- ・山車の継承について勉強会等。

【その他】

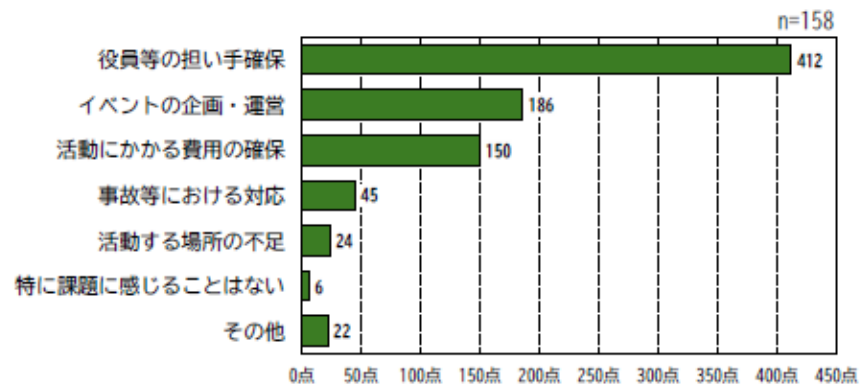
- ・地区内の各団体との交流(情報共有、意見交換等)。
- ・委員及び住民の意識向上のために研修活動を行うことを継続。
- ・なんとか各年代が協力するように苦工夫しています。もっと自治会、町内の協力、援助が要ります。会員加入を自治会として発信してほしい。
- ・各種スポーツ担当理事を主とした活動推進していくこと。
- ・若い方の加入と育成。
- ・自立できるシステム構築。
- ・地域連合自治会、四日市西地区警察署との連携。
- ・楽しい行事もさることながら、より日常生活に密着した活動に移行していきたい。
- ・俳句会や塗り絵会などの幅広い活動への拡大。
- ・体育振興会の名のもとに、スポーツを通じて健康な生活を送れるようなイベントを行いたい。
- ・パネル展出品。
- ・老若男女、顔見知りになれるようなまちづくり。

- ・町単位(単位自治会のつながり)で地域の行事に取り組む意識をつくる事が大事だと思っています。そして、自分が思っていることは口に出して、活動のきっかけをつくるように心掛けています。
- ・地域のより多くの方に認知され、従来から一歩踏み出してもらえるような取り組みをするかどうか。
- ・広報誌の作成で現在4ページ(A4)年1回を8ページ以上にして内容を充実させたい。
- ・従来のイベントだけでなく、興味を持ってもらえるようなイベントを考えていきたいと思います。
- ・スタッフの数から、現状を充実させていきたい。
- ・まちづくり推進委員会の活動の啓発によるまちづくり気運の高揚。地域の企業、法人の職員・従業員も取り込んだまちづくりのために、意見交換や連携協力体制づくり。そのためのまちづくり推進委員会の運営の工夫。
- ・地域の連携を強化したい。そのために種々の行事を実施予定。
- ・住民主体型活動を継続していきたい。ボランティア会員が高齢化しているので、後継者を見つける。
- ・将来的目標として LINEWORKS のような SNS で回覧板などを置き換えていくこと。
- ・総合事業費補助金及び地域側で提供する補助金の活用最適化に向けて、各団体での事業の見直しを実施していきたい。

問8. あなたの団体の活動のなかで、特に課題になっていることはどれですか。(最もあてはまるものから順に3つまで数字を記入してください)

地域活動団体が抱える課題等を評点化(第1:3点、第2:2点、第3:1点)で算出したところ、活動の中で特に課題になっていることは、「役員等の担い手確保」(412点)が最も多く、「イベントの企画・運営」(186点)、「活動にかかる費用の確保」(150点)が続いています。

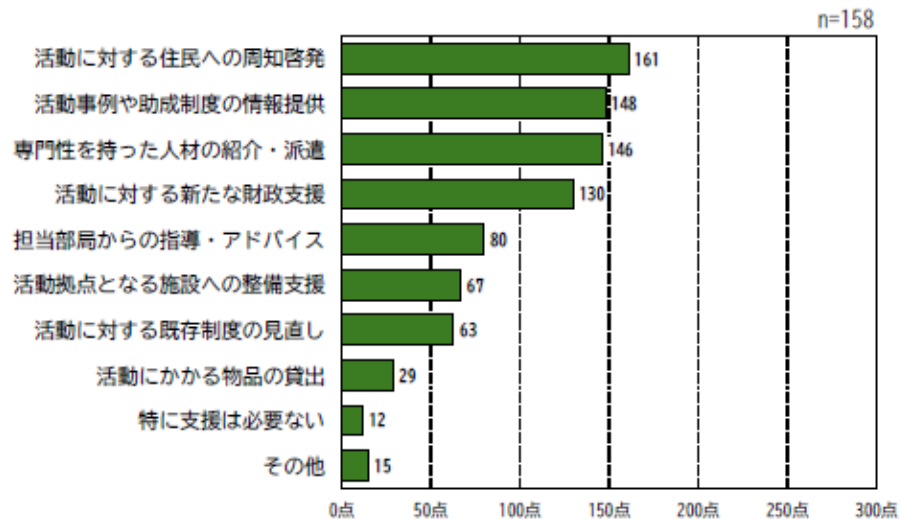
【評点】



問9. あなたの団体の活動を進めるうえで、特に有効だと思う支援はどれですか。(最もあてはまるものから順に3つまで数字を記入してください)

団体の活動を進めるうえで特に有効だと思う行政の支援は、「活動に対する住民への周知啓発」(161点)が最も多く、「活動事例や助成制度の情報提供」(148点)、「専門性を持った人材の紹介・派遣」(146点)が続いています。

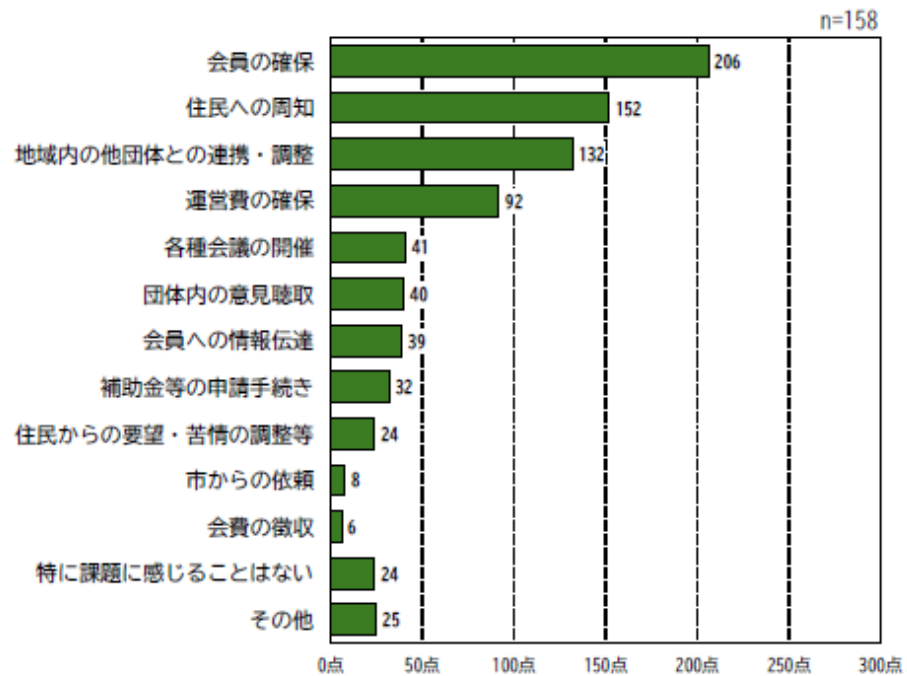
【評点】



問10. あなたの団体の運営のなかで、特に課題になっていることは何ですか。(最もあてはまるものから順に3つまで数字を記入してください)

団体の運営のなかで特に課題になっていることは、「会員の確保」(206点)が最も多く、「住民への周知」(152点)、「地域内の他団体との連携・調整」(132点)が続いています。

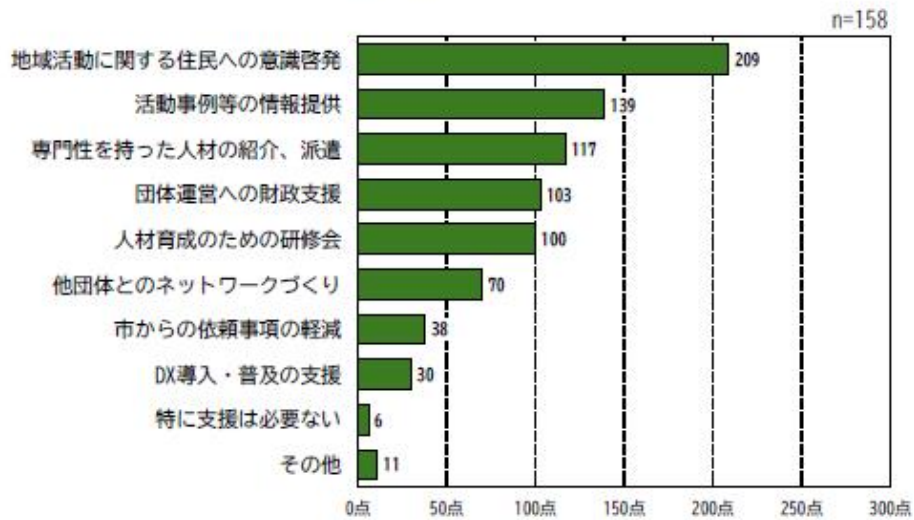
【評点】



問11. あなたの団体の運営を進めるうえで、有効だと思う支援はどれですか。(最もあてはまるものから順に3つまで数字を記入してください)

団体の運営を進めるうえで、有効だと思う支援は、「地域活動に関する住民への意識啓発」(209点)が最も多く、「活動事例等の情報提供」(139点)、「専門性を持った人材の紹介、派遣」(117点)が続いています。

【評点】



問12. あなたの団体の活動・運営上の課題について、解決した事例があれば、具体的にご紹介ください。

団体の活動・運営上の課題について、解決した事例を具体的にたずねたところ、66人から回答があり、イベントの企画・運営や会員の確保、会員への情報伝達・住民への周知などの事例が出されています。

【イベントの企画・運営】

- ・ イベントに使用する机・椅子・テントなどを収納するため、小学校の敷地内にコンテナ倉庫を2棟設置し、スタッフの負担軽減を図った。
- ・ 高齢者の委員が多いので、行事に参加するのに一人が長時間行うのではなく、2時間毎の交代制にしました。
- ・ 講師の選定が決まらない場合が毎年ありますが、地域の方や各団体からアイデアをいただき毎回講師の選定をしています。
- ・ 福祉事業の実施について、各地区の民生児童委員の協力を取り付けた。設営、撤去作業を地元中学生が手伝ってくれるようになり、助かっている。
- ・ なにごとも役割分担、人員確保、マニュアルの作成だと思っております。運動会マニュアルができたことです。

- ・ 50名近くの委員がいるという事で、他団体から何かと協力を求められる。行事当日だけという事で会長自身もわからないことが多いので、協力していくためにそれに必要な会議の出席を求めた(これはこれで大変)。
- ・ 解決したわけではないが、長く継続してきた中学校の防災体験学習の結果として、中学校に防災部がクラブ活動として発足し、地域の各種防災活動に防災隊や消防団の皆さんと一緒に活動してくれている。
- ・ 中学校の生徒の大半が自転車通学をしていることから、スタント会社のスタントマンが実演し、危険性を身をもって感じ、交通安全について考えてもらいたいと企画し、青少協としては資金を積み立てし、足りない分は支援をしてもらい実現できたこと。これからも3年に一度はやっていきたい。
- ・ ふれあい広場でグリル販売をしており、専門店の支援でやっていたが、店が閉店したため、機材を買って自分たちで作って売った。いつまでやれるかわからないが。
- ・ 人権センターや他地区開催の講演会・研修の受講者(主に会長)が役員会開催時に受講内容を発表し、情報の共有と共にプチ勉強会を行い、役員の人権意識と知識の向上に努め、人権啓発に注力。役員会での発言が多くなったように感じる。

【会員の確保】

- ・ 幹事業に参加していた母親が、当まちづくり委員会のメンバーになってくれた。
- ・ 後継者・人材確保のため、各地区から優秀な人材を社協本部抽選の形で各自治会長の了承を得て登用している(現在36名該当)。
- ・ 2024年より安協支部交通安全指導員制度を廃止し、支部役員のみとした。地域の高齢化に伴い自治会各組からの指導員を廃止(当時25名いました)。
- ・ 財政面などについての課題については現在進行中のため解決はしていないが、運営スタッフの確保については、子どもを中心に置いた活動の中から、活動の意図に共感してもらえる保護者が少しずつ増えてきている段階。
- ・ 部員の方が毎年変わっていくため、継続してやってもらえる方を増やしたい。協力者の人員を増やしスムーズに運営できるようになった。
- ・ 他団体、特に地区社協への部員参加(全員)を求められるが、協力していくという立場を何度も説明し、理解を得た(?)。
- ・ 会員の確保で幼児を対象とした「新体操教室」の実施。幼児(3歳～小学生)の加入者が増えた。
- ・ 私を含め(着任1年目)活動内容のわからない者の集まり。みんなで意見の出しあえる雰囲気づくりに注力した(全員で取り組もう!)
- ・ 社協は他団体からメンバーを派遣してもらって構成している。子ども会(育成会)、PTAメンバーの減少を受けて、組織をスリム化(8部門→6部門)して構成(派遣される)メンバーを減らした。

【会員への情報伝達・住民への周知】

- ・ 定例会、イベント等の報告をHP掲示し共有化及び周知。
- ・ 会員への情報伝達はIT(LINE)使用による情報伝達。

- ・ 広場の存在を地区の住民にもなかなか周知されなかったが、小学生の授業の中に苗植えを組み入れてもらい、子どもたちからの発信により知ってもらえることができてきた。
- ・ 地区住民の地区情報の共有、発信による一体感→「公式 LINE」令和7年 11 月現在 395 友達登録。
- ・ LINEWORKS の導入により、開催案内・情報提供が早く正確に発信されている。ペーパーレスにもつながっている。
- ・ DX 導入によりペーパーレス化と出欠確認の省力化が図れた。

【地域内の他団体との連携・調整】

- ・ 活動(事業)を他団体との共催で開催。
- ・ 四日市市で高齢化率が一番高い地区で、地区住民だけでは災害時に対応ができないため、企業を巻き込んで、一体化した防災体制。
- ・ みえ減災啓発ネットの方々の支援を受け、防災担当者の防災に関する学習を進めている。

【会員の負担軽減・業務改善】

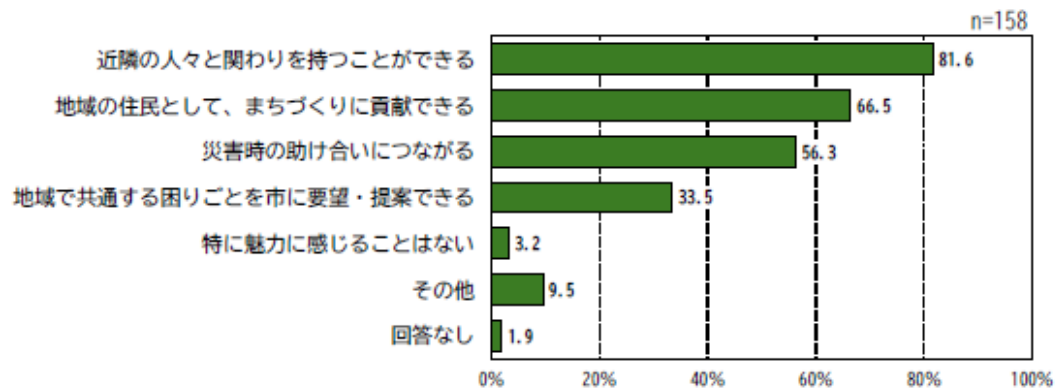
- ・ 社協委員数が 100 名を超え、全員参加の総会が開催できない(会場が狭い)ので、総代制を導入している。
- ・ パトロール回数を削減して、メンバーの負担を軽減した。
- ・ 各団体の委員さんに本事業の内容を毎回理解していただくことにより、会議を少なくできたこと。
- ・ 会員の会費納入について、年齢の上限を設定し、会費を免除する。
- ・ あらゆる年代の方がいらっしゃると、大勢の人数なので、定期的に小グループに分かれてお互いの活動の話し合いをするなど、委員同士のコミュニケーションをとる機会を多くしている。ただ、主任児童委員は活動自体が少し違うこともあり、壁を感じる。改選後(12 月から)話し合いをして、改善してきた。
- ・ 学童保育所の財政処理の透明化、運営の委託化。
- ・ 今年度は、役員を選定方法がおかしく、他の団体の会長が選ばれたりして、とても大変そうでした。なので、途中で抜けていただいて、少しでもその方の負担を減らしてもらえたかなと思います。

【その他課題解決】

- ・ SDGs への取り組み(2025 年 11 月 16 日開催のもちつき大会では参加者に皿や箸の持参を要請)、毎年イベントごみが約 30 袋あり、3年計画で 80%超えを目指す。
- ・ 地区民児協は OB 会があり、そうした OB 会の元民生委員の方より通報をいただき、高齢者と娘さんの二人暮らしで娘さんが入院されてお父様が一人であるが、動きがないようなので見てきてほしいとのことで地区の民生委員が訪問し、無事を確認する。
- ・ 花笠や小物は手作りで作り、費用はできるだけ会員の手作りで行う。
- ・ 小中学校の避難所に 2019~2023 にかけて、避難所を開設した場合の必需品を準備し、2023 年秋に小中学校体育館倉庫の中に置かせてもらった。1校約 50 万円余り。

問13. あなたの団体の活動のなかで、魅力に感じることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

団体の活動のなかで魅力に感じていることは、「近隣の人々と関わりを持つことができる」(81.6%)が最も多く、「地域の住民として、まちづくりに貢献できる」(66.5%)、「災害時の助け合いにつながる」(56.3%)が続いています。



問14. 日ごろの活動や運営について、ご意見がございましたら、お書きください。

地域振興団体の活動や運営について、96人(122件)のご意見をいただきました。

内容	件数
課題	58件
各種会議の開催	1件
住民への周知	1件
会員への情報伝達	1件
地域内の他団体との連携・調整	6件
住民からの要望・苦情の調整等	1件
運営費の確保	7件
会員の確保	25件
その他	16件
支援・提言	36件
活動事例等の情報提供	3件
専門性を持った人材の紹介、派遣	4件
地域活動に関する住民への意識啓発	3件
他団体とのネットワークづくり	2件
市からの依頼事項の軽減	1件
団体運営への財政支援	11件
DX導入・普及の支援	1件
その他	11件
感情	4件
評価	10件
その他	14件

【内容】

■課題に関すること

【各種会議の開催】

・私事ではありますが会議。会長になれば、市の集まり、他団体の会議への出席があり、仕事の負担が大きすぎます。自分の子どもを夜に留守番させて、会議に出席しなければいけないのはどうでしょうか？役員決めに問題があると思います。団体活動を続けるのであれば、地区補導員の選出の仕方を見直すべきだと思います。

【住民への周知】

・催しごとに住民の参加が少なくなっている(コロナ以降特に)。積極的な自治会長、自主防災隊長は良いが…！

【会員への情報伝達】

- ・ 個人情報の取り扱いの関係もあって、委員会からメンバーへの連絡先を入手するのも困難で、情報伝達がスムーズに行えず困っている。

【地域内の他団体との連携・調整】

- ・ 自主防災協議会は各町の自主防災隊長を集めた会議体です。会長としてこうしたいという思いがあっても、実務では各町の自主防災隊長が思うようにやってくれなければどうにもならない。例えば、市からの防災補助金の使い方や、防災訓練のやり方等、私の思いと各自主防災隊長の思いがなかなか一致しない。誠意急に矯正するように指示すると反発して、協力体制が壊れていくので、その点を粘り強くすり合わせていく必要があり、時間がかかる。これは私の課題なので、誰かが助言したり、補助して修正できるものではないと思っている。
- ・ 単位自治会の温度差。
- ・ 各自治会長が中心となって活動を展開するが、自治会長任期が1期1年で交代する自治会があり、できれば1期2年、再任を妨げないことになれば、円滑な活動が展開できる。1年毎に交代では、活動の定着、引き継ぎがスムーズに行えない。
- ・ 各自治会に一人ずつ民生委員さんがほしいです。しかし、なり手不足もありなかなか提案ができません。現在も2町の民生委員さんがみえず困っています。他の地区の面倒を見ることは不可能であり、民生委員を出していない自治会は後れを取ることになりますが、仕方ありません。
- ・ 自治会、諸団体と連携して活動したいが難しい。ボランティアの限界を感じることもある。
- ・ 全ての困りごとは民生委員がしてくれるという間違った考えがあることで、「民生委員は大変」につながり、担い手不足になっている。自治会長の協力を得たくても、自治会長自身輪番制のところが多く、理解を得られないこともあり難しい(毎年、自治会長会議へ出席させてもらい、民生委員・児童委員の事をパンフレットと共にお話してくるが、反応が薄い)。地区のためには、自治会との連携は必須と考えるので、行政の法でも「縦割り」という事をなくして、それぞれの部署で連携をとってほしい(子どもに関しては、こども家庭センターという形で1つになってすごく良い)。

【住民からの要望・苦情の調整等】

- ・ 個人情報の管理でいろいろとクレームがあります。敬老記念品の配布をするための名簿の作成や管理で話がかみ合いません。敬老事業を行う団体が名簿を管理できるよう変更をお願いします。敬老行事でのみ使う名簿作成を認めて下さい。

【運営費の確保】

- ・ 四日市市からの業務委託費では、視察研修等の費用を回収できなくなってきている(物価上昇のため)。
- ・ 当地区は各団体の総括を連合自治会が担当しており、当団体もその傘下に属している。今後は、連合自治会と対等の組織として活動できるよう、体制の見直し、活動費の確保、他団体との関わりについて検討を始める。
- ・ 年間3万円の予算ではできる事に限りがあり、団体としての存在意義が問われる状況と考えます。

- ・ 連合自治会から活動支援を受け、地域内のスポーツ振興活動を行っている。現在は年1回のスポーツ振興を通じて、健康管理と親睦を図っている。これまでは、ポッチャ、体力測定、モルック(R7年度)など、地区のスポーツ推進委員の協力、指導を頂き実施してきたが、当会を運営していくにあたり、企画や運営経費の確保の面から継続が難しくなっている。地域の行事は“めんどろ”、“やらされる”といったイメージがあり、普段参加していない人や、障がいがある地域行事に参加できない人に対しても、スポーツなどを通じて自ら参加したくなる行事として開催を考えてきた。スポーツ推進委員のアドバイスをいただきながら新しいスポーツなどの企画計画を行ってきたが、そのほかにもアドバイス、サポートしてもらえる体制が必要と思う。また、資金面について、講師の依頼により講師料が発生すると、参加者には参加賞しか渡すことができず、優勝を含め、その他各賞がないと参加者にとっても競技に力が入らず、参加者が集まらなくなっている。また、本会の後継者がいないため、今後の運営に不安を感じており、解散を考えたこともある。
- ・ 昨今の物価高も悩みです。
- ・ 現時点、地区社会福祉会や地区団体事務局の協力していただけるおかげで我々の活動は続けられておりますが、今後は講師の選定や予算の面でも運営が困難になると考えられます。
- ・ 市補助金(委託金)の実施後、請求で活動しているが、資金繰りが難しい。

【会員の確保】

- ・ 地域活動を通じて交流の大切さを感じていますが、参加への負担感や仕事との両立の難しさから、参加が進みにくい現状があります。しかしながら、地域のつながりが薄くなると、安全面にも影響があるかもと感じています。
- ・ 私は今年度で会長満3年目となります。会長1～2年は自分が勉強し、役員、委員への啓発に努めました。地区役員会等で研修会、講演会、映画など案内するも、若い人たちの手がなかなか上がりません。何かと複雑な社会の中で彼らの気持ちがわからなくはないですが、正直つらい気持ちになるときもあります…が、普遍的で何よりも大切な「人権」を一人でも多くの人へ引き継がなければなりません。若い人たちの参加しやすい方策について他地区と情報交換をしながら、工夫していきたいと思えます。
- ・ 役員を10年以上やっています。仕事が年々やりにくくなっている。年々高齢化がひどく、新しい人が入ってきません。このままでは解散するしかありません。地域内、とにかく近所同士の中でも情報が入ってきません。自己中心社会生活にみえます。一人暮らしの人がどんどん増えている。
- ・ 定年が伸びたために人材確保が難しくなっている。
- ・ 会員の高齢化により、活動が限定される。
- ・ 地域の高齢者が集う居場所づくりをすることによって、孤独を防げる。ひきこもりにならないための予防と地域とのつながりができる事により、元気になれる。との思いで始めましたが、参加者、従事者は減るばかり。何とかいい知恵はないでしょうか？
- ・ 前出した通り、皆様の手助けのおかげで成り立っています。高齢者が多く、若い人材を探すのに難していますが、まずは明るく楽しく活動していけば続いていけるのではと考えています。

- ・老人会や婦人会といった従来の組織が減ってきているので、その代替として民生委員に声がかかってきますが、民生委員自体も高齢化してきています。75歳で定年というのも撤廃されたので、75才の新任の方が見えるほどです。なんとかもっと若い方になっていただきたいと思います。
- ・現時点では、イベントのお手伝いの人員は確保できているが、高齢化が進み近い将来担い手不足が予想されます。人材の確保の手段が難問である。
- ・人材不足が課題ですかね。
- ・会のメンバーは各団体からの充て職が多く、多くのメンバーの任期が1年の人が多い。長年継続しているメンバーは高齢者が多く、会の運営が今後難しくなる。
- ・ボランティア的な活動になっており、次世代の継ぎ手、高齢化が進んでおり、来年度への継承に不安を感じる。
- ・年間2回の花苗づくりについて問5、問6、問7及び問12の設問の内容で述べましたが、最近の生活様式の変化(定年制度の延長などにより、会員数の減少が困難)及び地域の環境美化活動に関する価値観の多様化などにより、地域においてボランティア会員を確保して花苗づくりの活動が困難になりつつあります。また、近年5月～10月期間の異常気温(日中の気温30℃～40℃になる日数が多い)日数の増加により、花苗の発育と会員の作業現場が激しくなり、花苗づくりの運営が難しくなってきました。今後は地区・地域内の自治会において花苗を移植し、環境美化活動できる自治会があれば希望する花苗と本数を供給できる活動を実施し、地域の環境美化に努めていきたい。
- ・定年延長、再雇用等で平日日中の準備、企画等が全て私に偏っている。地域のために活動する、やる気のある人物が見当たらない。現在のメンバーは、土日は頑張ってくれるが、平日会社を休めない(どこの地区でも同じだと思います)。
- ・会員の年齢が高齢化(現在平均年齢77才)してきており、活動に制限を感じている。若い方及び女性の入会を望んでいる。
- ・年々スタッフや参加者が高齢になり、今後どのくらいの年月を続けていけるのか?と不安。若い人に声掛けをするも、働いている方がほとんどで、家での介護は無理だといわれる。
- ・世帯の減少、子どもの減少、高齢者の増加の中での活動です。その上、物価高の中での活動です。上記により、今までのような活動は無理です。これからは活動に対する工夫、工夫、さらに工夫が重要なポイントであると考えております。地域活動、盛り上げ、とても大事な事です。補助金についても力を入れていただくと嬉しいです。社協はボランティアの活動であって、役員の手がなくて困る状況となっております。これからは役員手当が必要な時期がきていると感じております。
- ・人材不足による活動の低迷、次世代へ活動を継続できるかが心配。特に自治会活動の中心世代を高齢化しており、若い方が興味を持ち、参加できるような工夫があれば参考事例として紹介してほしい。
- ・社協の役員不足に悩んでいる。地域全体に高齢化しているし、現役世代が年々高齢になっても働き続ける現在、のんびりとボランティア活動する人が不足している、無料ボランティアから

有償ボランティアへと変化させないとならないと思われる、そのための資金等々、助言をいただきたい。

- ・本年度は民生委員の改選年度となっています。当地区は12名の方が代わられました、3名の方が代わりの方がなく、継続して委員を引き受けていただきました。民生委員自体が高齢化が進んでいくので、今後欠員などで運営ができにくくなると思われます。仕事と民生委員を共にできる方が参画できるようになるといいと思います。地区市民センター館長様、連合自治会会長様、大変人選にご苦労をおかけして、ご尽力有難うございました。
- ・27年活動を続けてきて、地区の住民の困っている事の援助をしてきました。援助会員が高齢化してきて、活動できる会員が依頼会員になっています。今一番の課題は、この活動を続けていく後継者を増やしていくことです。あと3年で送迎活動の見直し、縮小も考えられます。援助会員をいかに増やすかが最大の課題です。
- ・会員数の減少により、開催事業の縮小が見られます。
- ・数年間活動をさせていただいているが、新しい人材の確保ができていない。PTAや保護者会などの参加もありがたいが、単年度で退任していくため、育たず困惑している。
- ・人権について学ぶこと、住民同士が知り合えることは、とても素晴らしい活動だと思いますが、次世代の担い手が確保できないのが最大の課題だと思います。今年度は私がくじ引きで会長になりましたが、会長とは名ばかりで、大体すべて相談役の80歳の方に任せてしまいました。私も他団体で会長をしていたり、パートをして、子育てして、家事もしてキャパオーバーですとお伝えしましたが、他にやりたい人もいなかったなので、お任せする(相談役に)型で引き受けました。すみません。でも適材適所も必要だと思います。でも、やりたい人がいない…今後どうなるのかなと思っています。

【その他課題】

- ・現状、毎年会長が交代(4役交替)している状況で、新しい企画などができていないため、活動もマンネリ化しているとの声を頂いている。
- ・就労年齢の高齢化により、役員選出等も困難になってきている。地域行事等、参加率の低い活動は精査し、減らしていかななくては、住民への負担が大きい。動員等で参加していくことに活動の意義は感じない。
- ・災害時に避難が困難な高齢者の地域での支援体制づくり、隣どうしの協力。高齢者ばかり世帯増加のため取り組みが必要。
- ・全員が年度ごとの持ち回りで入れ替わる構成の組織であるため、主体的に計画を持って行動することは難しくなっています。スポーツ推進委員さんが主体に近い状況ですが、企画や計画の主体性、あるいは負担を当組織がもう少し持つべきではないかと感じております。
- ・毎年の事業がマンネリ化してきており、新企画の展開に苦慮している。いろいろと情報収集が必要である。
- ・活動状況の展開(情報発信)。防災行事への参加現象(参加型への企画)。役員を選任。
- ・文化祭の参加団体に地域に根差した団体であることが大前提で運営している(地域住民の供出したお金で補助金をもらっている)。幅広くとするが、どうするか議論をしなければいけない。

- ・子どもを中心に置いた活動をする上での課題は、「参加するしないを決めるのは子どもではなく保護者」ということです。子どもの気持ちではなく、大人の事情が大きく影響しているようです。そのためにも、子どもだけでなく、大人も参加したくなるような興味関心のある企画を考える必要があります。そして、次は自分の子どもだけでなく、地区の子どもたちに何かしたいと思ってもらえるような交流の場を作っていきたいと思います。
- ・現在は土日での活動ですが、臨時的に平日に来館申し込みが増えてきており、対応が大変になってきている。
- ・マンネリ化と役員負担の偏り。
- ・地域団体の問題の多くは団体内部に起因していると思われることが多く、役員(会長)が適性を持った人か否か大きく変化する。高齢化等々により、適性を欠く人材が会長であっても、変わる人がいなければ続投させるしかなく、活動内容の大幅向上は望めないと思います。これは外部支援云々という事ではないと思います。
- ・里山の大切さを広くPRし、興味関心を持ってもらう取り組みが必要。
- ・部会は身近な問題等を解消すべく様々な活動を行っている。ただ、若年層の参加が低いため、取り入れる事業などを検討していく必要がある。
- ・若手(65歳未満)の役員がいるのは良いが、昼間は本職のため活動できない。個人情報保護の良し悪し。「向こう三軒両隣」の助け合い運動(共助)ができにくい雰囲気になってきている。野党の自治会の参加率が悪い。名だけで欠席ばかり。交通安全協会は、完全なボランティア活動。しかるに、活動に対する慰労をするにも補助が少ない。現在一人当たり年間2000円也。
- ・防災減災は非常に重要である。特に発災時はコミュニケーションツールができていて、運営等が変わってくると思う。現在当地区は任期2年で、役員、町の担当がほぼ入れ替わる。そのため、幅広く認知されていると思うが、継続性と専門性が低くなると思われる。今後の課題である。
- ・14自治会の10自治会が役職任期1年。各自治会から選出され、社協の任につかれる方も当然1年の任期。何するの?どうするの?「自治会・社協活動はボランティア!」時として耳にすることがあります。「なり手のない」状況の中で、いつまでこの美学が通用するのでしょうか?「手当」を出せばいい?確かに必要かもしれませんが、そればかりで解決できるものでもないですね。「やりたくない」気持ちを「やってもいいけど」という気持ちにどうさせるか、思案のしどころです(「専任役員が置けないだろうか…?」今、頭の中で考えていますが…)。

■支援・提言に関すること

【活動事例等の情報提供】

- ・今後はさらなる情報共有などの支援により、我々の活動が継続できると考えられます。
- ・人材不足による活動の低迷、次世代へ活動を継続できるかが心配。特に自治会活動の中心世代を高齢化しており、若い方が興味を持ち、参加できるような工夫があれば参考事例として紹介してほしい。

- ・ 部落差別をはじめとするすべての差別をなくす活動の事例やアドバイスについて市など関係団体からいただきたい。若年層への啓発方法も併せてお願いしたい。

【専門性を持った人材の紹介、派遣】

- ・ 活動を共にするスタッフと頑張っていることが、先人から受け継いだ「まちづくり」につながっている実感があります。その頑張りをより有効な活動をしていくために外部からのご指導をお願いします。「何でもやればいい」といった考えでなく、生活実感につながる活動にしていきたいので。
- ・ 身近で気軽に当組織の運営方法について相談に乗ってもらったり、法令や行政知識について多少の専門知識を持ちながら、必要なアドバイス、資料や情報の提供等を受ける場・機会がない(なくなった)。地区において重要な組織団体として位置づけられていると感じているが、専門職でない一般住民がどのように話をまとめていけばいいか悩んでしまう(方法、手段、時間など)。地域マネージャーの欠員が非常に痛い。土日、夜間など一般住民と一緒に考え行動してくれる、また地域住民のそばにも寄り添ってくれる人材が欠如している。すべて、館長の統制を受ける立場としては動きづらいので、ある程度の裁量が必要だと思う(地域マネージャー)。
- ・ 数年間活動をさせていただいているが、新しい人材の確保ができていない。PTA や保護者会などの参加もありがたいが、単年度で退任していくため、育たず困惑している。学校関係者(当地区)での退職された方の斡旋してほしいです。

【地域活動に関する住民への意識啓発】

- ・ 教職員は人権活動や人権に関するイベントに対し、積極的に参加する傾向にあるが、一般住民は人権の課題に対し身近にありながら、考える、話し合う機会を得ることが少ない。四日市市全体として人権に対して一般住民の意識を向上させる機会を、ハードルを下げて提供していくことが必要と思います。
- ・ 地域活動を通じて交流の大切さを感じていますが、参加への負担感や仕事との両立の難しさから、参加が進みにくい現状があります。しかしながら、地域のつながりが薄くなると、安全面にも影響があるかもと感じています。今後できるだけ無理なく参加でき、みんなが楽しめる仕組みづくりや活動の意義を広く伝える支援をお願いしたいです。
- ・ 3年毎の一斉改選の時にいつも思う事ですが、それぞれの地域の自治会長さんの思い・活動(動き)に温度差がある事。とても疑問に思います。市よりもっと徹底してほしいです。

【他団体とのネットワークづくり】

- ・ また、守秘義務の問題もあると思いますが、施設に入った人の情報などが地域で共有できていると、災害時に役立つかと思われます(ケアマネージャーさん、民生委員、自治会で〇〇さんは施設に入っているから大丈夫ですといった情報等)。
- ・ 地区広報で情報を広めたいという団体から連絡いただきたい。地区市民センターも積極的にHPを使って、地域住民の皆様へお伝えいただきたい。活用してください。よろしくお願いたします。

【市からの依頼事項の軽減】

- ・私は今年の5月から任期2年で社会福祉協議会の会長職をやらせていただいておりますが、とにかくやることが多いです。敬老祝賀会、健康づくりウォーキング、福祉講演会が3大行事で企画・準備・運営・実施後の報告書作成等、仕事を持つ身としては負担が大きすぎます。これらの行事は連合で実施しなくても、各自治会で必要に応じて実施すればいいのではないのでしょうか。他にも社協とは別の活動を充て職として割り当てられており、各委員会への出席、各行事への参加が伴います。充て職業務となっている者は、別の方を選出していただいてもいいのではないかと思います。また、福祉講演会のテーマ、講師等は市の方で決めていただきたいです。なんの伝手もない者には、どこに頼っていいかもわからず、こちらも荷が重すぎます。講師を見つけることができない時は、中止せざるを得ないとも考えます。いろいろ書いて申し訳ありませんが、実態を知っていただきたく書かせていただきました。

【団体運営への財政支援】

- ・女性目線での防災の取り組みを推進するために、女性消防団、防災隊を作っていきたい。アドバイスを頂ければありがたいです。財政支援も。
- ・物価高に補助金が追いつかない。物価に応じて上げていただきたい。
- ・地区の人口で防災補助金が設定されているので、金額の高いものは購入できず、細かい備蓄品しか購入はできないので、設定を活動内容を考慮してほしい。
- ・質問の中でも触れましたが、資器材の購入の中で、消耗品の一部を市の補助金対象にはできないものかを検討していただきたいと考えております。具体的に言えば、仮設トイレの非常用汚染処理袋です。少量で購入することはなく、最低でも、1,000回分の在庫を持つべきですが、100回分で15,000～20,000円の費用がかかり、1,000回だと150,000～200,000円となり、高額となります。他の地区で災害が発生すると、途端に在庫はなくなり、メーカー自体も取り扱ってもらえず、購入しようとする値が上がるとも買えず、対処できません。仮に1,000回分と仮定しても、100人避難者がいれば3日と持ちません。ぜひとも検討願いたい。
- ・会の活動や運営をするには会員が減少しても最低限必要な費用が必要になる。補助金を上げてほしい。
- ・運営するにはお金がかかります。現在10万5千円(合計)ですが、15万円程にしてほしい。全戸配布と4ページ→8ページにして、活動費個人への1,000円→3,000円へアップ。用紙代、インク代を賄いたい。
- ・行事を実施するにあたり、必要な物品を購入する際、「ポイントをつけてはいけない」等、細かいことまで制約があります。こちらは、例えば物品購入のために買い物に行くのにガソリン代がかかりますし、その労力も伴います。しかしながら、ガソリン代も人件費も出ないです。この点も何らかのご配慮いただければと思います。
- ・世帯の減少、子どもの減少、高齢者の増加の中での活動です。その上、物価高の中での活動です。上記により、今までのような活動は無理です。これからは活動に対する工夫、工夫、さらに工夫が重要なポイントであると考えております。地域活動、盛り上げ、とても大事な事です。補助金についても力を入れていただくと嬉しいです。社協はボランティアの活動であっ

て、役員のなり手がなくて困る状況となっております。これからは役員手当が必要な時期がきていると感じております。

- ・社協の役員不足に悩んでいる。地域全体に高齢化しているし、現役世代が年々高齢になっても働き続ける現在、のんびりとボランティア活動する人が不足している、無料ボランティアから有償ボランティアへと変化させないとならないと思われる、そのための資金等々、助言をいただきたい。
- ・物価高騰の折、補助金の増額も検討願いたい。当地区においても、年々外国人の住民が増加してきており、多文化共生社会実現に向けて積極的な取り組みが求められてきている。連合自治会を中心に、地域団体とも巻き込んだ活動を進めていきたい。多文化共生推進室の支援をお願いしたい。
- ・市の総合事業費補助金の事務局費枠が人件費や物価上昇で厳しい。枠の拡大及び全体補助金増額をお願いしたい。

【DX 導入・普及の支援】

- ・DXを進めるにあたり、インターネットや携帯電話の使用に抵抗がある方への配慮、電子機器を使用しトラブルが発生した際、援助が必要となるケースが多いことなどが会として課題である。市としていくつかのSNSによる情報発信を行っていることは認知していますが、市民を積極的に巻き込み登録者をさらに増やしていく姿勢は見受けられない。もっと積極的に登録者を増やしていく対策を講じてほしい。

【その他支援・提言】

- ・我が子の事であるPTAが解散する時代です。早ければ数年後には自治会解散も考えられると思います。実情、輪番制で役員決めていて上手に引き継ぎできず、活動が縮小傾向になっている自治会もあると思います。今は、市民側が行政をお願いをして地域の安全などが確保されていますが、お願いする組織がなくなったらどうなるのでしょうか？自分は楽しく活動させていただいてますが、同世代の方からすると、少し…変わり者です。今後、私一人とは言いませんが、少ない変わり者と協力しても、社協、自治会、防災、青少協などなど、今と同じ活動は不可能と考えます。市民側も考えなければいけない事ですが、行政としても10年、20年先の活動モデルを考えて頂き、よりよくして頂ければ幸いです。平日の昼間にセンターや役所に行くのってすごく大変なんです。まあなにもお願いしなければいく必要ないんですけど…
- ・防災協役員会の資料をもとに北部防災協の会議が開催されるが、提案内容がお粗末すぎる。市の提案に対して本部役員からの質問がないのか？役員会でこのような質問があった、市はこのように考え決断した。などの説明が、北部防災協会議であるべきと考えます。今のような進め方であれば不要。資料配布だけでいい。
- ・対応として役員手当などの見直しも必要かと思う。基本ボランティアというのは今の時流に合っていない気もする。手当として地域間の格差がないようにしたいので、基準みたいなのがほしい。
- ・行政の方々にもボランティア活動にボランティアとして参加してほしいです。
- ・他の団体と共催や後援などで、子どもの居場所づくりをと考えて企画や活動をしています。先日の小学校のコミュニティスクールにて、学校のプールを解体すること。そのあとにど

のようなものがあれば良いか、ご意見を聞きたいとお話がありました。できれば、地域の人が集え、また子供の居場所になる施設があればと思います。その施設で朝食を食べずに登校する児童に朝食を提供できればと思います。

- ・ 民児協も 100 年の歴史を経て、体制の見直しが必要と考える。70 歳まで働くこのご時世に、無給の名誉職では委員のなり手が限られる。有給を考えるか、福祉を行政が担当するかなどの対応が有効ではないか。
- ・ 市役所に努めている若手(25~55 才)の人は、地域が主催するイベントに主催者側への参加が少ない。役所を辞めてから参加してくれる年配者はいるが、イベントでは、体力、フットワークが重要で、若手が参加してくれると助かる。
- ・ 「なやプラザ」の体育館にもエアコンを設置してほしい。避難所としての使用を前提としています。
- ・ アンケート調査について異論はないですが、重なって数件の同じような質問のアンケートには、いささか、ぐったりとします。年に一度とはいえど疲労困憊です。回答する側も疲れますが、回答をまとめる側も大変だと思います。よろしくお願いします。
- ・ 個人情報の管理でいろいろとクレームがあります。敬老記念品の配布をするための名簿の作成や管理で話がかみ合いません。敬老事業を行う団体が名簿を管理できるよう変更をお願いします。敬老行事でのみ使う名簿作成を認めて下さい。
- ・ 四日市西部地域への運動場施設(体育館)(ドーム含む)があれば、天候に左右される事なく行事が行えるかと。防災の面からも、沿岸部だけの建物だけでなく、内陸部にもあれば。

■感情に関すること

- ・ 本団体の活動(事業)に対する連合自治会の協力に感謝している。
- ・ 社会人で少し離れたところで勤務しており、平日夜間の会議でも積極的に参加できずに申し訳なく思っています。
- ・ 交流の場を作る活動はたくさんさんの顔見知りを作り、また、防犯や防災にも役立ちます。このような地区での思い出を忘れず、大人になってから地元に戻り、また子どもたちをはじめ地域の人達のために活躍してくれる子どもが育ってくれることが私たちの一番の想いです。
- ・ 様々な行事について地区市民センターは積極的に協力してもらっている。大変助かる。

■評価に関すること

- ・ 啓発活動については、小中学校との連携を取った方が、効率がいいと思います。文化祭については、今年は悪い天候ではありましたが、参加はよかったと思います。
- ・ 地域の住民として、まちづくりに貢献できる。地域で共通する困りごとを市に要望・提案できる。
- ・ 地区の自主防災会活動における防災活動は、防災訓練、防災サバイバルなど充実した活動を展開しており地区住民の防災に対する意識は高いと考えている。
- ・ 地区外の方と話をする機会があると、いかにこの地区の活動が多く、その範囲も広いことが分かります。自分が生まれた地区でも行事が減り、ひとりで暮らす母親も一日誰とも話をしなかった日があると聞きます。また、赤ちゃんがお年寄りを怖がったり、逆にお年寄りが赤ちゃんの扱い方がわからず戸惑うといった様子が見られます。そんな中、この地区では、子どもから

高齢者、障がい者の方まで参加できる活動があります。しかも、その活動の中でいろいろな世代や環境の人達が交流できる場所があります。そんな居場所を支えてくれるボランティアの方とのコミュニケーションやサポートが、今後長く継続した事業とするためには、より一生重要となってくると思います。

- ・各町に自主防災組織があるが、本当に機能するのかわからない。今一度、各組織構成員について見直す時期？
- ・住民主体の介護サービスという事で専門性に不安を持たれる家族の方もいらっしゃいます。私自身は看護師、ケアマネの経験はありますが、私たちの行っている施設は地域での居場所や地域の人との交流の場で、医療行為はしないということになっているので、その点での一般の方は不安を持っていらっしゃるように思います。
- ・多くの人とコミュニケーションが取れた。
- ・地区行事の際、委員の出席率が高く非常に円滑に運営できている。
- ・訓練や住民啓発をメインに行っている。住民への理解が浸透しているかは不明。
- ・市役所は地域の事を何もわかっていないとあらゆる場所、場面で強く感じる。現場をよく見ているのか、甚だ疑問である。

■その他に関すること

- ・高齢化率の高い地区として、子育てができる地区として、常に町の活性化に心掛けるとともに、地域と人とのコミュニケーションを重要視して、町の活性化につなげていきたい。結果として、将来とも住み続けられる町として子供からお年寄りまで活発にやっていきたい。
- ・役員を10年以上やっています。仕事が年々やりにくくなっている。年々高齢化がひどく、新しい人が入ってきません。このままでは解散するしかありません。地域内、とにかく近所同士の中でも情報が入ってきません。自己中心社会生活にみえます。一人暮らしの人がどんどん増えている。対策を行政はどう考えているのか。政治ではないと思う。みんな自分本位で生活しているようにしか見えない。地域社会の崩壊が始まっています。組織、行事の改革が要ります。センターの中身をもっと変えていく必要があります。アンケート取っても何もしないならおかしいです。どこの団体運営も同じように見えます。みんな地域の人一人一人を見守り、助け合っていく、そんな社会住民生活にしたいものです。
- ・住民の参加を増やしていくためにも、まずは役員等の意識をさらに高めていきたい。
- ・空家の活用では相当の壁があります。様々な場で問題提起をしていきます。
- ・地域自治会との連携を第一に活動していきたい。
- ・現在の社会情勢(個人の趣味の多様化、楽しさ一杯の社会、働く高齢者が多い)、老人クラブ離れは仕方ないところではあると思う。ただし、今後超高齢化社会に突入していくなか、少数でも老人クラブ活動を「居場所」として必要としている会員があれば、残しておくべきである。対応として、①老人クラブ加入対象者年齢は現在60歳以上としているが、今後後期高齢者(75歳以上)とする。加入率(加入者/対象者)にはあまりこだわらない。②老人クラブへの助成金総額は現状維持とする(参加者への助成が厚くなる)。③楽しさ一杯の有効行事を計画実施し、老人クラブ員が率先して参加できる場をつくる。

- ・ やりたいことを口にするだけで、みんなの活動につながっていれば。近隣のつながりを大切にしまちづくり活動や運営に努める。
- ・ 話を聞くこと。市長懇談会での発表は地域に反映してくれるのか？
- ・ 意見を言ったら、きちんと聞いてくださるのか？市長懇談会時の発表は地域に反映してくれるのか。
- ・ 他地区との協同事業等ができれば…
- ・ 先日(7年12月1日)、文部科学省より18歳統計人口に障がい者(特別支援学校卒業生)を含まないと発表がございました。文部科学省はインクルーシブ教育を進める、誰もが暮らしやすい社会を目指すと言いつつ、自ら差別する行動で残念でなりません。憲法14条を最も理解されていると思われるだけに残念ですが、これがこの国の現実ととらえなければならぬのです。実際に起こっております人権問題について、ともに深く掘り下げてその根っこにあることと自分、深い傷と周りの人々のかかわり、それらの事を正しく知る、差別偏見に気付く。差別解消に具体的人権のみずみずしい目はそこから成長していくと思っています。自噴的な事ですが、もう一線から退く日も近いと考えます。一つでも二つでも課題を克服できるよう自分に厳しくありたいと思っています。
- ・ 人と人との関わりや安心安全に暮らせる(生活できる)地区でありたいと思います。声掛けを大切に信頼関係を大事に活動するようにしたいです。
- ・ アンケートは結構だが、その後どうするか、それが大事。真剣に考えてもらいたい。

地域振興推進のための基礎調査

地域振興団体 代表者調査

地域振興団体の代表者の皆様には、日頃から本市の市政運営にご協力いただき、ありがとうございます。

本市では、自治会・各種団体等を中心とした地域振興を推進するため、皆様にご尽力いただくとともに、市としても地区市民センター等を拠点に支援を行ってまいりました。

しかし近年、人口減少や生活様式・価値観の多様化など、地域を取り巻く環境が目まぐるしく変化し、活動や組織の状況が変わりつつあるものと思われまます。

そこで、地域振興団体の代表の皆様を対象に、活動の現状や課題、今後の方向性についてお考えをお聞きしたく、アンケートを実施します。

ご多用のところ、誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願い申し上げます。

令和7年 11月

四日市市長 森 智 広

■ ご回答にあたってのお願い ■

1. ご回答にあたっては、それぞれの設問でお願いしている数だけ、答えの番号に○印をつけてください。設問のなかには、数字や文章で記入いただくものもあります。
2. 調査票は、ご記入の上、**11月〇〇日(〇)**までに地区市民センターの館長にご提出ください。
3. ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

〇〇地区市民センター【担当:〇〇(館長)】

☎ 059-〇〇〇-〇〇〇〇

月曜日～金曜日の午前8時30分～午後5時15分まで

問1. あなたの住んでいる地区・団体名を教えてください。(記入してください)

【地区名】	【団体名】
地区	

問2. あなたの性別と現在の年齢を教えてください。(1つに○)

性別	1. 男性	2. 女性	3. その他
年齢	()歳 ※数字で記入してください		

問3. あなたの職業を教えてください。(1つに○)

1. 農林漁業	5. 無職・家事従事者(主婦・主夫)
2. 自営業	6. パート・アルバイト
3. 会社員・会社役員	7. その他()
4. 公務員・団体職員	

問4. あなたの団体は、地区でどのような位置付けですか。(あてはまるものすべてに○)

1. まちづくり協議会等(総合事業費補助金の申請団体)の内部組織として活動
2. 地区社会福祉協議会の部会として活動
3. 連合自治会の内部組織として活動(各部会等での活動を含む)
4. それぞれの団体が活動し、必要に応じて連携・協力している
5. その他()

問5. あなたの団体で取り組まれている活動を教えてください。(あてはまるものすべてに○)
()には、活動の概要をお書きください。

1. 防犯活動()
2. 防災活動()
3. 交通安全活動()
4. 高齢者を対象とした行事・見守り・居場所づくり()
5. 子どもを対象とした行事・見守り・居場所づくり()
6. その他地域福祉活動()
7. 環境美化活動()
8. 納涼祭・盆踊り()
9. 地区体育祭()
10. 地区文化祭()
11. 祭り・文化の継承・振興()
12. その他()

問6. 現在、あなたの団体が特に力を入れて取り組んでいる活動の内容を具体的にご紹介ください。

【内容】

問7. 今後、あなたの団体として力を入れていきたい活動内容を教えてください。

【内容】

問8. あなたの団体の活動のなかで、特に課題になっていることはどれですか。
(最もあてはまるものから順に3つまで数字を記入してください)

1. 役員等の担い手確保	5. 事故等における対応	
2. イベントの企画・運営	6. 特に課題に感じることはない	
3. 活動にかかる費用の確保	7. その他	
4. 活動する場所の不足	()	
第1	第2	第3

問9. あなたの団体の活動を進めるうえで、特に有効だと思う支援はどれですか。
(最もあてはまるものから順に3つまで数字を記入してください)

1. 活動事例や助成制度の情報提供	6. 活動に対する既存制度の見直し	
2. 専門性を持った人材の紹介・派遣	7. 活動にかかる物品の貸出	
3. 担当部局からの指導・アドバイス	8. 活動に対する住民への周知啓発	
4. 活動拠点となる施設への整備支援	9. 特に支援は必要ない	
5. 活動に対する新たな財政支援	10. その他	
第1	第2	第3

【内容】※具体例があれば記入してください

問10. あなたの団体の運営のなかで、特に課題になっていることは何ですか。
 (最もあてはまるものから順に3つまで数字を記入してください)

1. 各種会議の開催	8. 運営費の確保	
2. 住民への周知	9. 会員の確保	
3. 会員への情報伝達	10. 市からの依頼 ()	
4. 会費の徴収	11. 補助金等の申請手続き	
5. 団体内の意見聴取	12. 特に課題に感じることはない	
6. 地域内の他団体との連携・調整	13. その他	
7. 住民からの要望・苦情の調整等 ()		
第1	第2	第3

問11. あなたの団体の運営を進めるうえで、有効だと思う支援はどれですか。
 (最もあてはまるものから順に3つまで数字を記入してください)

1. 人材育成のための研修会	6. 市からの依頼事項の軽減	
2. 活動事例等の情報提供	7. 団体運営への財政支援	
3. 専門性を持った人材の紹介、派遣	8. DX 導入・普及の支援	
4. 地域活動に関する住民への意識啓発	9. 特に支援は必要ない	
5. 他団体とのネットワークづくり	10. その他	
第1	第2	第3
【内容】※具体例があれば記入してください		

問12. あなたの団体の活動・運営上の課題について、解決した事例があれば、具体的にご紹介ください。

【内容】

8. 主な質疑・応答、意見

Q. 今回のアンケートは回答者の大半が60代以上であり、若い世代など市全体の正確なニーズが反映されていないのではないかと。デジタル化を進めるにあたっては、自治会長だけでなく、情報の受け手となる市民全体へのニーズ調査も行うべきではないかと。

A. 今回のアンケートは自治会活動の負担軽減を目的としたため、市民全体への調査は実施していない。しかし、機会があれば市民への調査も検討していきたい。

(意見) 自治会長だけでなく市民全体をターゲットに調査を行い、自治会非加入者にも利便性を感じてもらうことで、結果として加入や参画につながるよう進めてほしい。

Q. 各自治会が独自にDX化を進めるのではなく、その良さを市全体で享受できるよう、統一したシステムを構築してはどうか。

A. 市が補助金を出す形式は最も容易であるが、システムが乱立する懸念もある。他市の事例も踏まえ、維持管理費を含めた費用対効果の観点から検討していく。

Q. 他市で導入されているような専用アプリの維持管理費は、本市で導入した場合どのくらいかかるか。

A. メーカーや世帯数に応じて変わるが、大体1,000万円から3,000万円程度かかると聞いている。

(意見) 比較的高額な事例を想定しているようだが、維持管理費はアプリによって異なり、他市では年間80万円程度の事例もある。導入費用が高くても維持管理費はそれほど高くないと思うので、様々な自治体の事例を研究してほしい。また、各自治会に補助を出すより、最初から市の方で仕組みを作って、各自治会の負担をなくすシンプルな仕組みを検討してほしい。

Q. DX化により地域コミュニティが希薄化するとの懸念があるが、SNS等を活用し情報の即時共有を行うことで、むしろ住民の連帯感が高まるのではないかと。市として自治会をリードし、数年以内には具体的な形にする必要があると考えるが、今後の展望を確認したい。

A. DX化への移行は時代の流れであり、必要性は十分に認識している。現在は過渡期にあるため、急激な変化による混乱を避け、課題解消の手立てを講じながら、慎重に検討を深めていく。

(意見) 公式LINEの活用事例では、不審者情報や迷い犬の捜索など、回覧板以上の情報共有が連帯感を生んでいる。DX化は決してつながりを希薄にするものではないが、一気に進めて混乱を招いては本末転倒であるため、住民の理解を得ながら段階的に、かつ着実に推進してほしい。

Q. 今回のアンケート結果を見ると「高齢者には難しい」といったネガティブな現状が読み取れるが、単に導入の意向を問うだけでは前に進まないのではないかと。本気で推進するのであれば、「導入したいですか」と聞くのではなく、市が主導して「地区市民センターで

研修会を実施するので協力してほしい」とアプローチし、若い世代に限らず全員を対象に操作を丁寧に説明しながら進める姿勢を見せるべきである。また、デジタル地域通貨との連動や、土地の境界立ち会いの有料化、自治会長の任期制限の工夫、市から自治会へ依頼している事項の削減など、自治会が本来の仕事に戻れるような根本的な負担軽減策を併せて実行すべきではないか。これらの提案について、市の考えはどうか。

A. 回覧板は情報伝達の一手段であり、大原則は自治会活動の負担軽減にある。地域通貨との連動などはこれまで想定していなかったが、単なるデジタル回覧板の導入にとどまらず、メリットについて理解を得ながら進める必要があると認識している。関係部局とも連携し、多角的な視点で検討していく。

Q. DX化に伴う費用について、単位自治会でも負担がかかるのか。同じ地域でも町によって自治会費が異なる現状があり、負担できないという自治会も出てくると思う。1世帯当たりの費用を明確に示すべきではないか。

A. 本市において公式LINEの使用料を地区で負担し市の補助金を活用している事例や、他市において一部自治会負担や全て無料としている事例もあるため、どこまで自治会に負担を求めていくかは検討が必要である。DX化には費用や手間がかかるというデメリットも含め、全てを包み隠さず提示し、説明すべきと考えている。

(意見) 自治会費は住民の負担で成り立っているため、DX化によりさらに支出が増えるような事態は困る。無償とするのが最良だが、費用を提示する際には、市の補助の考え方も含め、明確に示してほしい。

Q. 単位自治会の役員は短期間で交代することが多いため、自治会主導での導入は困難ではないか。市が主体となって積極的に推進し、複数の選択肢を提示して選びやすい環境を作るべきと考えるがどうか。

A. 最終的な意思決定は自治会に委ねるべきだが、市としても何もない状態で検討を委ねるのではなく、具体的なモデル案を提示するなど、導入を円滑に進めるための環境整備が必要であると考えている。

Q. 現在の補助制度は、DX化に不可欠なパソコン等の端末購入やオンライン会議システムの費用が対象外となるなど、現場の実態と乖離しているのではないか。また、専門知識を持つ「デジタル推進員」の派遣や、機器・Zoomアカウント等の貸出し支援について検討しているか。

A. 現行の補助制度では資産形成につながる備品購入への対応が課題である。一方、専門人材の派遣といったソフト面の支援や、パソコン等の貸出しについては、既にWi-Fi機器の貸出しを行っているため、制度としては可能と考えている。

(意見) 自治会加入促進条例の趣旨に鑑み、実態に即した財政支援の制度を整えてはどうか。また、デジタルに強い学生や民間人材を「推進員」として公募・派遣し、直接的な操作サポートを行う仕組みがあれば、導入をためらう自治会の大きな後押しとなるため、前向き

に検討してほしい。

Q. 市から自治会への依頼事項は年間何件あるのか。また、現役世代の自治会長が抱える業務負担の重さを考慮し、普及率の高いLINEの活用や、デジタル機器の操作に不安を持つ方を支える「ヘルプデスク」のようなサポート体制を構築すべきではないか。

A. 市からの依頼は、市民生活部で把握している回覧・ポスター掲示だけでも年間75件に上り、その他にも各担当課から直接自治会へ依頼しているものが多数存在する。サポート体制については、市職員が全てのソフトに精通することは困難な面もあるため、今後の有効な支援策の一つとして検討していく。

(意見) 現役世代の自治会長の悩みは自分の仕事との両立であり、DX化はあくまで悩みや苦痛を緩和する手段の一つである。現役世代の負担を軽減するためには、市からの依頼事項を削減するなど、根本的な仕事量そのものを減らすべきである。

Q. デジタル回覧板を導入する際、行政からの情報発信だけでなく、住民同士の相互連絡や双方向のやり取りが可能な仕組みを想定しているのか。徘徊高齢者の検索やペットの迷子情報など、住民にとって身近な困りごとに活用できなければ、ツールとして必要とされないのではないか。

A. 行政からの一方的な発信にとどまるシステムは不十分であると考えている。住民間の支え合いに資する双方向性や拡張性については、先行事例を研究し、どのような機能を持たせることができるか検討していく。

Q. 徘徊高齢者の位置情報システムなど、市には既存のデジタル基盤が存在する。新たな仕組みを検討するにあたり、市民生活部だけでなく他部局の既存システムと連携していく考えはあるか。

A. 単なる回覧板のデジタル化にとどまらず、市全体の既存の仕組みをどう活用できるか、地域の実情に合わせた踏み込んだ対応も含め、今後の課題として検討していく。

(意見) DX化という看板を掲げるだけでなく、地域課題の解決に直結する住民に必要とされるツールを目指すべきである。既存の行政サービスや他部署のシステムとの連携を視野に入れ、多角的な視点で今後の姿を検討してほしい。

(意見) 双方向での情報共有や自治会の定期総会の出欠集計などの利便性を住民にしっかり伝えることが大事である。過渡期の間は、デジタル機器の操作に不安を持つ方へのフォローを粘り強く続けてほしい。

(意見) 桜地区では公式LINEを活用し、月額5,500円程度で地区のお知らせをデータ配信している。地域で詳しい人に相談できる環境があれば導入は容易となるため、先行事例を参考に進めてはどうか。

(意見) デジタル化の推進には、操作に不安を持つ層への支援が不可欠である。専門家に限らず学生などの多様な地域人材がサポートに携わる仕組みを、システム構築と同時に検討してはどうか。

9. まとめ

今回の調査では、自治会活動の負担軽減策の一つとして関心が高まっている自治会活動のDX化について、本市における現状と今後の支援のあり方を多角的に議論した。アンケート結果等から、DX化の必要性が認識されている一方、導入や運用にかかる費用負担や、機器の操作に不安を感じる方への支援などが課題となっている実情が示された。また、自治会ごとに異なるシステムを導入するのではなく市全体で統一した仕組みを構築すべきとの意見や、防災や見守りなど地域住民間の相互の支え合いツールとしての機能も期待されていることが確認された。これらの推進は自治会任せにするのではなく、市が主体となって推進し、選びやすい環境や制度を積極的に提案していくことが不可欠である。今後は、費用の目安を明確に示すとともに、丁寧なサポート体制の構築やデジタル推進員等の派遣といったソフト面でのきめ細やかな支援がより一層重要となる。同時に、市からの依頼事項の削減など、根本的な負担軽減に向けた議論も不可欠である。以上を踏まえ、地域コミュニティのつながりを深める多様な活用方法の検討を進め、持続可能な自治会活動の実現に向けた取組を推進していくことを期待し、調査報告とする。

[委員会の構成]

委員長	谷口周司
副委員長	今村厚美
委員	伊藤嗣也
委員	太田紀子
委員	加納康樹
委員	小林博次
委員	笹井絹予
委員	辻裕登
委員	山口智也

6. 行政視察報告書

令和8年3月16日

四日市市議会

議長 村山 繁生 様

産業生活常任委員会

委員長 谷口 周司

産業生活常任委員会行政視察報告

産業生活常任委員会が行政視察を行いましたので、その結果を次のとおり報告いたします。

記

1. 視察日時 令和8年1月20日（火）～1月22日（木）
2. 視察都市 北広島市、札幌市、千歳市
3. 参加者 谷口周司、今村厚美、伊藤嗣也、太田紀子、加納康樹、
小林博次、笹井絹予、辻 裕登、山口智也
(随員) 後藤智子
4. 調査事項 別紙のとおり

(北広島市)

1. 市勢 市制施行 平成8年9月1日
人 口 56,109人 (令和7年12月31日付)
面 積 119.05 平方キロメートル

2. 財政 令和7年度一般会計当初予算 341億2,452万8千円
令和7年度特別会計当初予算 129億7,469万5千円
令和7年度企業会計当初予算 66億1,533万9千円
合 計 537億1,456万2千円

3. 議会 条例定数 22
3 常任委員会 (総務、民生、建設文教)

4. 視察事項
生涯現役地域づくり環境整備事業について

(1) 視察目的

北広島市では、厚生労働省が推進する「生涯現役地域づくり環境整備事業」を活用し、「北広島市生涯現役地域づくり環境整備協議会」が主体となって、令和4年8月から令和7年3月までの期間で事業を実施した。この事業は、人生100年時代を見据え、働く意欲のある高齢者が地域社会で活躍できる多様な就労・社会参加の機会を創出し、その持続可能なモデルを構築するものである。具体的には、高齢化が進行する団地地区を重点地区に定め、住民主体による起業や就業を支援するプラットフォームの形成、マッチング支援、スキルアップ講座の開催など、多岐にわたる活動を展開している。

本市においても、高齢化の進展に伴い、高齢者の生きがいづくりや社会参加の促進、さらには地域内における労働力不足の緩和が重要な課題となっている。高齢者がそれぞれのライフスタイルや特技に応じて柔軟に活躍できる仕組みづくりや、事業終了後も見据えた持続可能なネットワークの構築について、北広島市の先進的な事例を学ぶことで、本市における支援策の参考とすべく視察を行った。

(2) 北広島団地地区における高齢化と事業の目的

- 北広島市は札幌市と新千歳空港の間に広がるなだらかな丘陵地帯にあり、豊かに息づく緑の環境、ゆとりの土地空間、整備された交通網など自然と都市機能が調和したまちです。
- 北広島市はJR千歳線に沿って札幌市と新千歳空港の中間に位置し、札幌市、恵庭市、江別市などと隣接していることから、ベッドタウンとして発展してきました。
- 令和5年3月に、エスコンフィールドHOKKAIDOが開業。令和6年の観光入込客数は、約537万人と全道4位に。
- 人口は、平成19年の約61,000人をピークに減少。令和7年12月末現在で、56,109人（うち外国人715人）。



<高齢化の状況>

- 令和7年12月末現在
 - 65歳以上人口 19,534人
 - 高齢化率 34.8%
 - 東部地区 5,037人 (32.1%)
 - 西部地区 908人 (24.3%)
 - 大曲地区 4,789人 (30.7%)
 - 西の里地区 1,967人 (30.4%)
 - 北広島団地地区 6,833人 (46.6%)
 - 75歳以上 4,410人 (30.1%)

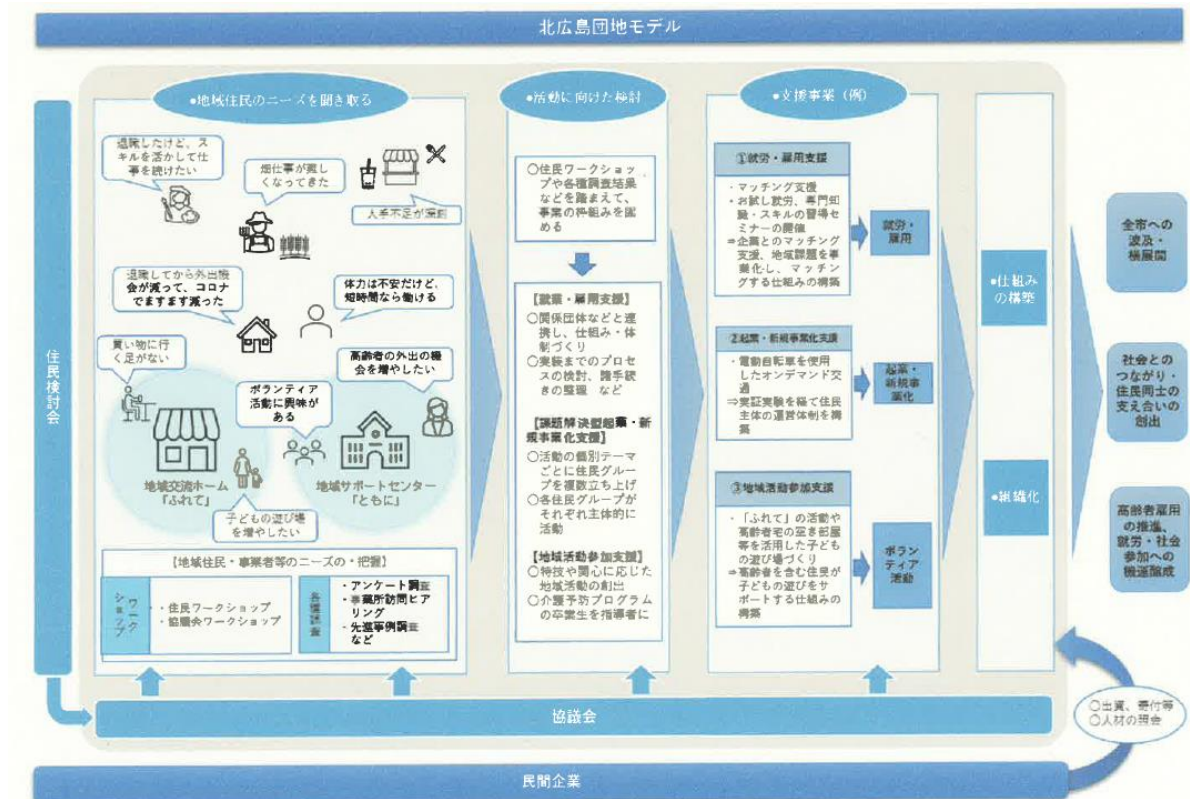
- 2050年の人口推計 (社人研推計)

全人口	43,677人
65歳以上人口	18,742人
高齢化率	42.9%
75歳以上人口	12,260人
75歳以上人口比率	28.1%

北広島市は、北海道ボールパーク F ビレッジの開業により、年間約 537 万人が訪れる観光地としての側面を持つ一方で、市内には高度経済成長期に開発されたニュータウン（北広島団地地区）を抱えている。担当者の説明によると、この団地地区の高齢化率は 46.6%、特に 75 歳以上の後期高齢者が 30.1% を占めており、冬場のごみ出しや除雪が困難、免許返納後の移動手段がない、といった生活課題が深刻化している。こうした中、高齢者が支援される側にとどまるのではなく、自らのスキルや意欲を生かして地

域活動や就労に参加できる仕組みを作るため、厚生労働省の委託事業を活用し、産官学金が連携した協議会を設立した。

(3) 住民ワークショップとICTを活用した就労マッチング



事業の推進にあたっては、廃校となった小学校を活用した施設、地域連携ホーム「ともに」を拠点としている。特徴的なのは、行政主導ではなく、住民参加型のワークショップを通じて、ドッグラン運営やスウェーデントーチ作成などの事業案を住民自らが創出した点にある。また、就労支援の新たな試みとして、スキマバイトアプリを展開する株式会社タイミーとの連携が行われた。担当者は、従来のシルバー人材センターでは、植木剪定や除雪など体力を要する仕事が多く、高齢者のニーズとミスマッチが起きていたと指摘。スマホアプリを活用し、福祉施設での配膳やベッドメイク、清掃など資格不要な軽作業を仕事の切り出しとして企業側に提案し、短時間・スポットで働きたい高齢者とのマッチングを図る実証実験が行われた。

(4) 3年間の成果と今後の課題

成 果	<ul style="list-style-type: none">▶ 住民主体による起業・就業・地域活動支援プラットフォームとして、住民同士のつながりの創出や、高齢者雇用の就労・社会参加への機運醸成を図る機能として、「すき」の井戸端会議の有用性が確認できた。▶ 活動拠点「ともに」を運営する北海長正会の活動との親和性が高く、今後は、北海長正会が中心となり、関係機関が緩やかに連携しながら活動を継続する。
課 題	<ul style="list-style-type: none">▶ 高齢者の多様な雇用・就業機会の創出が課題。 (高齢者の年齢幅が広い=身体的能力の差や就業に対する意識の違いが大きく、ミスマッチが生じた。)▶ 労働人口不足のなか、各事業者における仕事の切り分け・切り出しを進める必要があるのではないかと。▶ 活動の継続のためには、各活動の中心となる人材の育成や資金の確保が課題である。

3か年の実証事業の結果、住民同士のつながり創出や、生きがい就労への意識醸成といった成果が確認された。一方で、課題として収益性の確保が挙げられた。担当者は、協議会を維持するための人件費や運営費を事業収益だけで賄うことはハードルが高く、完全な自走化は難しいと説明。また、企業側において高齢者が担える業務を切り出すノウハウが不足している点も課題とされた。本事業の協議会は令和7年6月に解散したが、構築されたネットワークや活動拠点の運営は、地元の社会福祉法人である北海長正会が中心となって引き継ぎ、無理のない範囲で地域活動として継続されている。

5. 委員からの質疑

Q. 厚生労働省所管事業に関し、本来の事務分掌に基づく福祉部局ではなく、企画担当部署が事務を所管するに至った経緯について知りたい。

A. 福祉部局は介護等の喫緊の課題への対応が主となり、民間連携を伴う広範な地域づくりへの展開に苦慮していた。そのため、民間企業との調整に長けた企画課を窓口とすることで、事業を高齢者福祉の限定的な枠組みにとどめず、市全体のまちづくりという広い視点から推進することとした。

Q. 部局横断的な連携体制の構築に向け具体的にどのように取り組んだのか。

A. 組織規模が比較的コンパクトであり、多くの職員が同一庁舎内に配置されていることから、部局間の物理的・心理的距離が近く、横断的な連携が組織風土として深く定着している。課題発生時には、所属部署の枠組みにとらわれず即応的に相互協力を行

う体制が日常化しており、円滑な連携が確保されている。

Q. 高齢化が顕著な北広島団地地区において、本事業を推進する必要性および実施に至った背景は何か。

A. 高齢化が進む地区の廃校跡地を活用し、住民の健康寿命を延ばす事業に着手した。数年単位の人事異動により方針が変動しやすい行政に対し、地域に根差した民間事業者が主導することで、長期にわたって一貫した運営体制を維持し、事業の安定的な推進を図ることが必要だった。

Q. スタッフの年齢構成および各事業における収益性の現状について確認したい。

A. 従事者は大学生から 80 歳代まで幅広く、多世代が参画している。収益面については、スウェーデントーチ等一部製品の販売収入があるものの、原材料費や加工費等の諸経費で相殺される状況にある。現時点では、雇用創出や賃金支払いを伴う自立的な収益の確保には至っていない。

(意見) 事業の自走には課題があるものの、地域における必要性の極めて高い事業であると認識した。

Q. 株式会社タイミーとの連携に関し、現役世代の利用状況および高齢者の就労促進に向け、どのような取組をしているのか。

A. 高齢者層には馴染みの薄かったスポットワークに対し、企業側へ専門資格を要さない配膳や清掃等の業務の切り出しを促すことで、新たな就労機会を創出している。本取組は、単なる労働力の確保にとどまらず、就労を通じた他者への貢献や生きがいの醸成など、高齢者の社会参画に寄与している。

Q. 株式会社タイミーとの連携に至った経緯、およびスマートフォン利用を前提とした運用状況と端末未所持者への対応策を確認したい。

A. 連携の経緯については、同社より本市へ直接の働きかけがあり、その提案内容が本市の課題解決に資するものと判断し、実施に至ったものである。利用については、高齢者社会におけるデジタル化の進展を見据え、スマートフォンを基本としており、標準的な運用と位置づけている。なお、端末未所持者等に対しては、個別支援等の適切な措置を講じることで、利用機会の格差が生じないように配慮している。

6. 委員会としての所感

北広島市の生涯現役地域づくり環境整備事業は、北海道ボールパーク F ビレッジ開業による地域活性化の一方で、高齢化率が 40%を超える団地地区が抱える課題に対し、住民の意欲を引き出しながら解決を図る先進的な取組であった。

特に印象的であったのは、既存のシルバー人材センターでは対応が難しい、短時間勤務や軽作業という高齢者のニーズに対し、株式会社タイミーが展開するスキマバイトアプリを活用して就労マッチングを図る試みである。企業側が高齢者に任せられる業務を細分化し、仕事の切り出しを行い、高齢者がスマートフォンを活用して社会参加する仕組みについては、労働力不足の解消と高齢者の生きがい創出を同時に実現する手段として非常に画期的であると感じた。

また、住民ワークショップを通じて、住民自身の趣味や特技を生かしたドッグラン運営等の事業が創出されている点も興味深い。補助金終了後の収益確保という課題はあるものの、高齢者が支えられる側から地域で活躍する側へと転換するモデルケースとして、本市においても高齢者福祉施策や地域コミュニティの活性化を検討する上で、大いに参考となる事例であった。

北広島市の事例は、高齢者の社会参加を単なる福祉施策としてだけでなく、地域経済を支える労働力の確保という産業振興の視点からもとらえている点に大きな学びがあった。今後は、高齢者が持つ潜在的な力を地域産業にどう生かしていくかという観点から、福祉や産業といった分野の垣根を越えた連携の可能性についても、柔軟に模索していくことが望まれる。今回の視察で得た知見を本市の魅力的な取組につなげられるよう、議会として検討を重ねていきたい。

(札幌市)

1. 市勢 市制施行 大正 11 年 8 月 1 日
 人 口 1,964,894 人 (令和 7 年 4 月 1 日付)
 面 積 1,121.26 平方キロメートル

2. 財政 令和 7 年度一般会計当初予算 1 兆 2666 億円
 令和 7 年度特別会計当初予算 4006 億円
 令和 7 年度事業会計当初予算 3089 億円
 合 計 1 兆 9761 億円

3. 議会 条例定数 68
 6 常任委員会 (総務、財政市民、文教、厚生、建設、経済観光)

4. 視察事項 市立札幌病院における医療DXの推進と中期経営計画について

(1) 視察目的

市立札幌病院は、672 床の病床を有する地域の中核病院である。令和 5 年度決算において、補助金の減少等により経常収支が 15.9 億円悪化したことを受け、令和 6 年度は経営改善策の効果検証とともに、次期中期経営計画 (令和 7 年度から令和 12 年度) の策定が進められた。施設の再整備については、令和 6 年 12 月の審議会において、機能強化や工期等を考慮した現地建て替えの方向性が示される一方、厳しい経営状況を踏まえた事業精査の必要性も付記された。令和 7 年度からは、医療DXの推進等を柱とした新たな中期経営計画に基づき、経営健全化と施設整備に向けた取組が本格化している。

本市においても、公立病院の経営健全化や施設の老朽化への対応、デジタル化による業務効率化が喫緊の課題となっている。市立札幌病院における、厳しい財務状況下での再整備手法の決定プロセスや、令和 7 年度から始動した新計画に基づく具体的な経営改善策および医療DXの活用事例を調査することで、今後の本市病院事業の在り方を検討していく上での参考とすべく視察を行った。

(2) 医療DX推進の体制と先進技術の導入

市立札幌病院では、経営黒字化に向けた最重要目標として「デジタル技術による徹底した業務効率化」を掲げている。推進体制としては、院内システム担当（4名体制）が中心となり、3か月に1回開催するシステム定例会において、医師・看護師・事務職員等で意見交換を行いながら、現場ニーズの高い部署へ集中的に投資を行っている。具体的な導入技術として、以下の3点が説明された。

○RPA（ロボットによる業務自動化）： 現在12業務で稼働し、年間545時間の作業時間を削減している。作成費用と人件費削減効果を検証し、効果が見込めるものから順次開発を進めている。

○音声入力システム： 看護師50台、医師12台を導入。「メモを取らずにその場で記録できるため、診療報酬の算定漏れ防止や記録の質向上につながっている」との報告があった。

○生成AI（令和8年度導入予定）： 医療文書作成支援や院内ヘルプデスク用チャットボットを導入予定。担当者は「誤情報対策として、参照データを院内の電子カルテ情報のみに限定する仕組みを採用する」と説明しており、安全性を確保したクラウド環境での運用を準備している。

(3) 電子カルテ更新とマイナンバーカード利用促進

利用実績（R7.4～R7.10）

年月	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	R7.8	R7.9	R7.10
利用率	27%	27%	32%	36%	45%	48%	49%

基幹システムである電子カルテについては、令和5年にNEC製パッケージシステムへ更新した（約17億円）。更新にあたっては、システム全体を一括発注するのではなく、PC端末やネットワーク等を分割して入札にかけることで競争性を働かせ、コスト抑制を図った経緯が説明された。次回更新（令和11年頃）では、国の標準型電子カルテの動向や、病院建替計画との整合性を考慮するとしている。また、マイナンバーカードの利用促進については、顔認証付きカードリーダーを8台設置し、電子カル

テとの連携を強化した。担当者によると、「連携前は利用率が5%程度だったが、システム連携と周知により、令和6年10月には49%まで急伸した」とのことであり、国の施策と連動した成果が数値に表れている

5. 委員からの質疑

Q. 全国的に公立病院の経営環境が厳しさを増すなか、一般会計からの繰入金の確保に向けた財政当局との調整状況、および繰入手法の見直し等はどのように取り組んでいるのか。

A. 繰入金の算定にあたっては、算定基準の解釈を含め、合理的な積算根拠に基づき財政当局と緊密に協議を行っている。具体的には、従来の収支差補填式による繰入を見直し、地方交付税の算定単価に基づく方式を導入した。これにより、救急医療等の実績向上に伴う増収分が繰入金の減額によって相殺されず、病院側の経営努力が適切に反映される仕組みへと改善を図った。また、財政当局の深い理解のもと、経営改善に資する事業については基準外繰入による財政支援を受けるなど、適宜調整を図りながら安定的な経営基盤の確保に努めている。

Q. 厳しい経営状況を打開するため、院内プロジェクトチーム等、職員の意識改革に向けて何か取り組んでいるのか。

A. 事業管理者および院長の主導の下、「救急・手術」「地域連携」「病床調整」といった病院経営の重点項目ごとにプロジェクトチームを組織し、月例会議等を通じて日々業務改善に取り組んでいる。しかし、経営層の理念やプロジェクトの成果が全職員へ十分に周知・共有されていないため、改善の余地があると認識している。今後は、組織の末端まで情報と意識を浸透させるための周知手法を工夫し、病院一丸となった経営改善体制を構築していく。

Q. 院内の情報システム部門におけるRPAの導入プロセスおよび業務分担、特にロボットの開発・保守体制の現状はどのようになっているか。

A. 導入にあたっては、院内から約110件の要望を抽出し、効果が高いものから優先して進めている。ロボットの作成は外部業者に委託しているが、職員も開発の過程に参加することで、修正や管理のノウハウを学んでいる。RPAは、パソコン上の環境が少し変わるだけでも停止しやすい性質があるため、トラブル発生時に業者任せにせず、院内職員の手で即座に復旧できる体制を整えている。

Q. RPA導入に伴うライセンス費用等の維持管理コストと、現時点での約545時間と

いう削減効果を鑑みた費用対効果の検証状況、および今後の導入判断基準について伺いたい。

A. 現在導入しているソフトウェアの月額利用料は約 20 万円であり、これに開発に係る技術者の人件費等を加えた総コストに対し、医師や薬剤師、看護師等の専門職における時間外勤務手当の抑制効果を比較検証している。具体的な採択基準としては、システムの利用期間を 7 年と想定した上で、概ね 2 年以内の投資回収が見込める案件を優先している。現時点では、年間 100 時間から 200 時間程度の削減に寄与する業務を導入の目安としており、専門職の業務負担軽減に資する効果的な運用に努めている。

Q. 情報システム更新時における事業者の選定手法について確認したい。

A. 更新時は、職員による操作性評価を経た総合評価一般競争入札を実施している。大規模病院向け事業者は国内数社に限られるなか、直近の更新では他社の辞退により 1 社応札となった。過去には複数社の競り合いによりコストを抑制した実績もあり、今後も公平かつ競争性のある環境構築に努めていく。

Q. ヘルプデスクの運営体制はどのようになっているか。また、生成 A I 導入による業務改善にはどのような狙いがあるのか。

A. 直営職員と委託業者の併用体制により、院内職員からのシステム照会に対応している。現在、1 日平均約 40 件の入電があるが、システム更新時等の過重負荷による離職が課題となっている。今後は生成 A I チャットボットの活用により、定型的な照会対応の自動化を図ることで、業務負荷の軽減と職場環境の改善を進め、職員の離職防止につなげていく。

6. 委員会としての所感

市立札幌病院は、地域の中核病院として現地建て替えという大きな決断を下す一方で、医療 D X や経営改善に積極的に取り組んでおり、その姿勢は非常に参考になった。

特に印象的であったのは、一般会計からの繰入金算定に単価差を導入し、病院側の経営努力を適切に評価する仕組みである。これにより、現場の意欲向上と財務基盤の安定を両立させる手法は、極めて合理的であると感じた。また、R P A 導入に際して投資回収 2 年以内という明確な判断基準を設け、生成 A I によるヘルプデスクの負担軽減を図るなど、実利を重視した医療 D X の推進も学ぶべき点が多い。

本市においても、病院の老朽化対策や経営の効率化は喫緊の課題である。札幌市の

事例を参考に、数値に基づいた効率化と職員の意識改革を並行して進め、質の高い医療サービスを継続できる体制構築を目指し、議会として取り組んでいきたい。

(千歳市)

1. 市勢 市制施行 昭和 33 年 7 月 1 日
人 口 96,503 人 (令和 7 年 4 月 1 日付)
面 積 594.50 平方キロメートル

2. 財政 令和 7 年度一般会計当初予算 595 億 1,916 万円
令和 7 年度特別会計当初予算 186 億 2,662 万円
令和 7 年度企業会計当初予算 221 億 1,350 万円
合 計 1,002 億 5,928 万円

3. 議会 条例定数 23
3 常任委員会 (総務文教、厚生環境、産業建設)

4. 視察事項 ラピダス社の工場誘致とその影響について

(1) 視察目的

ラピダス株式会社は、トヨタ自動車やソニーグループなど国内主要 8 社の出資により令和 4 年に設立された、次世代半導体の国産化を目指す国策企業である。同社は、世界でいまだ実現されていない回路線幅 2 ナノメートル世代の先端半導体の量産化を目標とし、隣接する千歳市の工業団地、千歳美々ワールドに製造拠点 I I M を建設中である。令和 9 年からの量産開始を計画しており、プロジェクト全体の投資額は 5 兆円規模と見込まれている。千歳市が建設地に選ばれた背景には、広大な用地、豊富な水資源や再生可能エネルギーのポテンシャルといった安定したインフラ、若年層を含む人材確保の優位性などが挙げられている。

本市においても、地域経済の活性化や新たな産業の創出が重要な政策課題となる中、大規模な産業集積に伴う地域への影響や、企業誘致における競争力の確保といった観点は、今後の施策展開を考える上で有益な示唆を与えるものと考えられる。ラピダス社の大規模プロジェクトが地域に与える経済波及効果や、企業が立地を決断するに至った千歳市のインフラ・人材面での優位性に関する取組、および地元自治体としての支援策について調査し、本市の産業政策や企業誘致の参考とするため視察を行った。

(2) プロジェクト概要とスピード感あるインフラ整備

① インフラ整備（上下水道等）



国家プロジェクトである次世代半導体製造拠点、ラピダス社の建設が、新千歳空港隣接の千歳美々ワールドで進められている。令和7年4月の試作ライン稼働、令和9年の量産化という極めてタイトなスケジュールに対応するため、市は次世代半導体拠点推進室を設置し、国や北海道と連携して対応している。

特に課題となった水資源について、担当者は「試作ライン用の上水道（日量 4000 m³）は既に整備したが、量産時には桁違いの水が必要になる」と説明。これに対応するため、苫小牧地区工業用水道から約 22km の導水管を引く大規模工事や、下水処理場の拡張を、国の地域産業構造転換インフラ整備推進交付金を活用して迅速に進めている現状が報告された。

(3) 建設作業員の受入と交通渋滞対策



工場建設のピーク時には約4800人の作業員が従事した。担当者の説明によると、「市内の賃貸物件が逼迫したため、工業団地内に約1000人収容の仮設宿舎を設置して対応した」とのことである。

懸念された交通渋滞については、徹底した車両流入規制が行われた。具体的には、作業員の自家用車通勤を禁止し、市内数か所からの大型バス輸送に限定したほか、工事車両の動線を左折入場・左折退場に固定することで滞留を防いだ。この結果、目立った渋滞や市民からの苦情はほとんど発生していないという成果が報告された。

(4) 経済波及効果と将来ビジョン



ラピダス社進出に伴う波及効果として、令和7年12月時点で関連企業45社が立地を決定している。これに伴い、市内ではこの2年間で2200戸以上の賃貸住宅が建設され、ホテル客室数も約3割増となる建設ラッシュが起きている。

市は将来人口のピークを10万2千人規模と予測しているが、担当者は課題として「家賃や地価の上昇など、市民生活へのマイナス影響も一部出ている」と指摘。市民理解を促進するため、将来的な財政基盤の強化や商業活性化といったメリットを丁寧に説明し、理解を求めていく姿勢が示された

5. 委員からの質疑

Q. 2ナノメートル世代の先端半導体の量産化による国際的な優位性および市場での位置付けについて伺いたい。

A. 現在、当該分野ではTSMC社が世界をリードしているが、特定企業への供給依存には地政学的なリスクが伴う。リスク分散の観点からも、ラピダス社の参入は国際的に極めて重要である。2ナノメートル世代の技術を確立することで、世界のトップ企業と匹敵する技術力を確保し、安定的な供給拠点としての役割を担うことを目指している。

Q. ラピダス社の進出用地について、造成を行わず素地のまま譲渡したのか。

A. 当該地はオーダーメイド型の分譲を想定し、市が第2期事業用地として保有していたものである。ラピダス社が求める大規模な用地需要と厳格な建設工期に対応するため、市による造成期間を省き、素地の状態で譲渡することで迅速な事業着手を優先した。

Q. 貴市主導による工業団地造成の実施体制および開発手法について詳細を聞かせてもらいたい。

A. 土地開発公社の解散に伴い、現在は市が直接開発を担っている。専門的な知見を補完するため、昨年度に新組織を立ち上げ、体制強化を図った。国有地の取得にあたっては、単純な随意契約が困難であり、国から市、市から民間への譲渡が転売と見なされるという制約がある。そのため、市が都市計画を主体的に策定し、法的な整理を行うことで円滑な用地確保を進めている。なお、基盤整備の完了は令和10年度を予定しており、量産開始時期である令和9年との時間差を埋める工程管理が喫緊の課題となっている。

Q. 事業の不確実性や進出確定前の用地取得に対し、議会から慎重論や批判はなかったのか。

A. 議会からはむしろ、対応の遅れによる商機逸失や経済効果の減少を懸念し、早期対応を求める声が多数寄せられた。本件が国策事業であるという重要性も鑑み、議会からは強い後押しを受けている。

Q. 市内3か所の工業団地で、今後の立地需要を十分に賄えるのか。

A. 半導体関連のみならず周辺産業からの引き合いも強く、将来的な用地不足を予見している。民間による開発意欲も高いが、半導体製造に不可欠な膨大な給排水インフラの整備が最大の課題となっており、現在はその対応を最優先に進めている。

Q. 今後の国有地取得の見通しと開発の課題は何か。

A. 市内には活用可能な国有地がいまだ存在するが、開発にはインフラ整備が前提となる。今後は、事業進展に伴う税収増を整備財源に充てていく考えである。なお、本市は防衛施設が多数所在する特性上、土地利用に一定の制約を伴う点に留意が必要である。

Q. 公立千歳科学技術大学の経営状況および運営支援の現状について伺いたい。

A. 入学定員は概ね充足しており、経営は健全に維持されている。市からの運営費交付金等による支援を継続する一方、半導体関連の人材育成を強化するため、クリーンルームの増設等、戦略的な設備投資に対しても重点的な支援を行っている。

6. 委員会としての所感

千歳市における次世代半導体の国産化を目指すラピダス社のプロジェクトは、国策としての重要性に加え、地方自治体が担うべきスピード感ある対応の好例であると感じた。

特に印象的であったのは、同社の厳格な建設工期に応えるため、市が新組織を立ち上げ、造成工事を待たずに素地の状態で土地を譲渡するという異例の迅速な対応を断行した点である。議会側においても、事業の不確実性を危惧する以上に、商機の逸失を懸念し、行政の背中を押す形で一体となってプロジェクトを推進した姿勢は、本市においても参考とすべきものである。

また、半導体製造に不可欠な膨大な給排水インフラの整備を最大の課題ととらえ、将来の税収増を財源に充てるという確固たる見通しの下、着実に整備を進めている。同時に、地元の公立大学への設備投資支援を通じて、地域内で専門人材を育成・供給する循環を構築している点も、持続的な産業集積を支える基盤として重要であると

再認識した。

今回の視察で得た、官民一体となった迅速な意思決定プロセスや戦略的な支援体制を参考に、本市の産業政策の効果的な推進につなげていきたい。

7. 議会報告会の概要

【議会報告会】

○富田地区の交通安全対策に取り組んでほしい。

⇒議員 ご意見として承る。

○北大谷斎場の改修や公園の維持管理について、費用対効果を把握したうえで審査しているのか。また、過去3か年の公園施設管理費の㎡単価を知りたい。

⇒議員 北大谷斎場の改修工事は金額に加え、事業者から実施手法等の提案を比較した上で事業者を決定している。また、公園施設管理経費については後日回答する。

○議会報告について、ポイントを絞った説明をしてほしい。また、報告に対する質問は各常任委員会の報告後に行ってはどうか。

⇒議員 ご意見として承る。

【シティ・ミーティング】

《テーマ：四日市市政全般について》

○ごみを持ち込む人でクリーンセンターが混雑することがあるが、対策を講じるべきではないか。

⇒議員 持ち込まれたごみの分別に時間を要している。インターネットで公開しているライブカメラの映像から、クリーンセンターの混雑状況を確認できることを周知していきたい。

○羽津地区に住んでいるが、南海トラフ地震に備え、浸水対策を強化すべきでないか。

⇒議員 ハザードマップでは国道1号付近まで浸水が発生するとされている。津波が発生した際は、沿岸部からなるべく遠く、高い場所へ避難してもらいたい。

○物価高騰で栄養バランスの取れた食事ができない人が増えていると感じる。日々の食事に困っている人へ生鮮食品などを届ける手段はないのか。

⇒議員 社会福祉協議会で余っている食品の寄付を受け、必要とする人へ提供する取り組み

みを行っている。生鮮食品の取り扱いについても検討していると聞いているので、社会福祉協議会のホームページを確認してもらいたい。

○費用対効果の視点を持って政策を判断すべきでないか。

⇒議員 議会としても、費用対効果の視点は重要と考えている。

○近鉄霞ヶ浦駅に線路の西側からも駅構内に入れるよう改札口を新たに設けてほしい。

⇒議員 鉄道事業者は対応する予定はないが、鉄道事業者に頼らない方法で改札口を設置できないか地域で議論をしている。

○空き家問題について、市はどのように対応しているのか。

⇒議員 空き家の所有者が対応すべき問題であるため、市で対応するのには限界がある。

空き家問題への対応については「空き家の手引き」という冊子にまとめ、市ホームページで公開しているので参考にしてほしい。

○外国人市民の児童及び保護者に対する日本語教育の機会を設けるべきではないか。

⇒議員 日本語教育を受けられる環境を整える必要があると考える。

○さまざまな事情がある子どもたちの居場所が不足していると感じる。大人が子どもの権利について理解を深めるための啓発が必要ではないか。

⇒議員 市も子どもの居場所づくりに取り組んでいる。すぐに解決する問題ではないが、市が策定した「こども計画」の実効性を議会としても高めていくことが重要と考えている。

○PFASの問題について対策を進めてほしい。

⇒ご意見として承る。

○高齢者の免許返納を後押しする施策を充実させるべきではないか。

⇒議員 5000円分の交通系ICカードを支給する市独自の取り組みを実施している。このほか、公共交通機関の交通網の整備を進めることも重要と考える

○本庁舎に市民の憩いの場となるようなスペースがほしい。

⇒議員 ご意見として承る。

○くすの木パーキングなどの地下施設は災害で大きな被害を受ける可能性があるのではないか。また、9月12日の大雨により、くすの木パーキングで水没した車両に対して補償を行うべきではないか。

⇒議員 今後、市から災害復旧や治水対策について説明を受けた後、議会でも議論していきたい。

○市長が中国の天津を訪問する予定があるが、災害復旧への支援を要請してはどうか。

⇒議員 ご意見として承る。

8. ワイ！ワイ！GIKAIの概要

シティ・ミーティング・(ワイ！ワイ！GIKAI)で出された主な意見

【産業生活常任委員会】

日時:令和8年1月26日(月)

場所:聖母の家学園高等部専攻科

	聖母の家学園 高等部専攻科	委員
	テーマ:就労・まちづくり	
1	都市公園の魅力向上に向け、シンボルツリーの植栽やイルミネーションによる夜間演出を行い、芸術的な感性を育む魅力的な空間を整備してほしい。	ご意見として承る。
2	学校生活や日々の暮らしの中で、ふと花や緑が目に入るような場所を増やし、誰もが自然と優しい気持ちになれる、穏やかで落ち着いた街にしてほしい。	本市では、花と緑に包まれた潤いのある住環境の創造に向け、「花と緑いっぱい事業」を実施している。本事業は、公園や街路、こども広場等の公共的施設において、花壇の設置や緑化に取り組むボランティア団体等に対し補助金を交付するものであり、今後もこうした活動を支援し、市民が安らぎを感じられる街づくりを推進していく。
3	将来、花を育てたり農作業に携わったりする仕事に就きたいと考えている。自分の好きな園芸の知識や技術を生かして働ける場が、もっと増えてほしい。	ご意見として承る。
4	一人で外出することに不安があるため、気軽に利用できる外出支援サービスを充実させてほしい。	これまで支援は行き届いていると考えていたが、当事者にとっては依然として不十分であるという現状を、真摯に受け止めたい。
5	四日市駅周辺には若者が楽しめる場所が少ないと感じている。大規模な古本屋や広いカラオケ店、アイススケート場のように、日常的に体を動かしたり、仲間と楽しく過ごしたりできる施設を充実させてほしい。	ご意見として承る。若者が日常的に集い、活発に活動できる魅力的な拠点づくりについて、頂いた提案を今後のまちづくりの参考としたい。
6	事故などによる交通渋滞を解消するため、北勢バイパスをはじめとする主要道路の多車線化を推進し、安全で円滑に走行できる環境を整備してほしい。	北勢バイパス等の多車線化については、将来的な整備計画があるものの、進捗に課題があると認識している。本市は産業都市であり、企業誘致や物流の活性化において交通網の充実は不可欠である。早期整備に向け、スピード感を持って取り組むよう、国や関係機関に対し働きかけていきたい。

イベント沢山、移動しやすい四日市

聖母の家学園 高等部 専攻科 A組

【私たちの5つのアイデア】

- バスの本数とJRの本数を増やしてほしい
- JRから聖母の家学園を通るバス路線を作してほしい
- ソラカラちゃんなど好きなキャラクターが来るイベントを開催してほしい
- 交通渋滞を緩和してほしい
- 同じ境遇の人たちが気軽に関われる交流会を開催してほしい

四日市市が、もっと楽しくなったら！

聖母の家学園 高等部 専攻科 B組

【私たちの3つのアイデア】

✓アイデア1：街がきれい

✓アイデア2：気軽に相談できて、みんなが仲良くできる街

✓アイデア3：誰にでも使いやすい街

四日市の未来をデザインする

聖母の家学園 高等部 専攻科 C組

【私たちのアイデア】

- 公園に大きなツリーやイルミネーションが欲しい
- アートな街にしたい
- お花いっぱいの緑豊かな街にしたい
- 送迎サービスがあり、お出かけが簡単な街にしたい
- フリーマーケットや大きな古本屋が欲しい
- アイススケート場が欲しい
- 道路の車線を増やして欲しい

誰もが自分らしく輝ける四日市へ

聖母の家学園 高等部 専攻科 ネクスト

【私たちのアイデア】

- 障害者と健常者が一緒に暮らせる町
- おいしい食べ物がいっぱいの町
- 音楽がいっぱいの町
- ふれあいのイベントがいっぱいの町
- 売店やカフェがいっぱいの町
- 障害者と健常者が共存共栄できる社会

9. 高校生議会意見書

発議第1号

協議テーマに係る意見書の提出について（Aグループ）

意見書を次のとおり提出するものとする。

令和7年11月16日提出

Aグループ

グループリーダー 水谷 愛理

黒住 真

中田 和希

日置 萌衣

藤原 颯来

安田 俊弘

意見書（Aグループ）

高校生の視点から、以下の項目について提案するものです。

記

「高校生議会について」

1. 生徒会や先生から案内されたり、限られた人しか高校生議会のことを知らないで、学校のアカウントとコラボレーションするなどSNSの発信を工夫すること。また、どんなことをやっているかを発信することで、興味を持ってくれる人がいるかもしれないので、内容も発信すること。
2. 学生がよく使うSNSアプリを使って発信すること。ポスターにQRコードをつけてアクセスしやすくしたり、公民の授業など、生徒が平等に情報を受けられる機会に高校生議会を案内することで、広く高校生に知ってもらうように工夫すること。
3. 印象に残るようなポスターになるようにデザインを工夫すること。例えば、流行語を取り入れるなど、参加したくなるようなキャッチフレーズをつくること。また、テーマが決まっていると参加しやすいと考えるので、テーマを記載すること。
4. 議会の出前授業は、映像で学習したり、クイズをしたり、ゲームをすることで興味を持って取り組める内容にし、中高生の間に一回は履修できるようにすること。
5. 高校生議会の開催時期については、テスト期間が終わった週末に開催するなど、テスト期間と重ならないように配慮すること。
6. 高校生議会OB会のような高校生議会のフィードバックの機会を設けること。ただし、参加期間が長くなると参加するハードルが上がるので、任意にする。

「魅力あるまちづくりについて」

1. 年代によって集りたい場所の種類が違うので、利便性のいい場所に銭湯とカフェ、図書館、フリースペースのような、どの世代も利用しやすい施設を作ること。

2. SNSで映えるスポットがある、学生も行きやすいカフェをつくること。
3. 新しい図書館を作ることや中央通りの整備など、市がやっていることを高校生が知らないなので、もっとSNSを利用して効果的に宣伝すること。
4. 大四日市祭をもっとにぎやかなイベントにすること。大四日市祭には多いが、諏訪神社の四日市祭は人が少なく、四日市市の伝統を学ぶ機会がないので増やすこと。
5. 公共交通を充実させること。三岐鉄道や近鉄湯の山線は本数が少なく不便なので、使い勝手のいいように本数を増加させる。また、三岐鉄道はICカードの運用することと、他にも自転車が走りやすい安全な道をつくること。

以上、意見書を提出します。

令和7年11月16日

四日市市議会高校生議会

四日市市議会宛

発議第2号

協議テーマに係る意見書の提出について（Bグループ）

意見書を次のとおり提出するものとする。

令和7年11月16日提出

Bグループ

グループリーダー 山中 樹

岩田 周真

加藤 麗空

川井 彩音

土本 瑞季

羽田 華那

マキモト ナタリエ

意見書（Bグループ）

高校生の視点から、以下の項目について提案するものです。

記

「高校生議会について」

1. SNSの活用

- ①高校生議会についてあまり知られていないので、こにゅうどうくんが動画に登場して、高校生議会をPRすること。
- ②参加特典を事前にあらかじめ伝えて、広く周知に努めること。

2. 高校生議会の知名度を上げる

- ①参加校の数が少ないため高校生議会に参加する魅力を事前に伝えること。
- ②高校生議会の参加者がイベントを主催して、四日市市議会の存在を知ってもらうこと。

「魅力あるまちづくりについて」

1. 空き地、空き家の活用

- ①市が買い取り、駐車場や市営住宅として活用すること。
- ②ホールやジムなどを作り、部活の大会や演奏会などの県単位のイベントを四日市市で開催すること。
- ③ユネスコ無形文化遺産に登録されている鯨船行事の知名度を上げるために、鯨船を保管する場所として活用すること。

2. 四日市市の知名度を上げる

- ①ご当地映画やドラマ、音楽を作ること。
- ②官民連携して、コンビナートで大きなイベントを開催すること。
- ③四日市ドームでフリーマーケットを開催すること。

以上、意見書を提出します。

令和7年11月16日

四日市市議会高校生議会

四日市市議会宛

発議第3号

協議テーマに係る意見書の提出について（Cグループ）

意見書を次のとおり提出するものとする。

令和7年11月16日提出

Cグループ

グループリーダー 服部 統也

尾崎 八重

竹内 理人

戸谷 愛菜

中久木 美月

意見書（Cグループ）

高校生の視点から、以下の項目について提案するものです。

記

「高校生議会について」

1. 案内の仕方に関して、あまり知られていないという課題を解決するため、高校のみに掲示するのではなく、各高校の最寄り駅や商業施設、バス等にポスターを張り出し、市の公式SNS等でも案内すること。
2. 開催日に関して、土曜日や長期休暇に開催し、年2回に分けて開催することでより多くの高校生が参加できるようにすること。
3. テーマに関して、テーマを一つに絞ることで、参加に必要な時間を削減し、多くの高校生が参加できるようにすること。

「魅力あるまちづくりについて」

1. JR四日市駅前に関して、余った空間を利用し様々な人が活用できるフリースペースを開設すること。また、各地区にも同様の施設を整備し地域の活性化を目指すこと。
2. イベントに関して、新たなイベントを設立し、イベントの大小にかかわらず市のSNSや各高校の高校生と連携した広報活動を行うこと。
3. 観光に関して、SNSを用いた広報活動やお茶を用いたスイーツ等をつくることで名産品であるお茶の知名度を上げ、四日市コンビナートの夜景等、四日市といえば、というものを増やすこと。

以上、意見書を提出します。

令和7年11月16日

四日市市議会高校生議会